355
5
402

0051468000

0051468-000

特２７５－５７１

帝国大学入学提要

文信社編輯部・編

文信社

昭和９年度新版

昭和９

AHM

昭和九年度の『帝大入學出願者及入學者表』掲載の豫定でありました處右は文部當局に於て目下調査中でありますため遺憾乍ら印刷の間に合ひませんでしたが遅くも十月中には調査完了の豫定ださうです。就いては右調査完了の場合には早速印刷して御送り致しますから御手數乍ら左記引換券御持參の上本年十一月より來年三月迄の間に於て本書御買求めの書店で御引換下さい。先づは右御詫旁々御願迄。

昭和九年五月

文信社

帝國大學入學提要【附錄】

引換券

昭和九年度帝大入學出願者及入學者表

特275
571

文信社編輯部編

帝國大學入學提要

〔附錄〕入學試驗問題集

昭和九年度新版

東京 文信社 發行

はしがき

高等學校增設に依るその卒業生の激增は大學の入學をして近年一段と困難ならしめ此處にも悲慘なる入學地獄の嗟嘆を叫ばしむるに至つた。高校生諸君の面前には冷やかにも刻々諸君の生涯を決定する唯一の機會が迫りつゝある。大學の選擇！難關の突破！これぞ今や全高校生諸君の頭上に懸る最大關心事でなければならぬ。本書はかゝる情勢の下に於て眞に諸君の伴侶たるべく多年の經驗と最近の調査とに基いて、先に弊社發行にかゝる『帝國大學入學受驗提要』を根本的に改め、帝國大學官立大學の入學試驗問題はもとより、各大學各學科の現況からその卒業生の就職傾向に至るまで凡そ高校生諸君が眞に問はんと欲する所は悉く網羅し、大學の入學參考書として無二の指針たらん事を期したる次第である。

はしがき

尙本書の編輯に當つては日夜高校生諸君の親しき『帝國大學新聞』に直接間接負ふ所が多い。玆に改めて同社に謝意を表する次第である。

昭和四年七月

編者しるす

本書の特色

一、本書は特に東京帝國大學を初め各大學各學科の現況、卒業後の就職傾向を述べ高校生諸君の進路決定に資したり。

一、本書は各大學各學科の入學、入學試驗狀況を述べ入學志願者の參考に供したり。

一、本書は東京帝國大學各學部教授諸先生の入學試驗に關する感想を述べ試驗の眞相を披瀝したり。

一、本書は各大學各學部の最近五ケ年間入學試驗問題を掲げ受驗者の準備に遺憾なからん事を期したり。

帝國大學入學提要　目次

第一　大學並學科の選擇……一
一、冷淡なる現行制度……一
二、學部學科の選擇……二
三、大學の選擇……三
第二　東京帝國大學の現況……六
一、法學部……六
二、經濟學部……七
三、文學部……一〇
四、醫學部……一三
五、工學部……一四
六、農學部……一六
七、理學部……一八
第三　東京帝國大學各學部入學受驗案內……一九
一、法學部……一九
二、經濟學部……二二
三、文學部……二三
四、醫學部……二四
五、工學部……二七
六、農學部……二八
七、理學部……二九
第四　入學試驗に關する東大諸教授の感想……三二
一、法學部……三二
二、經濟學部……三三

三、文學部……二四
四、醫學部……三五
五、工學部……三七
六、農學部……六八
七、理學部……六八
第五　各帝國大學の現況……七九
一、京都帝國大學……八〇
二、東北帝國大學……八三
三、九州帝國大學……八六
四、臺北帝國大學……八八
五、大阪帝國大學……八九
六、北海道帝國大學……八九
第六　各單科大學の現況……八九
一、各醫科大學……八九
二、商業、商科大學……九〇

三、文理科大學……九一
四、東京工業大學……九二
第七　帝國大學及官立大學入學規程……九二
一、東京帝國大學入學規程拔萃……九三
二、京都帝國大學入學規程拔萃……九六
三、東北帝國大學入學規程拔萃……九八
四、九州帝國大學入學規程拔萃……一〇一
五、新潟醫科大學入學規程……一〇二
第八　選科生聽講生に關する入學規程……一〇二
一、東京帝國大學選科生入學規程……一〇二
二、東京帝國大學聽講生入學規程……一〇四
第九　帝國大學入學志願とその順序……一〇五
第十　帝大各學部入學志望者出願者入學者調……一〇六
第十一　東大入學率一覽表（昭和九年度）……一〇六

〔附　錄〕

帝國大學入學試驗問題集

昭和四年度

○大阪工學大學……一
○神戸商業大學……三
○東京文理科大學……六
○岡山醫科大學……一三
○新潟醫科大學……一五
○千葉醫科大學……一八
○京都帝國大學醫學部……二〇
○京都帝國大學文學部……二四
○京都帝國大學農學部……二六
○京都帝國大學工學部……二八
○東北帝國大學醫學部……三六
○東京帝國大學法學部……四一
○東京帝國大學經濟學部……四四
○東京帝國大學醫學部……五〇
○東京帝國大學理學部……五五
○東京帝國大學工學部……五七
○東京帝國大學文學部……六〇
○東京帝國大學農學部……六五
○九州帝國大學醫學部……六五
○九州帝國大學工學部……六六
○九州帝國大學法文學部……六六
○九州帝國大學農學部……七一
○東北帝國大學理學部……七五

昭和五年度

○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……四
○東京帝國大學工學部……一〇
○東京帝國大學理學部……一三
○東京帝國大學醫學部……一六
○東京帝國大學農學部……一九
○東京帝國大學文學部……二一
○東京帝國大學……二六
○東京文理科大學……二八
○東京工業大學……三二
○東北帝國大學理學部……三九
○京都帝國大學……四九
○京都府立醫科大學……五三
○大阪工業大學……五三
○長崎醫科大學……五五
○大阪醫科大學……五八
○岡山醫科大學……六二
○愛知醫科大學……六三
○千葉醫科大學……六五
○金澤醫科大學……六七
○東北帝國大學……六八
○東北帝國大學法文學部……七〇
○東北帝國大學工學部……七五
○京都帝國大學工學部……七七
○京都帝國大學理學部……八〇
○京都帝國大學醫學部……八三
○京都帝國大學農學部……八五
○京都帝國大學法學部……八八
○大阪商科大學……九二
○廣島文理科大學(第一次)……九五

○廣島文理科大學(第二次)……九九
○旅順工科大學……一〇四
○九州帝國大學法文學部……一〇四
○九州帝國大學工學部……一一三
○九州帝國大學農學部……一一六
○九州帝國大學醫學部……一二〇
○新潟醫科大學……一二二

昭和六年度

○東京文理科大學……一
○京都府立醫科大學……九
○大阪工業大學……一〇
○大阪帝國大學醫學部……一三
○千葉醫科大學……一六
○金澤醫科大學……一八
○岡山醫科大學……二二
○長崎醫科大學……二四
○廣島文理科大學……二六
○東京帝國大學法學部……三二
○東京帝國大學經濟學部……三五
○東京帝國大學工學部……四一
○東京帝國大學理學部……四五
○東京帝國大學醫學部……四八
○東京帝國大學文學部……五一
○東京帝國大學農學部……五四
○東北帝國大學醫學部……五五
○東北帝國大學法文學部……五九
○東北帝國大學理學部(第一次)……六三
○東北帝國大學理學部(第二次)……六七
○東北帝國大學工學部……六九
○九州帝國大學法文學部……七五

○九州帝國大學醫學部……八二
○九州帝國大學農學部……八五
○九州帝國大學工學部……八八
○京都帝國大學醫學部……九一
○京都帝國大學法學部……九五
○京都帝國大學理學部……九九
○京都帝國大學農學部……一〇〇
○東京工業大學……一〇四
○神戸商業大學……一〇八
○名古屋醫科大學……一一三
○大阪商科大學……一一四
○東京商科大學……一一九

昭和七年度

○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……四
○東京帝國大學工學部……一二
○東京帝國大學理學部……一五
○東京帝國大學醫學部……一八
○東京帝國大學文學部……二一
○東京帝國大學農學部……二五
○京都帝國大學理學部……二九
○京都帝國大學法學部……三三
○京都帝國大學經濟學部……三六
○京都帝國大學農學部……三八
○京都帝國大學醫學部……四二
○京都帝國大學工學部……四六
○京都帝國大學文學部……五三
○京都帝國大學理學部……五四
○東北帝國大學醫學部……五八
○東北帝國大學工學部……六四
○東北帝國大學理學部……六五

○東北帝國大學法文學部……七二
○九州帝國大學醫學部……七三
○九州帝國大學農學部……七五
○九州帝國大學法文學部……七六
○九州帝國大學工學部……七七
○東京文理科大學……八〇
○廣島文理科大學……八〇
○東京工業大學……八五
○新潟醫科大學……八九
○岡山醫科大學……九一
○千葉醫科大學……九三
○金澤醫科大學……九四
○大阪帝國大學醫學部……一〇〇
○名古屋醫科大學……一〇二
○熊本醫科大學……一〇三
○東京商科大學……一〇五

○神戸商業大學……一〇六
○旅順工科大學……一〇八
○大阪工業大學……一〇九
○九州帝國大學工學部……一一二

昭和八年度

○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……五
○東京帝國大學工學部……一〇
○東京帝國大學理學部……一三
○東京帝國大學醫學部……一六
○東京帝國大學文學部……一九
○東京帝國大學農學部……二二
○東京帝國大學法學部……二五
○大阪商科大學……二五
○京都帝國大學法學部……二六

○京都帝國大學經濟學部……二六
○京都帝國大學農學部……二六
○京都帝國大學醫學部……二七
○京都帝國大學工學部……三〇
○京都帝國大學理學部……三二
○京都帝國大學文學部……三四
○京都府立醫科大學……三六
○九州帝國大學醫學部……三六
○九州帝國大學法文學部……三八
○九州帝國大學醫學部……四六
○九州帝國大學農學部(第一次)……四八
○九州帝國大學農學部(第二次)……五二
○九州帝國大學工學部(第一次)……五四
○九州帝國大學工學部(第二次)……五七
○熊本醫科大學……五九
○名古屋醫科大學……五九
○新潟醫科大學……五九
○東北帝國大學工學部……六〇
○東北帝國大學醫學部……六一
○東北帝國大學理學部……六二
○東北帝國大學法文學部……六二
○大阪帝國大學醫學部……六六
○大阪帝國大學工學部……六九
○岡山醫科大學……七四
○千葉醫科大學……七六
○金澤醫科大學……七八
○長崎醫科大學……八一
○廣島文理科大學……八二
○旅順工科大學……八三
○東京商科大學……八五
○神戸商業大學……八九
○東京工業大學……一〇一

○東京文理科大學……一〇四
○京都帝國大學農學部(第一次)……一一三
○京都帝國大學農學部(第二次)……一一三

昭度九年度

○東京帝國大學法學部……一
○東京帝國大學經濟學部……三
○東京帝國大學文學部……八
○東京帝國大學工學部……一三
○東京帝國大學理學部……一五
○東京帝國大學醫學部……一八
○東京帝國大學農學部……二〇
○京都帝國大學工學部……二三
○京都帝國大學醫學部……二五
○京都帝國大學法學部……二八
○京都帝國大學經濟學部……二八
○京都帝國大學文學部(第一次)……三六
○京都帝國大學文學部(第二次)……三〇
○京都帝國大學理學部(第一次)……三六
○京都帝國大學理學部(第二次)……三七
○九州帝國大學法文學部……三八
○九州帝國大學醫學部……四五
○九州帝國大學農學部(第一次)……四七
○九州帝國大學農學部(第二次)……五〇
○大阪帝國大學工學部……五五
○大阪帝國大學醫學部……五七
○東京商科大學……六〇
○神戸商業大學(第一次)……六〇
○神戸商業大學(第二次)……七二
○大阪商科大學……七五
○京都帝國大學法學部……七六

目次

○東京文理科大學……七
○廣島文理科大學……八
○名古屋醫科大學……九
○岡山醫科大學……九
○長崎醫科大學……九
○熊本醫科大學……九
○金澤醫科大學……九
○千葉醫科大學……一〇
○東北帝國大學工學部(第一次)……一〇
○東北帝國大學工學部(第二次)……一〇
○九州帝國大學工學部……一〇
○旅順工科大學……一一
○東北帝國大學醫學部……一一
○東北帝國大學理學部……一一
○東北帝國大學法文學部……一一

帝國大學入學提要目次 終

帝國大學入學提要

文信社編輯部編

第一　大學並學科の選擇

一、冷淡なる現行制度

現在の高等學校は高等普通教育を授ける處であつて大學の豫科（勿論今でも北海道、京城、東京商科大學の如く依然たる豫科制度の大學もあるが）ではなくなつた。しかし事實は高等學校を卒へたのみでは社會が相手にしないし又學問の研究も單に糸口を與へられたに過ぎないもので、社會に職を求め、研究を續けるにはどうしても大學の門をくゞらねばならない。處が大學の豫科でないと云ふ形式上の制度は高校卒業生の大學志望と云ふ重大なる問題を稍々もすれば冷淡視勝ちの傾向を持つ、それは文部省もそうであるが大學當局もそうである。或る高校卒業生は三年も或大學を受驗して不幸落第した遂に彼は行く處がなく同僚より

三年も後れて辛ふじて某私立大學に入學した。こうゆう例はいくらもあることだがそうなつたからとて當局は彼に一鞠の同情も持たない、責は彼にあるからであらう。制度がこうある以上我々は悲憤の涙をこぼしても如何とも仕難い、たゞこの制度の下に於てはよく〳〵自分の能力、將來の仕事と云ふことを見極め充分熟慮した上で高校卒業後は如何なる大學、如何なる學科に向ふべきかについて態度を決せねばならぬ。

二、學部學科の選擇

高等學校は文科理科に分れるのみであるが、大學は愈々專門化するのであるから文科系統は法科、經濟科、文科更に此等は又細分され專門化されてくる、理科系統では工科、醫科、理科、農科等に分れそれが更に細分されること亦同樣である。而して同じ文科系統でも分れた各部の相違は實に天地の差も甚だしいものがある、そうしてそれは又單に攻究する科目の差異のみならず卒業後のかくして一生の生活を支配する處のものである事を知るに及んで、この時この際に於ける專攻學部、學科の選擇は實に徒らでない事を知らねばならぬ。尤も人間は或程度までは物に對する適應性があるのであつて住めば都のたとへ、多少の差異は無視してもいゝ場合もあるが、これも程度問題で自分の不適當の學科を出たゝめに大學生活を棒

に振つたと云ふ例も少くはない。よく世上彼の專攻の學科と似もつかぬ仕事をしてゐる人々を見受けるがかゝる人は此部類へ入る人たちであつてそうなる事は決して幸福であつたとは云へないのである。然して又高等學校の理科、文科の區別は單に豫備教育であるからそれほどではない。變則ではあるが、理科から出て文科系統に行つてゐるものもあるし、或學科に依つては却つてその道を通るが便利なる場合もあると云ふ、勿論この場合理科出身者は文科系統で既に滿員になる科には志望出來ぬし、又文科出身者は理科系統の第一次で滿員になる場合には志望しても無効であるから、必ず缺員があると見える學科のみにゆるさるべき事でこの變則は適用の範圍は狹いと見なければならぬ。だが大學を出る時はその學科は一生を支配し、就職の先まで決定するものである事を注意せねばならぬ。學科の選擇まことに重要なりと云はざるべからず。然らば如何にして學科を選擇するか、それは勿論先輩、知人、父兄等に相談するもよかろうが最もよく己を知るものは己である故先づ自ら充分研究すべきであらう。參考まで主として東大の各科の內容を別項に紹介しようと思ふ。

三、大學の選擇

最後に大學の選擇は最も喫緊なる關係があるから注意が肝要である。この問題は一ばん我々の頭

を瞞ます問題であると思ふ。何となれば或大學（主として東京）を志望して入學出來ればよし、出來なければ次には第二志望と云つて最後にまわらねばならぬ。第一志望の場合には無試驗で易々として入れた處へ第二次に廻つた爲猛烈なる競爭試驗を受けねばならなくなり（例へば文科系統の學科で缺員あれば理科系統の志望者を容れ更に缺員ある場合は高等師範學校、高等商業學校その他の專門學校出にして學部の檢定試驗に合格したものはその缺員に志望する資格があり　第二次となるとこれ等の人々と一しよに受驗せねばならなくなるので一層困難になつてくるわけである。）萬一そこに失敗すれば今年は大學入學を棄權しねばならないと云ふ重大なる結果になるのである。だからと云つて初めから志望者の最も少い處を選んだなら無試驗で大學へ入る事は出來ようが自分の意に反する—自分は最も設備のとゝのつた立派な地の利を得た大學を希望してゐるんだ—結果となる。誰しもやがて自分の母校となるべき大學は地の利を得た、就職にも比較的便利な、設備の整備した、古き、立流な教授先輩の多き大學を望む事は當然である。學科に依つては卒業後の活動範圍がその大學の所在地に依つて制限されると云ふ事もあるならば尙更のこと、他に比して、東大がこの點にめぐまれてゐる事は周知の事である。此處に冷靜に熟慮しなければならない問題がある。東大

へ向はんかそこにはまれに見る難關が控えてゐる。年々の東大を見るに別表の如く法科では收容六五〇に對して實に千百餘名の志望。醫學部に在つては收容一六五に對して五九〇の志望（別項參照）と云ふ驚くべき數字を示してゐるのである。そこで勇敢に飽くまで戰ひ拔く氣力と能力とを持つものは、男子だ、どし〳〵難關にぶつかるべし、げに一年位よし棒に振るとも一生の長きに比すべくもあらずである。まことに然り人生は競爭であるその競爭に打勝つてこそ男子の本懷である。だが少なからざる悲劇の實例を見る事を好まざるものは、又は世利に超然たるものは又は單に資格を得ようと云ふものは（醫師、敎員等の）何を好んで

競爭試驗に行かう。比較的易い京都、東北、九州へ行くがいゝのであるし、又そうあるであらう。眞に學を好むものはそんな俗氣でまよわされてはならぬからである。最後にも一度注意しておく事は此場合でも學科の選擇は先決問題であると云ふ事である。例へば醫者にならうと思ふには先づ醫科へ行く事が先決問題で然る後何處の大學の醫科を選ぶかと云ふ問題になるわけで、學科を先づ定めてさてどの大學へ行くべきかを決するが順序である事は云ふまでもない。我々飽くまで冷靜に考へ決定したならば勇敢に進む事である。

第二　東京帝國大學の現況

一、法學部

法學部は更に法律學科及政治學科の二學科に分たれる。この二學科の區別はその履修科目の別に依るのであるが、將來卒業後にも出身學科に依つて幾分左右されることをまぬがれないから、入學に際して內容を知つておく必要がある。たゞし入學後に於ても一定の期間教授會の議を經て轉科を許される規程があるから、どの科をやるべきかは入學の後に決しても支障ない。

(1)　法律學科　法律學科は政治學科に比してその名の如く法律を專門に學ぶに適しておるから卒業後就職するに當つてもその方面に行くに好都合である。司法官、辯護士、官吏、外交官となるには高等文官試驗に合格しなければならないが、此等の受驗には法科、中でも法律科の出身が一番都合がいゝ。これは勿論法科(法律政治)に限つた事ではなく各自の勉强如何に依つて運命は決するのであるが、兎に角官界に於ける東大法科閥(或は語弊があるやも知れず)の根ばりはすばらしいもので殆んど絕對的と云つても過言ではない。だから志を立てゝ官界へ出よ

うとするものがあるならばすべからく東大の法科へ行くべきである。最近高等試驗令が改正されたがまだ何と云つても高等試驗は法律萬能である事を併せて注意しておく。今この法律學科にて履修すべき科目を擧げれば。

必修科目　憲法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、外國法。

選擇科目　行政法、國際公法、國際私法、ローマ法、法理學、法制史、西洋法制史、經濟學

(2)　政治學科　政治學科は純法律よりもその名の如く政治、經濟、その他政策ものを主たる學科としてゐる。勿論卒業後は法律科と同じく官界に特に外交官に向ふものも少くないが、概して云へば、銀行、會社等の方面に多い。そして在學中も困難なる科目が割合少い事が法律科に比べて異つてゐる。

必修科目　憲法、國法學、政治學、行政法、國際公法、經濟學、財政學、政治史、外交史、民法。

選擇科目　統計學、政治學史、社會政策、社會學、商法、刑法、國際私法、法制史。

二、經濟學部

東大經濟學部が法科から獨立したのは大正八年、その頃は經濟學部の入學はいつも無試驗であ

つたが最近は志願者急激に增加してゐる。文科系統の就職の大部分が實業界にある以上初めから實業界を志すものは法科よりも經濟科の方をより適切であるとする。それに法科に比して人數が少く經濟、商業兩方で三百五十名、就職も樂だと云ふわけであらうか。經濟學部にあつては法科とちがつて入學後經濟、商業間の轉科はゆるされてゐないから志願者はあらかじめ態度を決めておかねばならない。そして四五年前までは商科は定員に滿たない場合があつて經濟をおちて商科へ廻された場合もあつたが今後はそんな事は考へられない。先づ兩者殆んど同じ位と見るが至當であらう。尙商科は從來割合に好まれてゐないやうであるが、それは履修科目に幾分面倒なものがある爲であらうか、だが就職は却つてこの方がよろこばれてゐると云ふことである。政策的な知識よりも銀行會社で實際に必要なテクニックを敎へるのが商科であるから將來は益々世間から歡迎されるであらう。

(1) 經濟學科　經濟學科は商業學科に比し理論的、政策的のものが多い。又選擇科目には法科系統のものも相當多い。法科を出すして文官試驗を受けるもの丶多いのも之が爲めであらう。一面官界にも向き經濟界にも向く點がこの科の便宜である。今履修科目を擧げれば

必修科目　經濟原論、經濟史、貨幣論、銀行論、農業政策、工業政策、統計學、保險學、財政學、民法、商法、經濟學史、商業政策、交通政策、社會政策、殖民政策、第一外國語經濟學。

選擇科目　會計學、經濟地理、國際金融論、取引所論、政治學、社會學、哲學、憲法、行政法、刑法、國際公法、國際私法、第二外國語經濟學、演習、特別講義。

(2) 商業學科　商業學科は經濟科に比して商業の實踐的のもので而も科目が多い。從つてこれ等の科目は政策的な理論的のものより勉强にも努力を要することになる。これが一般にこの科の好まれない點であるが、一方銀行に行き會社へ行けば皆すぐ必要なことで却つて商科の方が歡迎されるのはこれが爲めである。

從つて商科を出れば殆んど大部分銀行、會社へ行くやうである。

必修科目　會計學、商事經營學、商業數學、經濟地理、商業史、商業英語、經濟原論、貨幣論、銀行論、統計學、保險學、民法、商法、工場經營論、國際金融論、取引所論、貿易理論、貿易實務、商品學、商業政策、財政學。

選擇科目　工業會計、銀行會計、倉庫論、生命保險論、海上保險論、工業通論、商業學、交通政策、社會政策、憲法、行政法、國

際公法、演習、特別講義。

三、文學部

東大文學部には凡そ十七の學科がある。各科の相違この位千差萬別のところはない。同じ文科と云ふ名前の中に專攻によつて全然行き方がちがつて來るのである。勿論入學に當つては、入學試驗のある場合(大概あると見るべし)はその試驗の成績如何で左右されざるを得ないが從令文科に入つたとしても科に依つては自分の目的と似もつかない所に押し込まれる恐れがある。例へば英文學をやらうと思ふものが哲學へ入つたり、倫理へ入つたりしたとしたら全く志望に背反した結果になるであらう。入學試驗のことに關しては別に更に述べるとして、入學せんとするものはあらかじめ科目を定めてそれを順次に第一志望、第二、第三、と決しなければならぬ、であるから豫め充分に學科について研究をしておく必要がある。そして試驗を經て來るのであるから入つてから轉學はゆるされないわけでこの點特に注意を要する。次に卒業するにはそれ〴〵專攻について論文を提出しなければならない論文は更に口述を經て合格するがこの論文には各自大部精力をつかつてゐる、がそれだけ學科の試驗は他の學部に比して容易のやうである。

文科の卒業生は就職するとすればその大部分は教員となつてゐる。勿論銀行會社員、官吏、新聞記者、文士等に向ふものも相當の數に上るが過半は教員である。而して各科とも在學中試驗科目の配列に依つて中等教員の資格は勿論、高等學校教授の資格も得られるのであるから一層便利のわけである。

今十七學科の各科目を擧げれば左の如くである。

(1) 國文學科　主として國語及國文學について研究する。一ばん普通の學科で範圍が廣いだけ卒業後も働く口も多く、教師、作家等に好都合である。

(2) 國史學科　專ら日本歷史について研究し同じく教員に向ふを普通とする。

(3) 支那哲學支那文學科　支那哲學、支那語學、支那文學について習ふと共に漢文の教師になるものが多いが新聞記者などもでゝゐる。

(4) 東洋史學科　は東洋史につき。

(5) 西洋史學科　は西洋史學につき習ふ。

(6) 哲學科　宇宙、人生の哲理を極めんと欲する好學の士の進むべきところ、單なる就職の方便によるよりも寧ろ科目の性質上獨自の研究に向はんとする傾向が多い。

(7) 印度哲學梵文學科　梵語梵文學の他主として佛教の哲理について學ぶ。僧侶になる人には最も適當であらう。

(8) 心理學科　は心理學。

(9) 倫理學科　は倫理學について學ぶが倫理學はいはゆる修身の教師には持つて來いである。

(10) 宗教學宗教史科　は宗教學並に宗教史。

(11) 社會學科　は社會學を講ずる。この科は人數も多く社會的の學問であるから卒業後は色々の方面に向ふものがある。新聞記者、社會事業家、役人などその一例である。

(12) 教育學科　は教育學を、教員向き。

(13) 美學美術史科　は美學美術史を習ひ。

(14) 言語學科　は言語學を學ぶ。

(15) 英文學科　は英語並に英文學。

(16) 獨文學科　は獨逸語並に獨逸文學。

(17) 佛文學科　は佛文、佛語學を何れも收容數の多い大きい學科である。と共に一般向の語學であるだけ教師には勿論職を求むる道は他に比してはるかに有利のやうである。

以上各學科について、特色、科目を述べたが出身學科が必しもいつも常に本人の志望を束縛するものであるとは限らない。之は各學部共通の事であるがたゞ便利であると云ふに過ぎないわけであることを注意しておく。

四、醫學部

東大醫學部は醫學科と藥學科の二科に分れてゐる。云ふまでもなく醫學科は四年、藥學科は三年である。同じ醫學部の中にあつても醫學科と藥學科とは全然異なるものであるから豫め知つておく必要がある。第一醫者になるには醫學科を出なければ資格がない。藥學科のみでは藥學士で藥劑士にはなるが、醫學士でないのである。尤も醫者と藥とは離られぬ關係があるし藥學の研究は醫學と共に進んで初めて人間に幸福を齎すものであるがその仕事は全然別なものである。然して又志望に際して注意しておく事は如上の關係にあるのであるから藥學を三年やつて履修しても醫學科へ優先入學するの資格はない。若し藥學士にして醫學士たらんとするには高校卒業生と同樣入學試驗を受けねばならないのである。今醫學部の講座を參考の爲列記すれば

解剖學(講座數三)、生理學(二)、醫化學、病理學、病理解剖學(二)、藥物學(二)、內科學(三)、內科物理療法學、產科學、婦人科學(二)、小兒科學、外科學(三)、整形外科學、眼科學、皮膚科學、泌尿器科學、精神病學、衞生學、黴菌學、法醫學、血清科學、耳鼻咽喉科學、齒科學、藥學(二)、藥品製造學。

近來の不景氣就職難の折から醫者だけは食ひはぐれがないとばかり各大學醫學科は何れもおすな〳〵の盛況であるが、それほど醫者は景氣がいゝ

ものかどうか、成程食ふ道には困らないかも知れぬが醫者の中でもい、醫者になり分けて博士號位をとらうと云ふにはどうしても大學へ殘つて三四年位薄給の苦しい研究を續けねばならない。こ、の卒業生も各教授の下に殘るものが一番多く、就職するとすれば陸海軍、鐵道、赤十字の病院、傳研、駒込、泉橋病院、等に行くか市内一流の病院に入るかで、流石は背景が大東京を控へてゐるだけ地方へ行くものは少いと云ふ。先づ他に比べて景氣がい、と云ふべきか不景氣知らずは事實であらう。

五、工學部

機械文明の樞軸を動かし、その土臺となつて之を背負つて立つものそれは工業技術者である。而もあらゆる工業技術者を養成する筒も工業に關する學科は全部こ、に網羅されてゐる。

東大の工學部は土木、機械、船舶、航空、造兵、電氣、建築、應用化學、火藥、鑛山及冶金の十學科を置く。各學科の區別は嚴然としており入學後の轉科等勿論ゆるされない。されば建築、電氣、機械、土木の如き實行の比較的い、學科は大學の入學試驗中最も難關とさへ云はれる程受驗者が殺倒する。そして卒業後も出身科に依つて左右されるのであるから科目の撰擇については特に豫め注意しておく必要がある。就職については最も他の學

部からうらやまれてゐるがやはり依然として（醫學部は別として）學内隨一と云つてもい、位、もう五月になれば卒業者三百十餘名の中八九割は何れかへ寶れて行く、而もその中役人が一番多く、次が三菱系の諸會社、滿鐵その他の順といふわけである。勿論前述の如く科別に依る優劣は爭へないが。

本學部は近年學制改革の結果現在各科の授業科目を一括して單位別としその撰擇履修を自由ならしめてゐる。卽ち例へば航空科に居ても建築の講義が聽講が出來ることである。但し專門的な實驗製圖等の設備は各學科に於て制限があるので當該所屬の學生に對して先取權を與へてゐるのみならずそれ〴〵專門的な研究に進んでゆくからには前項の自由撰擇の趣旨が學科を超越することはあり得ない。要するに學生の修業の便宜に出でたものであつて、就職に當つては出身科の拘束を受けることは他と變りがないのである。

前述の如くこの部の就職先は大體官廳技術員、會社技術員をその大部分とし、敎員等之に次ぐ。中にも土木、機械、電氣、建築、應化等が官民を通じて受けがよく、船舶、造兵、航空、火藥等は軍部方面と特殊な關係があるのでこれも失業の心配はない。應用化學、鑛山冶金は主として民間でことに前者は好景氣時代に於ては實にすばらしい勢であつた。後者は主として滿鐵民間鑛山等である。要するに工學部は一つの技術を授けるのであ

るから他に比して地味ではあるが確實なる將來を持つ事は爭はれない事實である。

六、農學部

農學部は農業に關する學理と實際を研究するのであるが他の學部中最も地味な學部である。土の生活即大地についた生活を送るのはこの學部である。收容する學生も多くないが卒業後の就職にアブレるやうな事は少いと云ふから落付いた呑氣な學生生活が送られるわけだ。學部は六學科に分る。

(1) 農學科　主として農業生産に關する技術と學理の研究即ち氣象學、土壤學、作物學、園藝學、畜産學、養蠶學、農業經營學等の講義の他に植物、動物に關する實驗から農業實習の實習も行ふ。尙この課には農業土木專修科が特別に設けられてあるがこれは耕地整理や開墾等に從ふ專門技術者を養成するが目的である。卒業後の行先は何れも農業技師、教員等が大多數である。

(2) 農藝化學科　こゝでは農業の生産物や農業上に利用される諸物質の化學的研究をする。例へば土壤や肥料の科學的性質の研究とか、食糧品の榮養、酒、ビール醬油の醸造に關する研究が行はれるつまり化學を農業方面に應用し、農産物を化學的に處理加工するなどもその仕事である。

(3) 林學科　山林に關する研究を行ふ。氣象學、地質學、土壤學、測量學等から造林學、森林保護學、同利用等と對象がすべて山林であつて、これは至るところに廣大なる面積を持つ演習林についても實施に研究する。卒業後林業に關する方面に行く事勿論である。

(4) 獸醫學科　家畜の醫者になるのであるが內科學、外科學、產科學、傳染病學、細菌學、免疫學、藥物學等醫學に似た方面もあるし又馬學、蹄鐵學等もある。就職は陸軍初め割合に良好である。

(5) 水產科　水產は農業ではないが便宜上農學部におかれてゐる。云ふまでもなく水產物に關する基礎的學理の研究、漁撈、養殖、加工に關する理論實驗も行ふのである。

(6) 農業經濟學　寧ろ文科系統に屬するものであらうが、農業に關するを以て農科においたものらしい、農業經濟と農業政策に關する研究を行ふ。

農業の根本知識たる、肥料、土壤、作物、園藝、畜產等を聞く傍ら民法、憲法、農政、林政、財政、殖民政策、社會學、統計、農業經營等と門戶が廣い。いやしく農業とその經濟的研究では網羅してゐるのである。割合に便利な科で就職には技師、小作官、教員等比較的いゝとの事である。

七、理學部

理學部は人數の點から云へば最も少さい學部である。而も科目が十にも分れてゐるのであるから各科の收容人員は五人から八人多くて三十人位ほんとの專門教授が行はれるわけである。出身者の中最も多いのは文學部と同じく教員であり、次が官廳民間技術員であることは工科にも似てゐる。とに角理化學方面の技術家であることゝ、同僚卒業者の數の少い事は就職に當つて特に不景氣のこの頃でもあまり困難しない特點も持つ、俗塵を追はず靜かに自然を友とし宇宙を對象として悠々研究に耽けらんとする好學の士にはもつて來いのところと云はざるを得ない。入學に當つて注意すべき事は(理科系統の方面では何れもそうであるが)或る科を卒業すると云ふことは一つの特殊なる技術を習得することであるから就職に當つて嚴然と區別されることである。今各課について見よう。

(1) 數學科　代數、幾何、力學等すべて數字ばかり卒業後は殆んど學校の教師に行くやうである。理學部の中で就職には困つた事のない科。

(2) 天文學科　數學、物理、光學、天文學、天體觀測等を主なる科目とする。收容人員僅かに五人、行く先は氣象臺研究所方面。

(3) 物理學科　は專ら物理學。

(4) 化學科　は化學について專攻すること變りはない。兩者とも教師、研究所の他に製造、工業會社方面に相當多くはけ口を持つ。

(5) 動物學科

(6) 植物學科

(7) 地質學科

(8) 鑛物學科　多くは學校教師であるが地質、鑛物は工學部鑛山冶金と共に鑛山、製鐵所等へも行く道がある。

(9) 地理學科　地理學は一寸理學部とは緣め遠いやうに見える科、自然地理の他に人文地理、經濟地理などもある。

(10) 地震學科　地震學科は設立新しい專ら地震について研究するが我が地震國に在つては益々重要視されるであらう。

第三　東京帝國大學各學部入學受驗案內

一、法學部

毎年の法學部受驗者は收容數六百五十名に對して一千百數十名、實に五百數十名の超過を示して

ねる。毎年漸増の一方であるがこれ高校の増設の結果であつて見れば止むを得ないがも早この邊が頂點ではあるまいか、來年もまづこの位と思つてゐれば大差はない。或は却つて今年あたりからは高校の收容數を減じてゐるからむしろ二三年の中にはこの比率はもつと下るかも知れぬ。

法學部の入學試驗は從來單に語學即ち歐文和譯と和文歐譯とがあるだけでその他はやらなかつた慣例から當分このまゝ續く事であらう。外國語は英、獨、佛、何れでも隨意である。そして各語學の受驗者數に依つて按分比例して入學者を決めるのであるから受驗の語學に依つて損得はない事になつてゐる。毎年志願者は英語が一番多く大體六百五十、獨語三百七八十、佛語百二三十位の割合であらう。試驗問題の傾向については別項問題集について研究することをお薦めするが何と云つても特殊な文學的のものより日常の常識的な雜誌等について訓れておくが一番いゝと思はれる。

次に受驗に當つて例年の如く國漢の力も考査するとあるが字をきれいに書いて誤字脫字のないやうに、あまりまがりくねつた言葉づかひをせぬやうに注意すれば他は口語體でいゝわけだから、別に六づかしい事はないわけである。その他體格ではねられるものは殆んどない。それから高校の秀才がよく入學試驗で落ちる事があるが、それかと云つて大學の考査が特別變つてゐるとは思へない。

よく單時間の間に成績を決めるのであるから考査が杜撰ではないかなどゝ云ふ風評もあるが、その點は大學の教授を安心して信ずる事である。先づ入學準備としては語學一つをガッチリものにしておくことである。

二、經濟學部

毎年の經濟學部の受驗者は經濟學科は收容數二百名に對して約四百名位、商業學科は百五十名に對して二百・三百名何れも相當の超過を示してゐるが法科に比するときだ幾分樂のやうであるから、或は增加するとも減ずる事はないかも知れない。こゝも法科と同じく收容數を增す噂もあるがそれも來年と云ふわけには行くまいから、結局一倍半か二倍近い志願があると見ねばならぬ。たゞ從來の例から見ると商科が年により增減が多かつたが、これとても無試驗を望む事は不可能である。否却つて增加するかも知れない。

經濟學部の試驗は各學部中一ばん簡單で數年來單に歐文(英、獨、佛)和譯のみを課するを例としてゐた但し學部規程には高等學校に於て履修したる科目に付之を行ふとある故他の科目もないとは云へないから注意を要する。その他受驗語學は自分の履修したるものである事法科と同じである。試驗の成績は全然發表されない事になつてゐるが、兩科を比較したら幾分商科の方がおちるやう

である。入學試驗問題の傾向は別項問題集に依つて研究すればわかるが、深い文學的なるよりも日常のプラクチカルな新聞雜誌等に親しんでおくがいゝやうだ。兎に角原書になれる事は何時になつても必要な事であるから暇のある高校時代に、受驗準備を的にかけつゝ勉強するといゝと思ふ。その他體格の點、語學別に依る受驗者は法科と同じく按分比例に依るのであるから優劣はない。試驗答案で國語の力も考査するがその點も法科と同じ意味であらう。人員が超過するとなれば理科から入學は望めないがこの科のみは學士入學を許してゐるから學士になればどの科を出ても無試驗で入學がゆるされる。

三、文學部

各學部は從前通りの試驗制度をとるに反しひとり文學部のみは前年度と變つた制度を作りあげた。今度改正された第一眼目は文學部は收容人員を四百名と確定した事だ。內規の第一項「文學部の收容人員は每年志望者の數と並に授業の都合とを考慮したる上にてその都度これを定む」とあるは前年度の樣に社會學は二十五名とるとか美學は三十名とるとかとその定員を定めずに、志望者の多寡によつてその收容する人員を增減するのである。例へば社會學を志望する人が本年非常に多いときはその科の授業に差支へない限り出來るだけ多數とるのである。然し根本標準は前年度の人員が大體參考となる。この樣に各科共に授業の都合のつく限り收容するとしても全學科定員の四百名はどうしても越すことは出來ないのである。まづ志望學科を第一から第十七まで記入する。これは第一志望に定めた學科が收容人員を超えない場合はフリーパス、超過して振り落された場合は第二第三と不足の科に成績に應じて割り當てられる。試驗科目は外國語、國語、漢文の外に、哲學概論及び倫理學、心理學及び論理學、國史及び東洋史、西洋史の四つの中の一つを每年抽籤によつて定め、每年三月三日頃その年の科目を發表する。こゝに注目されるのは高校の成績をも考慮するといふことで、第二・第三志望へ振りまわされる時その參考にするのであらう。

これは殆んど豫想されないがその總數が四百人未滿の場合は更に選拔試驗の成績を標準としていまだ餘裕ある科は第二志望者を收容し尙足りない時は第三・第四・第五……志望者からとる事となる。このために志望を十七もならべる事も許されて居るのだ。萬一志望者總數が四百人に滿たなかつた場合は前年度と同じ樣に志望者の多きに過ぐ

る科のみが試験を行ひ他は無試験入學となるわけであるが近年は東京集中傾向であまり無試験を期待するわけにはゆかぬ。尚從來は理科出身者にして文科へ志望して入つたものが多かつたが、志望者收容人員に超過の場合はそのまゝ無効になるから一つの冒險である。しかしまれにある定員に達しない場合は勿論ゆるされる。大體文學部は國史・國文・西洋史・英文・獨文などは相當激烈な試験が課せられてゐる。無試験入學の出來るのは、梵文宗教位のものであらう。

四、醫學部

工學部の一部と共に最難關と云はれるが醫學科の試験である。此處を突破しようと云ふものは相當の自信がなくてはいけない。だがこの自信をもつものが高校のいわゆる秀才のみであるとは誰も云はないし又事實がすべてを示してゐるから安心すべきである。否却つて昨年の如きはボートマンにしてよく解き得るやうな物理の問題を出したあたり醫學部のねらつてゐるところは案外單なる勉強家ばかりではないかも知れぬ。

それはともかくとして醫學科の試験課目は例年通り來年も試験當日までは發表されず、これ又高校生諸君に恐慌を來さしめるもとであるがこゝ數年のところを見ると、語學、數學、物理、化學、生物學の五課目が出てゐる（唯大正十三年のみは生物學の代りに動植物學が出てゐる）來年もこれと同じと思はれるが、語學の外に何が課せられるかは保證出來ない。

その中語學は英佛獨の三ヶ國語の中どれかについて和文歐譯、歐文和譯をする。而して獨文和譯、和文英譯と譯讀について外國語を異にしてもよい。譯讀はいづれも細かいところよりも全體をつかむ事に重きを置いてゐる樣子。これは他の學科についても同樣で、試験勉强をせずに實力でゆけといふのが此處の方針である。

一昨年から行つてゐる口述試験はやはり行ふであらうが、學科に關するものではなくごく簡單な平易なもので、採點にはほとんど關係しないとの事である。高校在學中の成績表および體格檢査表は昨年から提出させてゐるが、これも同高校出身で同點者あつた際、その及落を決定するのに參考する位なものでそれ以外の場合は決して問題としない。

體格檢査は非常に嚴重であるそれは他學部に比して授業時間數が多く强健の者でないと四年の勉學に耐え難いからである。不具等の先天的の疾患は全く重きをかぬ。色盲の如きも重いのでない限り許可する。體格檢査でもつとも重視するのは內臟疾患の有無およびトレーニングによつて得た體格か否か、今後尙延びる可能性ありやの二點で呼吸器病等に對しては殊に嚴重である。體格について採點はするが、工學部の如く學科の得點に加算して、及落を決定するといふ事はないと云ふ事である。

本年の如きも約四倍の志望者がおしよせて來た爲いきほい競爭は激烈ならざるを得ないが嚴重に採點して百點の中五十點とれば入れると云ふから大體の見當はつくであらう。その他自然科學の學科であるからこの方面のテクニックなとには不覺をとらぬやう日頃親んでおて欲しいと當局は云つてゐる。

藥學科は醫學部の中にあるが醫學部とちがつて醫者になるのではない。近年まで無試驗であつたが今年あたりは三十五人の收容に對して九十餘人も志願があつた。前にも述べておいたが轉科は全然ない上に學士入學も認めていないのだから（而も醫科の四年に對し藥學は三年で修了する）醫者にならうと思ふものは是非とも醫學科へ入らねばならぬ。

藥學は大抵歐文和譯に化學であつたが今年は物理もあつた、しかし之以上は來年もないであらうと思はれる。

五、工學部

工學部には有數の難關がある。わけても機械、航空の今年の如きは三倍以上と聞いては誰しも驚く、その他造兵、電氣、船舶、土木、應化の如き何れも二倍以上である。然し之れ例年のことであつて見れば來年と雖も大差はない事を知らねばならぬ。

試驗は各科は別々に行はれ缺員があれば第二志望者より選拔することになつてゐる。此處で受驗者の注意すべき點は體格のことである。體の惡い人は入學してから勞力に耐へ得ざるのみならず他人にも迷惑を及ぼすと云ふ立場から工學部では以前から體格に採點し之を學科と合せて順位を決してゐるが而も甚しき劣等な體格はそれだけで入學を拒否されるのである。尤も色盲とか近眼とか本人に苦痛でないものは差支ない筈である。前にも述べた如く入學後は受驗して合格するに非れば轉科はゆるされないから豫め志望に對して細心の研究をしておく要がある。工學部の試驗科目は每年一定してゐない、昨年は物理、數學、化學、用器畫であつたが、今年は語學が復活し、數學、物理、化學、鑛物及地質があつた。之又三月の發表まで

は未定であるが例年の傾向を見れば(問題集參照)大體想像されよう。又試驗の成績は各科に依つて著しく差異があり從つて或科には落ちてもその點數で他の科を受けておれば好成績で入れた場合もあるわけである。だが第二志望を待つても缺員がなければ駄目であるから大抵その儘無効になるが、念の爲書いておく必要はある。試驗成績は大體建築の最低點一〇〇點とすれば應化八七、八點、電氣一〇〇點以上、土木一〇〇點、鑛山六〇點位の相違は毎年あると云ふことである。尙體格の採點は三〇點が滿點として二十六、七點が最も多く、最下は五點位のものもある。之で體格が重視される程度が知れよう。

六、農學部

駒場農學部にも二三年この方入學試驗の荒波がおしよせてゐる。今年で見ると二百十五人の收容に對して二百三十餘人即ち二十四人の超過である。前年に比して相當減じてゐるのも世相の反影か。いつも獸醫とか林學あたりは極めて少かつたが今年は又經濟も減じてゐる。これで農學部はまづいまゝでが峠と見てよからう。

試驗科目は歐文(英獨佛)和譯の他に數學、化學、動物、植物であるが、これも三月にならねばその年の科目は分らない、が語學に動植は動かないと見ねばならぬ、而も農學部へ來るからには動植はみつちりやつておく必要がある、入學試驗にも皆相當いゝ點をとつてゐるやうである。しかして語學は三ヶ國語の中一ヶ國語を選べばいゝ。この外口頭試問もあつたがこれは別に入學を左右するやうなものではなからうと思はれる。

農學科の內にある農業土木專修は割合評判のよかつた爲めか、今年は約倍の志望者があつたのが目につく、その他の各科の著しい超過は來年もさうであるかは誰しも分らぬが先づ減る事はあつても今年以上には出でまいと想像出來るふしがある。次に志望にあたりて最も注意すべき事は文科出身者の志望である。農經の如き元來半ば經濟學部に近い科で寧ろ文科系に屬するを至當とするがそれはとも角獸醫にせよ何にせよ大學入學規程に依つて農學部は理科出身を優先させる。その結果今年も既にあつた事であるが超過の場合は文科出身の志望はそのまゝ受驗せずして入學を拒絕されるのである。こんな馬鹿らしい事はないからよく注意すべき事である。但し文學部の項でも述べたやうに定員に不足の場合は勿論ゆるされるであるから(而もその可能性も充分ある事であるから)全然不可能といふわけではない。

七、理學部

理學部も入學は各科別である、他の學部に比し

收容者も少いが志願者も割合少く無試驗の科一二あるやうで選擇をうまくやれば案外無試驗で入れる場合がある。然し數學、物理の如きはかなりの志望があつて相當困難の方である。さて此處では外國語の歐文和譯、和文歐譯(一國語を選ぶ)の他數學、物理、力學、化學が課せられるを例とする。この中數學、力學は數學、天文、物理、地震、(第二志望)の各科に課し、天文、地質、鑛物の三科では口頭試問を課し、化學科では實驗を課してゐる。物理科には化學も課す。點數は發表されないがそれほど激烈でないからあまり多くなくとも大丈夫だ。今年は無試驗は鑛物科だけであつたが先年あたりは地理、鑛物、地質等も不足であつた。高校卒業生は大體絶頂となつたが東京中心主義は益々はげしくなるものと見られるので來年は各科とも超過すると見るべくたゞその中でも難緩のあることは同樣である。

次に注意すべきは工科と同じく體格の點で嚴重に見て不適當と見れば入學を拒む場合がある。たゞし色盲だとかその他の健康に關係なく、研究にさして妨げとならぬものなら問題はない。此處では工科の如く體格の採點はしないが結果に於て同じ事である。成績がいゝのに體の爲めに入學出來ない者は一年休學させて來年優先入學を許すと云ふやうな方法も考へられてゐる。何れにしても體に自信のない者は考慮すべきであらう。

第四　入學試驗に關する東大諸教授の感想

【註】左に掲ぐるは東大各學部の諸教授が入學試驗について直接間接に受驗者の爲めに語られた所で何れも肯綮に當つてゐる點が多いと思ふ。讀者は前項入學案內と參照して大學の入學試驗について正確に判斷を下されたい。

一、法學部

◇

試驗科目に外國語のみを課することはどうかと云ふ議論もあるが、高校で學習した科目につき悉く試驗を繰返すことは徒らに受驗者を苦しめてその及ぼす弊害たるや實に甚だしいものがあるのみならず、採點の基準も定めがたく種々困難な問題が起るのである。試驗の緩和としては高校時代の成績によつて生徒を各大學へ配分するのも一法であるが、これ又一面に於て更に不公平たるをまぬかれない。かやうなわけで高校の科目中最も一般的で且つ多く時間をかけてある科目について行ふのが比較的無難と思はれるから外國語に國語、漢文の試驗を含めて行はれて來たのだし、また將來もこの方針で行はれるのではないかと思はれる。

◇

外國語のみを試驗に科する事の可否と云ふ事はさておき少くとも今後の學問研究には外國語は可なり必要なものである上に、比較的公平に行はれるので外國語が試驗科目の中堅となる事だけは斷言し得る。それから高校の秀才が試驗に落第して往々番狂はせを演じその責任を採點のルーズに歸せようとする者さへあると聞くのは思はざる甚しきもので試驗官は何れも愼重な態度を以つて答案の一字一句に對するのであるから、この點は高校生及教授、一般父兄も安心していただきたい。高校ではあらゆる學科の成績が含まれてゐるが、それが外國語のみの試驗の結果と並行しない事あるは當然である。又近來試驗の成績は非常によくなつて來て合格不合格のけじめも隨分際どい、(今年の如き同點のもの十數人)處で決定するので試驗は一層綿密に採點しなければ此の僅少の差異を得る事は出來ない。であるから受驗者も一字一句も忽にせず周到なる注意を以つて答案を書き、然る後充分時間もある事であるからあまりきう屈にかりすぎず自分の書いてゐる事が全體として意味が通じ矛盾してゐないかをよく氣をつけて欲しい。卽ち前後の關係を考へ支離滅裂で斷片的でないやうに文法的にもよく注意して出來上つた後は繰返し〳〵讀み返へして全體を批評的に見る事が大切ではないかと思ふ。次に國語漢文の學力を見る事

になつてゐるがこれは邦文として完全なものになつてゐればいゝので、さう六づかしい漢語などを使つてゐる人のあるのはあまりに過敏すぎて却つてよくないと思ふ。

二、經濟學部

◇

成績は年々向上して來るやうですが、譯について云へば逐字譯が相變らず多いやうです、が吾々の望んでゐるところは全體としてよくまとまつた答案です、と云つて誤解してはならぬ事は曖昧な所はどん〳〵拔いて知らないボカブラリーを前後の關係で賢明に(?)に判斷したりすぎる事は更に悪い事は當然である。答案では國語の力をも試すやうになつてからはさすがに誤字あて字は少くなつたやうですが、文章についても少し工夫があつて欲しいと思ふのも少からずあるやうです。經濟學部の試驗の如きは別に常識以上に出でてはゐないから受驗準備と云ふやうな事は望まないが、日常特にどういふ點を注意していたらいゝかと問はれれば語學の練習に於てはテクニカルなものは必要ではないが、社會、經濟方面の常識的單語位は覺えておいて戴きたい。特に文學的な例へばシエークスピヤの戲曲と云ふやうなものはこの場合緣は遠いでしよう。云はゞ時事問題などを注意して新聞などを讀むのが一番よくはないでしよう

か。

◇

受驗科目については方々から色々の注文もあるが答案の審査期間が僅か三四日であるし、それに最も受驗勉強をせずに實力を見る方法としてはやはり語學が一番好都合である事は法科と同樣である。又世間では大學の入學試驗は當にならぬと云ふやうな風評が往々あるが、こんな風評は困つた事で、大學としては試驗をやるからには最も愼重にやつてゐるのである。各教授の採點された答案を參照するとその結果は大體一致してゐるところを見てもその人の學力は正當に評價されてゐる譯である。こんな風評に耳をかさずに實力の養成に努める事が第一である。

三、文學部

◇

毎年のことであるが答案をしらべて見て第一の感想は大變いゝのと、悪いのとある事だ、同じ高等學校を出てこうもちがふかと思ふ程一方は滿點をとつてゐるのに片方は殆んど零點、私どもから見ると中學もあやしい位なのがある。和文英譯の答案の中には中々振つたのがあるがむしろなさけなくなる。和文英譯上一般に注意しなければならぬのはもつと文法の力をつけ文の構造に注意し常に書きならしておく事である。今年は詩を二行ばかり出したが案外成績がわるかつたのも氣のついた點である。

◇

相變らず文章全體をつかむ力の足らない事だ、これは獨文に限らない事であるが、文章の思想をつかみ聯絡に注意し、結局何の事かわからぬやうな當てつけを書いてあるのが閉口する。作文の場合も同じで全體の意味をよくのみ込んでおいてから手をつけるやうにしたいと思ふ。それから單語の力はまだ〳〵不足に思ふ。

◇

漢文の成績は割合よろしい、漢文が輕視せられ勝ちの今日高等學校でつとめておられるのは敬服に値する、入學試驗たるからにはやはり一般的なものを出さねばならぬ故何からかと云へば四書が先になる、四書は高校でもれなくやつて貰きたい。

四、醫學部

◇

醫學部ではすべて學科の大綱を要領よくつかんでゐる人を望む、だから試驗勉強や、偶然の山かけで試驗がパス出來るやうな問題は出さない積りである、試驗科目も當日まで發表しないのも高等學校で教へる學科は凡て試驗に出さうとするのもすべて試驗勉強を强制したくない爲である。語學

にしたところで辭書を持たせらどうかと云ふ說も多數ある位で六づかしい單語だけ竝べたり、いちのわるい文法の使ひ方なんかは出さない方針である。先年物理の問題にボートの事を出した事があつたが結果はボートを知らない人が却つてよかつたやうな有樣で平生眞面目に普通の勉強さへしてゐれば驚くには當らない。繰返へして云ふが醫學部ではのんびりした實力も持つた人を歡迎するのであるから試驗も自ら大綱をよくつかんで消化してゐるかどうかを試めして見る事になつてゐる。

◇

成績は概して段々良好になつて行くやうである、云ふまでもなく語學は日本文的歐文や、歐文的日本文は拙なるものであるから注意すべきである、問題の大綱をつかむと云ふ事は必要であるが、知らない事を長々と書いてごまかしたりわかつてゐても要領惡くくだ〳〵書いたりすることは下手な戰術である。又醫學部へ來る位な人は特殊なテクニツクは必要ではないが普通の自然科學的な言葉位は常識として知つておかなければ困る。云ふまでもなく答案は明快に答へてほしい。

◇

醫學部ではことに身體の强健なるを必要とする、ことに多忙な學科であるから體の弱い人は中途で挫折する例がいくらもある。そんな事になれば本人の爲めのみならず他人にも迷惑を及ぼすのであるから健康に自信のない人は醫學部を志望しない事を希望する、體格だけで不合格となる者が毎年少しづゝあるのは殘念である。

五、工學部

◇

試驗問題の提出方針は基礎に關する理解をテストすることを以つて大體方針とし、基礎をよく呑み込みその知識を應用さへすれば諒解出來るやうな問題で專門に偏しないやうに努めてゐる筈である。從つてレギユラーなユースを通つて來たものには何れも容易に出來る問題である。然るに平生の勉强をやらず試驗勉强の詰込主義の結果基礎的な事でさへ一寸應用の知識を要するものになるともう理解出來なくなる者があるが眞に心細い氣がする。次に工學部は應募者が比較的多く受驗する人も困難であるが科に依つて著しく成績の異なることが目につく。土木、建築、電氣の如き志願者の多い學科の入學許可の最低點が他の志願者少き學科の最高點以上の場合がある事がある。志願する場合にはよほど注意する必要があると思ふ。だが學科試驗の嚴密なる審査の下にその可否を決するのであるから不合格となつてもあきらめがつかう。殘念な事は設備の關係上今以上に學生收容數を增すことは困難な事である。

◇

工學部で注意すべきは健康の事である。入學後は實習製圖等學科以外に隨分無理をしなければならないので體の弱い者は非常に困る結果になる。この點から從來から入學受驗者に健康の採點もし、甚しきは健康だけでも入學を拒絶してゐる。先年來採點を三十點とし中病氣の有無、天性の體質、鍛練に依る體格等に分ちて調べ特に重大なる疾患のあるものは點を零とするのみならず學課成績如何を問はず不合格となす方針で毎年二三名はこの憂目を見るものがあつた。健康にはよく〳〵注意し大いに運動することであるをお薦めする。

六、農學部

◇

科に依つては中々いゝ成績の處があつたが中には相變らず珍答案が少しは見受けた。問題は高校卒業生にとつて常識的な平易なものを出すのであるから平生基礎的に頭をつくつておけば充分である。農科には動植物は關係の深い學科であるからこれなんかにあまり不勉強を暴露する事は不得策だ。今年からは殆んど全部試驗があるやうになつたから受驗の覺悟を決めて平素の實力を養ふ事に努めて欲しい。

七、理學部

試驗の感想と云つても毎年殆んど同じやうに判

に特徴は見出せない。たゞ困るのは暗記をやつてゐる人である、暗記は少しも自分の知識になつてゐないのだから答案に書かれても自信のない機械的叙述的に終つてゐる。全く理解して餘裕を持つて書いたものは一見してわかるが、こういう答案を歡迎する事は云ふまでもない。又理學部に於ける語學は重要なもので入學後も益々必要となつてくるのでその手段として試驗にも課してゐるが將來の爲めにも實力をつけておく事が大切である。また實驗は一般學者として實物への興味を如何に持つかと云ふ事を試みる爲めでその資格を見るに於て大いに重視してゐる。次に體格檢査の點數も考慮に入れてゐるが餘り病勢の進んでゐるものは學術にパスすれば來年の優先權を與へて一ヶ年休學させる事にしてゐるからこの點も注意ありたい。

第五　各帝國大學の現況

【注】　帝國大學の內容については東京の項に於てその概略を記した、此處に述べんとするのは前者との重複をさけその大學、その學部の特色の

みを拾はうと思ふ。だから略されてゐるものは大體東京のそれと同樣と見れば支障ない。

一、京都帝國大學

◇法學部　京都の法學部は東京の法科と異り政治科、法律科の區別がない。全體で法律、政治、經濟等に亘り約四十科目の講義があり學生は三年間にその中より十八科目以上を選擇受驗して合格すれば學士試驗に合格したるものとしてある。科目の選擇を學生の自由に任せたるところ個性の尊重の意味に於て便益多く進歩的なりと云ひ得らる。京都の法學部は明治卅六年に第一回卒業を出してゐて相當古い歴史を持つてゐる。東京の如くではなくともやはり官界、法界、實業界には可なりの地盤を持ち卒業生の進路を

開いてゐる。高文パスの率も東京につぐ成績を示してゐる。學生の收容數は、四百名　となつてゐるが此處は大體入學試驗を行はない方針だから百人や百五十人の超過は全部無試驗で收容してゐる。今年も五百九十名出願者全部收容した。先づ例年の如く第一次ならば出願者は全部無試驗で入れるであらう。

◇經濟學部　此處の經濟學部が獨立したのも東京と同じく大正八年、東京の如き經濟科、商業科の區別はない。先づ原論を初め基礎的科目約十八科目（日本經濟史、東洋經濟史の如きも含まる）を正科目とし、法律哲學社會學等の十一科目を副科目とし、正科十一、副科六以上を受

験合格したるを以つて修了者とする規程になつてゐる。注意すべき事は東京の商業學科に相當する科目の殆んどない事で經濟學部全部が東京の經濟學科の如きと見ればいゝであらう。收容數は二百五十名とあるがやはり法科と同樣多少の超過に頓着なく出願者を全部收容してゐる。毎年二百五六十名位、就職先は東京に對する大阪と云ふ對立はあらうが大阪が實業界の中心であるだけ決して悲觀することはないやうだ。

◇文學部　文學部は哲學科、史學科、文學科の三科に分る。哲學科の中には哲學、哲學史、印哲、支那哲、心理、倫理、教育、美學、宗教、社會學、佛教學の正科目を置き、學生は一科目

を選び專攻科目とする。專攻科目はその範圍に於て試問に依つて審査されその及第を以つて卒業とする。試問は論文及口述より成る。要するに科は三つであるがその中に東京の文科に相當する各科が含まれてゐると見ればいゝ。たゞ入學してからおもむろに選擇專攻すればいゝだけはるかに自由な制度である。史學科は國史、東洋史、西洋史、地理、考古學、史學研究法を以つて正科目とし、文學科は文學概論、國語、國文、支那語、支那文、英文、獨文、佛文、梵文、言語を以つて正科目としてゐる。同じく高校卒業生の第一次は一・二を除いて大部分は無試驗で入學を許可されるを例としてゐる。

◇醫學部　醫學部は何處も激烈なる試驗が控えてゐる。自然科學の方面は文科系統の如く教室に收容の餘地さへあれば人員を增加せしめ得られるやうに簡單にはゆかず、一人にもそれ相當の設備を要する故人員の制限は嚴重である。百二十の收容數に對して二倍乃至三倍の出願者はあると見ねばならぬ。卒業後は必然に京都大阪方面に勤務するものが大多數のやうである。

◇工學部　此處の工學部は土木、機械、電氣、採鑛冶金、工業化學、建築の六學科に分れてゐる。この中工業化學は卽ち應用化學の事を云ふ。各學科の科目は必修、隨意に分れ必修の全部隨意の若干に合格したる後學士試驗を受けるのである。工學部も一般に志望過剩なる故殆んど入學試驗を免るゝ事はなく、建築、電氣の如きことに依然難關である。人數の少い事はやはり就職條件をよくし實行は官界を初めとして殆んど東京に劣らぬ成績を示してゐるとの事である。

◇農學部　農學部に農學科、林學科、農林化學科、農林生物學科、農林工學科、農林經濟學科の六學科を置く。この中農林生物學科では植物病理、遺傳學、昆蟲學、植物生理、動物生理、生態、分類、細胞、生物化學等を研究するところであり、農林工學科とは農業水利學、地質學、測量學、土地改良學、森林改良學等農業土木について學ぶところである。各科は第一次では定

員に達すること少く大概第二次募集を行つてゐる。就職先は大體地方であるが比較的よくその點東京を出たのと大差はない。收容人員は東京の半分約百二十人である。

◇理學部　理學部では數學、物理學、宇宙物理學、地球物理學、化學、動物學、植物學、地質學、鑛物學の授業を行ひ學生の學修に關しては一定の課程を設けず各自學修すべき科目を選擇するものとしてゐる。が事實に於てはこの九科に分れてゐると見らる。收容人員約百名に對して多くは大體定員に達するが科により第二次を募集する所もある。動植、物理、化學等がほゞ定員位他は何れも少いのを例としてゐる。行き先はやはり教員を大部分とし官吏、研究所、會社等人數の少いだけ樂觀されてゐる。

二、東北帝國大學

◇法文學部　法文學部はもと「法學部の學生が動もすれば法制形式の智識に偏倚し之に反して文學部の學生は多く法制經濟の智識を缺如するが如き弊を避けん」として生れたもので法、經、文三學部を鎔解して有機的に化合した所の一大學部的なものであると云ふ。その講座も法經文に通ずる多數の講座を設けて學生をして自由に

各學科目を取捨配合に便ならしめ、各自の負擔力に應じ其個性と生活目的とに鑑みて最も適切と思はれる學科目を選擇學修することを得せしめ次で各自の個性を伸暢し生活目的を達成せしむるに在つて頗る時機に適した制度であるとされてゐる。だからして法學士たらんとする人の中にも行政官、外交官、政治家、司法官、辯護士等その生活目的に依り研究履修すべき科目の配合を異にするわけであり、經濟學士の中にも種々あるべく、文學士の中にも文學、哲學、倫理、美學等種々あるのである。

第一次の出願者は募集人員三百名中每年五六十名內外、大體は第一次を無試驗とし第二次二百數十名に對して約三百名志望者がある。此處と九州の法文學部とが傍系文科系入學者の唯一の進路とされてゐる所以である。卽ち通則第六條のいわゆる第一順位高校文科卒業者、第二順位高校理科卒業者の第一次志望者を先づ入學せしめ尙缺員ある場合で高師、女高師、高商、外語等の卒業者並に專門學校を卒業した本學檢定試驗合格者が第二次募集として他から來た高校卒業生（例へば東京を落ちた者）と共に選拔試驗を受けて入學を許されるわけである。

就職については創立新しきこと地方であること人數の多いことそれに學部の組織が社會に對してよく知られてゐない等の點であまりめぐまれてゐないやうであるが勿論それは相對的な話である。敎員になるものなどは東北地方と云ふ背景を持つてゐる爲相當さばけて行くらしい。敎授の顏振も揃つて來たようではあるし將來は益々よくなる事であらう。

◇**醫學部**　醫學部に關しては他の大學と異るところはない。收容數百名に對して約二倍の二百名は志願者があるやうである。試驗科目は英文、獨文兩方の和譯に、同和文の英譯、獨譯、の他物理、化學、動物、植物の範圍らしいが英作文、獨作文なんかは一寸面喰ふものが多いやうである。尙問題集について研究されたい。

◇**工學部**　工學部は機械、電氣、化學工學、金屬の四科よりなる。この中金屬工學科は附屬金屬材料研究所と共に金屬の研究では著名なものである。工學部の全般的志望超過で電氣、機械等は大概超過して入學試驗もあるが金屬の如き我國斯界の指導的地位にあるものが却つて少いやうであるが不思議である。全學部で約八十名の收容數。

◇**理學部**　理學部では講座種類に應じて六敎室（學科）に分つ。卽ち數學、物理學、化學、地質古生物學、岩石礦物礦床學、生物學である。この中地質古生物學科では地球發達史、古生物學、斷層、地質、地震等を學び、岩石礦物礦床學科では岩石學、金屬礦床、石油礦床、石炭化學、

等を教授する。各科とも東北の理學部として學界に鳴らしてゐるが第一次の入學志望者は何れも少い、地味に學問を研究しようと云ふ人には都合のいゝところ、又傍系の入學者も今尚若干ゆるされてゐるところである。卒業後は專ら教員、研究所等であるが、景氣も餘り悪い事はないやうである。

三、九州帝國大學

◇法文學部　法、文、經に通ずる約六十の科目をおき學生をしてその好むところを選擇配合せしめて以つて法學士、經濟學士、文學士たらしめんとすること東北のそれと全く同じい。たゞ科目の選擇に當つて單なる生活目的の判斷に依るのでなく一定の標準を定めその範圍に於て自由ならしめてゐるところが異つてゐて經濟原論を知らざる經濟學士、法學通論を學ばざる法學士のなきやうにしてゐる。

收容人員は三百名であるが第一次は東北と同じく多くて六七十名であるから、やはり傍系出身の進路を開いてゐるわけだ。第二次では專門學校出に學力檢定試驗を行ひその合格者（百點中六十點位あれば合格）と高校出身者とを合して外國語の試驗を課し選拔するが此場合三百點中

約百五六十點あれば合格出來ると云ふ。此の學部は大正十四年に創立されたばかりで未だ多くの卒業者を出してゐないがやはり教員になるものは最も多いと云ふ、他は新しいだけ幾分不利は免れぬであらう。

◇醫學部　前身を福岡醫科大學とし京都帝國大學の一分科として置かれたものであるがやがて之が工科大學の設置と共に九州帝國大學となる收容數百二十名に對して約二倍——三倍位。試驗は譯讀の外、物理、化學、動植等他大學のそれとあまり異るところはない。やはり地域の關係上入學者の數は五高が一ばん多く七高、福岡等之につぐ。

◇工學部　土木、機械、電氣、應用化學、採鑛、冶金、造船の七科を置く。やはり土木、機械、電氣等は志願者超過の傾向あるもその他は大體多くて定員一ばい位、されども各科の收容數が少い故第二次を募集するとしてもわずかである。願書提出に當つては第二、第三志望の學科をも選んで差出すことを注意せねばならぬ。

◇農學部　農學部には農學科、農藝化學科、林學科の三學科あり。農學科四〇、農藝化學四〇、林學一五の九十五名を收容するが第一次高校出の應募者はいつも比較的すくなく從つて第二次の專門學校出に對してもそれだけの門戸を開いてゐる事になる。或は理科系統で第二次の多

い事は此處が一番かも知れない。宇都宮高農、鹿兒島高農、高鐵、水產等から入學者が多い。

四、臺北帝國大學

◇文政學部　文政學部に四學科を置く、卽ち哲學科、史學科、文學科、政學科である。その名の示す如く此の大學の學科內容は他と幾分性質を異にしてゐる。特に文政學部で伺はれるのは東洋、南洋方面に關する講座の多いことである。哲學科の中には東洋哲學、西洋哲學、倫理、心理、教育に分れ、史學科は國史、南洋史學に、文學科は國語、東洋文學、英文學に分れており、政學科は政治學科と略同じである。入學志願者は非常に少く高校卒業に他を加へて哲學三名、史學七名　文學一〇名、政學二二名位であつて勿論高校生は何れも難なく入つゐる。卒業すれば、哲學、史學、文學科出は文學士、政學科は法學士となる。

◇理農學部　理農學部に生物學科、化學科、農學科、農藝化學科の四學科がある。生物學は動植につき化學科は化學、農學科、農藝化學科は他大學農學部のそれと大差ない。前二者を出れば理學士、農學關係は農學士になる事になつてゐる。志願者之又少く合計で廿五人足らず志願すれば殆んど入れるやうである。

五、大阪帝國大學

府立大阪醫科大學と大阪工業大學を基礎に、それに理學部の新設を加へて大阪帝大が出來た。醫學部は百名、理學部は六十名、工學部は百二十七名を募集してゐる。理學部を除いて何れも應募者二三倍に達し、競爭相當激烈である。

六、北海道帝國大學

北海道は理學部だけが高校から募集する。數學、物理、化學、動物、植物、地質鑛物の六科で八十名を收容する。今までは無試驗、しかし第二次を募集することもない。今年は內部で互に振り當てた。

その他京城帝大で原則としては募集しないが、缺員ある場合は補缺をとるからその各學部を問合せてみる必要がある。

第六　各單科大學の現況

一、各醫科大學

單科醫科大學は前醫專の昇格した五大學の他に熊本醫大と名古屋を加へて七大學となつた。

名古屋を除く六大學は組織定員殆んど同じくその內容も大同小異である。たゞ地域的に見て將來活動する場合の便不便に依つて幾分差異が生ずることにもなり從つてそれが又受驗者の數に現はれて來てゐる。各大學は收容

數何れも八〇名であるが、比較的志望の多いのが千葉、岡山で新潟之に次ぎ、金澤、長崎は割合少い。この中多いところが一六四名（今年の千葉）で倍の上は僅であるから綜合大學の醫科に比べたら尚多少樂なわけである。けれども最もやさしいところと雖も第一次で既に二十名位の超過を示し昔の如く無試驗で入れるところは無い。だが此處へ來るものは入學試驗を嫌つて來るものが多いだけ試驗の成績も幾分落ちるであらう事は想像される。大學が地方であるだけに志願者の最も多いのはその土地の高校である。例へば新潟に於ては新潟高校、弘前、山形、松本の順であり、岡山では六高、五高、松江、廣島の順であり、金澤では四高を筆頭とし、千葉は水戸、松本、東京、靜岡等であり、長崎は七高、五高、佐賀の順であることも當然であらう。

その他慶應、日本等も毎年幾分の補缺を高校出から入れてゐるからその邊も注意しておく必要がある。

二、商業・商科大學

昭和四年四月昇格して、五大學の一に神戸商業大學がある。四年制の高等商業として幾多の俊秀を實業界に輩出し來つた神戸高商を母胎として現はれた商業單科大學であるが、大學としての歷史が淺いだけに高校生には未だ正しく認識されてゐないやうである。學科目は帝大經濟學部の商科と大差ないが講座數は遙かに多く又經營經濟學に主力を注げること、法律關係の講座を多く設けてゐることはその著しい特色である。二ヶ年に亙るゼミナール制度も學生數の少い單科大學だけにかなり徹底して行はれ、之亦本學の誇るべき特色をなしてゐる。

教授は高商時代より大學教授たるに相應はしい修養と研究に力めてゐた關係もあり新興の大學と雖も既にその

教授力を充實し將來を嘱目されてゐる人が多い。又講座の關係上京大及東京商大より多くの講師を迎えてゐる。

高商としての歷史が古いだけに卒業生實に四千を突破し、實業界の中堅として活躍せるもの極めて多く、特に海外に雄飛せるもの多數なるは海港都市に健在する本學の特色にして神戸高商閥として隱然たる一大勢力を形成してゐる。その點將來實業界に雄飛せんとする者にとつては格好の大學といはねばならぬ。

昭和九年九月より神戸市東郊六甲の新學舍に移轉の豫定であるが景勝の地だけにこゝ數年の中には內容の充實と相俟つて理想の學園となるであらう。

東京商科大學は昭和七年から八十名の募集を始めた。これに對して高校から三名の應募があつたが、こゝには優先がないので他の志望者百六十餘名と競爭することになつた。うつかり志願も出來ぬ。

三、文理科大學

文理科大學は高等師範學校の昇格したもので先年東京と廣島とに新に生れた。科は文科的のものに教育學、哲學、史學、文學とし、理科的のものに數學、物理學、化學、生物學、地理學をおいてゐる。學長教授も新に任命されたが大部分は前師範のそれである事は內容に於て餘り大差ない事を示してゐるわけ、大學に昇格したからとてこゝを出ればやはり中等學校の教員になるのが目的でたゞその資質の向上がこの昇格の目的であつた。敬容人員は一年百名、資格は高師、女高師の卒業生と言ふことになつてゐるが高校出も同資格に於て敬容することに

なつてゐるが未だ志望者はあまりない。

四、東京工業大學

東京高工の昇格したものに東京工業大學がある之と同時に從來の高工は廢止された。工業大學の入學者は未だ高校と高工と兩方からとつてゐるが行く〳〵は全部高校出をとる筈であるからさうなれば大學の工科の入學難も幾分緩和されよう。收容人員各約百五十名と言ふから僅に大學の工科に匹敵する。今年の志願者は初めに何れも二百三十餘名であつたが棄權したものも相當あつて實際の受驗者は百六七十名餘り、中合格者百三十餘名、この中で高校は二十名位の受驗者であつたが相當振り落されてゐる。學科は染料化學、紡織、窯業、應用化學、電氣機械、電氣工學、建築となつてゐる。

第七　帝國大學及官立大學入學規程

一、東京帝國大學入學規程拔萃

第四條　學生ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ初ヨリ三十日以內トス但シ學年開始前ニ入學ヲ許可スルコトヲ妨ケス

第五條　入學ヲ許可スヘキ者左ノ如シ

一、高等學校高等科及學習院高等科ヲ卒ヘタル者

二、學部ニ於テ試驗ヲ行ヒ高等學校高等科ヲ卒ヘタル者ト同等以上ノ學力アリト認メタル者

前項第二號ノ試驗ハ之ヲ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第六條　法學部文學部及經濟學部ニ在リテハ高等學校及學習院高等科文科ヲ卒ヘタル者、醫學部工學部理學部及農學部ニ在リテハ高等學校及學習院高等科理科ヲ卒ヘタル者ハ他ノ志願者ニ先チ入學ヲ許可ス

第七條　前條ニ揭クル入學志願者ノ數各學部又ハ各學科ノ收容豫定人員ニ超過スルトキハ學部ニ於テ選拔試驗ヲ行ヒ入學ヲ許可スヘキ者ヲ定ム

前條ニ揭クル者ヲ入學セシメタル後尙ホ闕員アル場合ニ於テ其ノ以外ノ入學志願者ノ數闕員ヲ超過スルトキ亦前項ニ同シ

選拔試驗ニ關スル規則ハ各學部ニ於テ之ヲ定ム

第八條　左ニ揭クル者ハ前二條ノ規定ニ拘ラス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、一ノ學部ヲ卒ヘタル者ニシテ更ニ他ノ學部又ハ同一學部ノ他ノ學科ニ入學ヲ志願スル者

二、學生ノ退學シタル者ニシテ更ニ同一學部ニ入學ヲ志願スル者

三、他ノ帝國大學ノ學部ヲ卒ヘタル者

第九條　一ノ部ノ學生ニシテ他ノ學部ニ轉學ヲ志願シ又ハ他ノ帝國大學ノ學生ニシテ本學ニ轉學ヲ志願スル者

ノ新ニ入學ヲ志願スル者ノ例ニ依ル但シ學部規則ニ依リ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ轉學ヲ志願スル者ハ其ノ現ニ在學スル學部長ノ許可證ヲ願書ニ添附スヘシ

第十條　前二條ノ規定ニ依リ入學ヲ許可セラレタル者ニシテ既ニ一學年以上其ノ學部ノ學科目ヲ學修シタル者ト同等以上ノ學力アリト認定セラレタル者ハ在學年數ノ計算ニ付テハ既ニ一學年以上其ノ學部ニ在學シタル者ト看做スルコト得

前項ノ認定ヲ爲スニ當リ必要アルトキハ學部規則ノ定ムル所ニ依リ學部ニ於テ試驗ヲ行フ

第十一條　入學志願者ハ第五條第二項第二號ニ該當スル者ハ一月二十日其ノ他ノ者ハ二月十五日迄ニ入學願書ヲ學部ニ差出スヘシ但第二項ニ依リ試驗ヲ行フヘキ者ニ付テハ學部規則ニ依リ別ニ其ノ期日ヲ定ムルコトヲ得

前項ノ志願者ヲ入學セシメタル後尙ホ缺員アルトキハ四月五日迄入學願書ヲ受理ス右期日後尙ホ缺員アルトキハ四月二十日マテ入學願書ヲ受理ス

第十二條　入學志願者ニ對シテハ入學ノ許可ニ先チ身體檢査ヲ行フ

第十三條　入學ヲ許可セラレタル者ハ左ノ期日迄ニ所定ノ在學證書ヲ學部長ニ差出スヘシ

三月三十一日前ニ許可セラレタル者ハ四月二十日迄、四月三十日前ニ許可セラレタル者ハ五月十五日迄

前項ノ期日迄ニ在學證書ヲ差出ササルトキハ入學許可ノ效力ヲ失フ

【註】右は通則で入學に關しては各學部に細則を設けてゐる。第八條無試驗入學に關する規程は學部に依つて異なつてゐるが經、文以外は適用されてゐないから注意を要する。尙文、醫、理の各學部には別段表向の規程なく、法、經、工の規程で通則とちがつてゐる點を左にあげる。

(1) 法學部規程綴

第十八條　高等學校高等科及學習院高等科ヲ卒業シタル入學志願者ノ數本學部收容豫定人員ニ超過スル場合ニ於テハ選拔試驗ヲ行ヒ入學者ヲ定ム

選拔試驗ヲ行フトキハ豫メ之ヲ各高等學校及學習院ニ通知ス

第十九條　選拔試驗ハ高等學校ニ於テ履修シタル科目ニ付之ヲ行フ

【註】左記二十三條は昭和七年よりその適用を停止せり

第二十三條　左ニ揭クル者ハ選拔試驗ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、法科大學又ハ本學部ノ卒業生ニシテ更ニ本學科ノ他ノ學科ニ入學ヲ必要スル者

二、法科大學法律學科若クハ政治學科又ハ本學部學生ノ退學セシ者

三、他ノ分科大學又ハ學部ノ卒業生

四、二學年以上法科大學經濟學科又ハ經濟學部ニ在學シタル者

五、他ノ帝國大學ノ卒業生

六、二學年以上他ノ帝國大學法科大學又ハ法學部ニ在學シタル者

(2) 工學部規程綴

第十六條　本學部入學志願者ハ入學願書ニ第一、第二、第三志望學科ヲ記入シ毎年二月十五日迄ニ出身學校ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第十七條　選拔試驗ノ結果第一志望學科ニ入學シ得サリシ者ハ第二、第三志望學科ニ順次入學セシムルコトアルヘシ

(3) 經濟部規程拔萃

第二十條　選拔試驗ハ高等學校ニ於テ履修シタル科目ニ就キ之ヲ行フ

試驗科目及其ノ日割ハ豫メ本學部内ニ掲示シ且ツ官報ヲ以テ公告ス

第二十四條　左ニ掲クル者ハ選拔試驗ニ依ラスシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、法科大學又ハ本學部ノ卒業生ニシテ更ニ本學部ノ他ノ學科ニ入學ヲ志望スル者

二、法科大學經濟學科若ハ商業學科又ハ本學部學生ノ退學セシ者

三、他ノ分科大學又ハ他ノ學部ノ卒業生

四、他ノ帝國大學ノ卒業生

第二十六條　經濟學科ニ入學ヲ志望スル者ハ履修スヘキ第一外國語經濟學（英、佛、獨）ヲ入學願書ニ記載スルコトヲ要ス

二、京都帝國大學入學規程拔萃

【注】帝國大學入學規程については前項東京帝國大學に於て一通り知つておるから以下掲げるのはその重複をさけ特に異つた規程と思はれるもののみを擧げる事とする、故に別段の規程なきものは東京帝國大學のそれと同樣と見ればさしつかへないわけである。

第四條　高等學校及學習院ノ高等科文科ヲ卒業シタル者ハ法・文・經濟部ニ理科ヲ卒業シタル者ハ醫・工・理・農學部ニ入學スルコトヲ得

前項ニ依ル入學志望者ノ人員學部各學科ニ於テ收容シ得ヘキ數ヲ超過スルトキハ高等學校高等科中ノ科目ニ就キ選拔試驗ヲ施行シ入學者ヲ定ム

第一項ノ志望者ヲ收容シ尙ホ闕員アルトキハ高等學校及學習院高等科文科卒業者ハ醫・工・理・農學部ニ理科卒業者ハ法・文・經濟學部ニ入學スルコトヲ得此場合ニ於テハ第二項ノ規程ヲ準用ス

第五條　左ニ記載スル者ハ第四條ノ入學志望者ヲ收容シ尙ホ闕員アル場合ニ限リ記載ノ順位ニ依リ入學セシムルコトアルヘシ

一、帝國大學學部所定ノ試驗ニ合格シタル學士

二、一學部ヨリ他學部ニ轉學ヲ望ム者

三、他ノ帝國大學生ニシテ轉學ヲ望ム者

四、本學ニ於テ臨時執行スル入學試驗ノ合格者但此試驗ハ場合ニ依リ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第六條　入學志望者ハ二月十五日（第五條第四號ニ該當スル者ハ一月二十日）迄ニ願書ヲ差出スヘシ但シ缺員アル學科ニ限リ三月末日迄願書ヲ受理ス

前項ノ願書ニハ學校醫若クハ官公立病院ノ證明書ヲ添附スルヲ要ス

第七條　第四條ニ依ル入學志望者ハ其ノ出身學校ヲ經由シテ願書ヲ差出スヘシ第五條第四號ニ依ル入學志望者ハ入學願書ニ受驗料金拾圓ヲ添ヘ出願スヘシ

受理シタル受驗料ハ之ヲ返附セス

【注】京都帝國大學に於ては學部別の規程は別段設けてない。

三、東北帝國大學入學規程拔萃

第五條　學部ニ入學スルコトヲ得ル者左ニ入學ノ順位左ノ如シ但シ入學志望者ノ數學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第一、高等學校及學習院ノ高等科文科卒業者ニシテ法文學部ニ、理科卒業者ニシテ理學部、醫學部又ハ工學部ニ入學ヲ志望スル者

第二、高等學校及學習院ノ高等科文科卒業者ニシテ理學部、醫學部又ハ工業部ニ、理科卒業者ニシテ法文學部ニ入學ヲ志望スル者

舊高等學校令ニ依ル大學豫科第一部卒業者ハ文科卒業者ニ、第二部及第三部卒業者ハ理科卒業者ニ準ス

第六條　前條ニ依ル入學志望者ヲ收容シ尙闕員アル場合ニ限リ學部ニ於ケル學力檢定ニ合格シタル者ヲ入學セシムルコトアルヘシ

第七條　第五條ニ依ル入學志望者ハ出身學校ヲ經由シ二月十五日限リ願書ヲ差出スヘシ

前項ニ依ル入學志望者ノ數收容豫定數ニ充タサルトキハ四月五日マテ願書ヲ受理シ其ノ入學ニ關シテハ第六條ニ依ル入學志望者ト同樣ニ取扱フ但シ願書ハ出身學校ヲ經由スヘシ

第八條　第六條ニ依ル入學志望者ヲ募集スル場合ニハ二月十六日以後ノ官報ニ之ヲ公告ス

前項ニ依ル入學志望者ハ四月五日限リ願書ヲ差出スヘシ

第九條　第六條ニ依ル入學志望者ハ豫メ檢定料金拾圓ヲ納付スヘシ受理シタル檢定料ハ之ヲ返附セス

第十條　帝國大學所定ノ學士ノ資格ヲ有スル者ハ他ノ入學志望者ニ先チ學部ニ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一條　學部中途退學生ニシテ再入學ヲ出願スル者又ハ帝國大學ノ學生ニシテ當該學部長ノ許可ヲ得テ本學學部ニ轉學ヲ出願スル者アルトキハ之ヲ許可スルコトアルヘシ前項ニ依リ入學セル者ノ大學令第十條ニ依ル在學年數ニ關シテハ前ニ學部ニ在學セシ年數ノ全部又ハ一部ヲ通算スルコトヲ得

(1)　理學部規程拔萃

第一條　通則第六條ニ依リ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

一、高等師範學校女子高等師範學校ノ本科、理科、理學ニ關スル專門學校及之ト同程度以上ノ專門學校ヲ卒業シタル者ニシテ本學部ノ授業ニ堪フト認メタル者

二、專門學校卒業者中本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者ニシテ檢定試驗ニ合格シタル者、中等學校敎員免狀所有者ニシテ本學部ニ於テ考査ノ上更ニ檢定試驗ニ合格シタル者ニ就キ又同シ

前項各號ノ志望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第二條　檢定試驗ハ高等學校高等科ノ學科目ニ就キ其ノ卒業程度ニ於テ之ヲ行フ但シ官立高等學校ニ委託シテ之ヲ行フコトアルヘシ

(2)　工學部規程拔萃

第二條　通則第六條ニ依リ入學スルコトヲ得ル者左ノ如シ

一、高等學校高等科理科ニ準スル大學豫科ヲ卒業シタル者ニシテ當該大學ノ許可ヲ得タル者

二、高等師範學校理科第一部第二部又ハ工學ニ關スル專門學校ヲ卒業シタル者

前項各號ノ志望者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第三條　本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタルモノニシテ檢定試驗ニ合格シタル者ハ前條志望者ニ準シ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第五條　本學部ノ入學ニ關シ選拔試驗ヲ行フ場合ニハ高等學校高等科理科ノ授業科目中ノ三科目以上ニ就キ之ヲ施行ス

外國語ノ試驗ヲ行フ場合ニアリテハ志望者ノ選擇ニ依リ英、佛、獨語ノ中任意其ノ一ヲ選ハシム

(3) 法文學部規程拔萃

第二條　左ニ記載スル者ハ通則第六條ノ定ムル場合ニ限リ本學部ニ入學スルコト得

一、高等師範學校、女子高等師範學校、高等商業學校、外國語學校其ノ他之ト同種同等程度以上ノ專門學校卒業者ニシテ本學部ノ授業ニ堪フト認メタル者

二、專門學校卒業者中本學部ニ於テ適當ノ學力アリト認メタル者ニシテ檢定試驗ニ合格シタル者

前項各號ノ志願者ノ數本學部ノ收容豫定數ヲ超過スルトキハ選拔試驗ヲ行フ

【註】他の學部は略す

四、九州帝國大學入學規程拔萃

第六條　學部ニ入學ヲ許可スヘキモノ左ノ如シ

一、高等學校高等科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者

二、學部ニ於テ臨時施行スル學力檢定試驗ニ合格シタル者但シ此試驗ハ時宜ニ依リ高等學校ニ委託スルコトアルヘシ

第七條　醫學部、工學部及農學部ニ在リテハ高等學校及學習院ノ高等科理科ヲ、法文學部ニ在リテハ同文科ヲ卒業シタル者ハ他ノ入學志望者ニ先チ入學ヲ許可ス

前項志望者ノ數學部收容豫定人員ヲ超過スルトキハ學部ニ於テ選拔試驗ヲ行ヒ入學者ヲ定ム但シ場合ニ依リ考査ノ上入學者ヲ定ムルコトアルヘシ

第七　帝國大學及官立大學入學規程

第八條　前條ノ志望者ヲ入學セシメタル後尙ホ闕員アル場合ニ於テハ左ニ揭クル者ニ入學ヲ許可ス

一、醫學部、工學部及農學部ニ在リテハ高等學校及學習院ノ高等科文科ヲ卒業シタル者

二、法文學部ニ在リテハ高等學校及學習院ノ高等科理科ヲ卒業シタル者

三、學力檢定試驗ニ合格シタル者

前項志望者ノ數缺員ヲ超過スルトキハ前條第二項ノ例ニ依ル

第九條ノ一　大學ニ於テ試驗ニ合格シ學士ト稱スルコトヲ得タル者入學ヲ請フトキハ第七條ニ該當スル入學志望者ヲ收容シ尙ホ闕員アル場合ニ限リ他ノ入學志望者ニ先チ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條ノ二　本學學生ニシテ退學シタル者再ヒ同一學部

ニ入學ヲ請フトキ及他ノ帝國大學又ハ官立大學學生ニシテ同一學部ニ轉學ヲ望ム者ハ關員アル場合ニ限リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條ノ三　大學令ニ依ル他ノ大學附屬大學豫科ヲ卒業シタル者ハ場合ニ依リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

(1) 農學部規程拔萃

第六條　九州帝國大學通則第六條第二號ニ依リ本學部ニ入學セントスル者ハ專門學校程度ノ農林學校卒業者、高等師範學校及女子高等師範學校本科理科卒業者又ハ專門學校卒業者ニシテ本學部ニ於テ適當ト認メタル者

(2) 法文學部規程拔萃

第一條　九州帝國大學通則第六條第二號ニ依リ本學部ニ於テ行フ學力檢定試驗ヲ受クルコトヲ得ルハ高等師範學校、女子高等師範學校、高等商業學校若クハ外國語

學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校卒業者ニシテ本學部ニ於テ適當ト認メタル者ニ限ル

五、新潟醫科大學入學規程

第五條　入學ハ第一學期ノ初メニ於テス

第六條　本學ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ高等學校高等科ニ於ケル理科卒業者タルヲ要ス

但入學志願者ノ數收容豫定數ヲ超過シタルトキハ選拔試驗ヲ行フ

第七條　前條ノ入學志願者ヲ收容シ尙ホ闕員アル場合ニ限リ左ニ記載スル者ノ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一、高等學校高等科文科卒業者

一、大學豫科修了者

一、醫學專門學校醫學科卒業者ニシテ相當ノ學力アリ認メタル者

第八條　本學學生ニシテ退學シタル者再ヒ入學ヲ請フトキハ闕員アル場合ニ限リ之ヲ許可スルコトアルヘシ

第九條　帝國大學醫學部及他ノ醫科大學學生ニシテ本學ニ轉學ヲ望ム者ハ闕員アル場合ニ限リ許可スルコトアルヘシ

第八　選科生聽講生ニ關スル入學規程

一、東京帝國大學選科生入學規程

第二十五條　學部ノ學科ニ就キ一科目又ハ數科目ヲ選擇シテ學修セント欲スル者ハ次條以下ノ規程ニ依リ其ノ

學部ノ選科生トシテ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十六條　選科生トシテ入學ヲ志願スル者ハ其ノ選擇セント欲スル科目ヲ記載シ履歷書ヲ添ヘ學年ノ初ニ於テ學部長ニ願出ツヘシ

第二十七條　選科生トシテ入學ヲ許可スヘキ者ハ滿十九年以上ノ男子ニシテ其ノ選擇スル科目ヲ學修スルニ足ルヘキ學力アル者ニ限ル

前項ノ學力ハ學部ニ於テ入學試驗ヲ行ヒ若クハ無試驗檢定ニ依リ之ヲ認定ス

入學試驗及無試驗檢定ニ關スル規定ハ各學部ニ於テ之ヲ定ム

第二十八條　選科生ノ入學ハ學生ノ學修ニ妨ナキ限リ之ヲ許可ス

第三十條　聽講ハ學期又ハ學年毎ニ之ヲ許可ス

第三十二條　聽講生ハ各學部所定ノ資格アル者ニ限ル但シ官廳又ハ外國政府ノ委託アルトキハ此ノ限ニアラス

【註】選科生、聽講生については各大學各學部それ

ルコトヲ得

試驗ニ合格シタル者ハ願ニ依リ學部長之ニ證明書ヲ付與ス

第三十條　前數條ニ定ムル所ノ外學生ニ關スル規定ハ總テ之ヲ選科生ニ準用ス

二、東京帝國大學聽講生入學規程

第三十一條　各學部ノ學科科目ニ就キ聽講ヲ志願スル者アルトキハ各學部ニ於テ學生ノ學修ニ妨ナキ限リ聽講生トシテ之ヲ許可スルコトヲ得

聽講ハ學期又ハ學年毎ニ之ヲ許可ス

第三十二條　聽講生ハ各學部所定ノ資格アル者ニ限ル但シ官廳又ハ外國政府ノ委託アルトキハ此ノ限ニアラス

【註】選科生、聽講生については各大學各學部それ〳〵規程を設けてゐる。しかし入學志望者が定員をはるかに超過する東京帝國大學の如き又は他大學の或學部の如きは全然餘裕がない故に規程はあるが內規として選科生聽講生の入部を許可しない、近時東大文學部も之を一切拒絶することになつた。尙入學志望者の少い所では今も若干の選科聽講生を認めてゐるから詳細については其の都度各學部について承合する事を要する、各學部の規程は之を略す。

第九　帝國大學入學志願とその順序

各帝國大學を志願し入學を欲するにも順序と徑路がある、特に高校出にも文科、理科の區別あり、又他の學校出はその資格に於て高校出とは同一でないから志願に當りその方法を心得ておく事が肝要である。

第一次入學

第一次入學とは高校卒業生（本年度前年度に變りなく）が先づ所定の期間（一月十六日——二月十五日）內に所定書類（履歷書、寫眞、その他）を添へて當該高等學校を經て提出された志願に依る入學の事で、この志望者が

收容定員に達しない場合は無試驗で許可され超過の場合は原則として選拔試驗が行はれその結果入學者が決せられる。但しこの場合高校理科卒業生は大學の理科系統の學部（醫、工、農、理）には高校文科卒業生に優先し、同文科卒業生は大學文科系統（法、經、文、法文）の學部には理科卒業生に優先して入學を許可される、されば例へば或學部が定員文科生で滿員の時は理科生の志願はそのまゝ無效となり、若干の缺員ある場合には理科生は文科生を收容した後に許可されるがこの時理科生の志望者が缺員に超過する時は理科生のみに選拔試驗が行はれる事になる。文科生の場合亦同じ。大學入學者の大部分は第一次入學である。

第二次入學　第二次とは一次の高校出を收容して尙缺員ある場合に限り募集するものでこの場合はその旨官報にて廣告する（二月下旬又は三月上旬）が事實は二月十五日の締切を見ればすぐわかるわけだ。第二次の願書提出は三月六日より四月五日迄となつてゐる。出願資格であるが之は第一次とは異り高校出（この場合多くは一次試驗に落ちた者）と、之と同資格に於て、專門學校令に依る各種專門學校及び之に準ずると文部省で認定した專門學校の卒業者にして當該學部の檢定試驗に合格し又は詮衡にパスしたるものが出願し得るのである。この專門出に行ふ檢定試驗は高等學校修業程度で各學部所定の課目につき行はれるが、大體に於てあまり嚴格でなく、學部に依つては學校長の推薦に重きを置いて無試驗で詮衡に依つて定めるところもある。又この專門出の出願には檢定料十圓を添へて出すことになつてゐる。かくして兩者（高校專門）の出願數第二次募集人員に超過の場合は兩者合併平等に試驗されるのである。第二次入學のある學部は大體既述で明であるが、東京には殆んどなく、文科系統では東北、九州の法文學部、京都の文科等で理科系統では京都の農科、東北の理科、九州の農科等である。

第三次入學　第二次を收容し尙も缺員ある場合には四月二十日を期限に更に願書を受付ける事になつてゐる。之第三次入學であるが近年志願者多く事實に於いてこの事はないやうである。

——（おはり）——

（昭和九年度）

東大入學率一覽表（其の一）

（數字の上段は入學者數下段は受驗者數）

	◇法	◇經		◇文						◇醫		◇工										◇理									◇農						
		經濟	商業	國文	國史	心理	社會	英文	其他	醫學	藥學	土木	機械	船舶	航空	造兵	電氣	建築	應化	火藥	鑛冶	數學	天文	物理	化學	動物	植物	地質	鑛物	地理	地震	農學	農土	農化	林學	獸醫	水產	農經
一高		109	20	4	5	1	…	1	5	△14	41	4	5	18	4	1	2	7	11	6	1	6	1	2	8	3	…	1	1	…	…	…	…	△2	2	4	1	…	2
		177	28	6	9	1	…	1	5	13	87	6	10	29	5	7	10	18	15	14	1	7	3	2	18	11	…	1	1	…	…	…	…	…	8	4	1	…	2
二高		13	1	6	1	2	…	…	2	9	10	1	2	4	3	2	0	2	2	0	0	1	…	0	0	1	…	…	1	…	…	…	…	…	2	0	4	1	5
		37	10	10	1	2	…	…	3	9	30	3	8	13	9	4	3	4	7	4	1	5	…	1	3	3	…	…	1	…	…	…	…	…	6	1	4	1	7
三高		40	9	5	1	…	1	…	…	5	2	…	2	7	1	1	1	…	3	1	…	3	1	…	…	0	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	1
		73	14	6	1	…	1	…	…	5	13	…	3	9	1	1	3	…	3	1	…	5	1	…	…	1	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	1
四高		21	5	4	1	1	…	3	1	10	2	3	3	3	3	0	1	2	1	0	…	1	2	…	1	1	…	…	…	…	…	…	1	1	2	0	1	2	1
		50	15	13	3	1	…	3	2	10	14	6	5	11	6	3	1	5	3	1	…	7	2	…	2	3	…	…	…	…	…	…	1	1	6	1	2	2	1
五高		30	12	5	0	0	1	2	2	△5	1	…	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3	1	…	0	2	1	1	…	…	…	1	2	…	0	3	1	…	3
		107	31	13	2	1	1	2	2	4	10	…	5	6	4	2	5	4	2	3	1	5	1	…	3	2	1	1	…	…	…	1	2	…	1	3	1	…	3
六高		36	9	14	0	1	1	…	3	4	2	3	4	5	1	0	3	3	0	1	1	3	…	…	1	3	…	…	1	0	…	…	5	…	1	…	1	…	2
		67	10	16	1	1	1	…	3	4	15	4	8	10	4	1	4	6	5	4	1	4	…	…	2	3	…	…	1	1	…	…	5	…	3	…	1	…	3
七高		19	11	7	2	1	…	1	1	6	2	1	…	0	1	…	1	1	…	0	…	…	…	…	…	1	0	…	…	…	…	…	1	…	1	…	2	1	1
		45	22	12	3	1	…	1	1	6	7	1	…	6	2	…	1	5	…	1	…	…	…	…	…	2	2	…	…	…	…	…	1	…	1	…	2	1	1
八高		16	10	9	5	2	2	2	4	9	9	6	2	5	3	…	1	1	…	5	…	7	4	0	2	0	…	2	1	1	1	…	4	…	3	2	…	0	2
		51	22	18	5	2	2	2	5	9	30	7	12	13	4	…	4	5	…	9	…	9	5	2	2	3	…	2	1	2	1	…	4	…	3	2	…	1	2
新潟		10	1	1	1	1	…	1	1	△7	0	…	0	2	…	0	…	1	…	0	…	…	…	0	…	…	2	1	…	1	…	…	…	…	1	2	1	…	…	…
		22	6	7	3	1	…	1	1	6	4	…	2	6	…	1	…	3	…	1	…	…	…	1	…	…	3	1	…	1	…	…	…	…	1	3	1	…	…	…
松本		6	4	5	3	1	…	1	2	△4	1	1	0	0	0	…	0	0	1	0	1	1	1	0	0	0	…	…	…	…	…	…	3	△1	2	2	1	0	1
		23	14	16	5	1	…	1	2	2	16	2	2	1	2	…	1	1	2	1	1	8	1	1	3	1	…	…	…	…	…	…	3	…	6	2	1	1	1
山口		11	6	6	1	…	…	…	1	3	2	…	1	1	…	…	…	0	…	0	…	…	…	…	…	1	…	2	…	…	…	…	1	…	…	1	…	…	…
		22	9	10	1	…	…	…	2	3	9	…	3	1	…	…	…	2	…	1	…	…	…	…	…	1	…	2	…	…	…	…	1	…	…	1	…	…	…
松山		11	4	1	…	1	1	3	1	1	2	1	1	1	0	0	0	0	1	2	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	1	…	0	1	1	…	1
		22	10	6	…	1	1	3	3	1	3	1	2	5	2	1	1	1	1	9	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	1	…	1	1	1	…	2
水戸		20	8	11	1	2	1	…	0	△17	5	1	1	3	0	1	0	0	1	0	…	…	…	…	0	0	…	…	…	…	…	1	…	…	6	1	1	…	…
		68	24	22	2	2	1	…	2	15	27	1	3	14	1	1	4	2	5	1	…	…	…	…	1	2	…	…	…	…	…	1	…	…	8	1	2	…	…
山形		14	3	4	1	0	…	…	1	11	2	1	0	0	1	…	0	0	1	0	…	1	…	…	0	1	…	…	0	…	…	…	0	△2	1	2	2	0	1
		45	12	8	1	1	…	…	1	11	14	1	3	2	3	…	1	1	1	2	…	4	…	…	2	2	…	…	1	…	…	…	1	1	2	2	3	1	1
佐賀		7	7	3	0	…	1	1	1	10	0	1	1	0	2	0	1	0	1	…	…	1	0	…	0	0	…	…	…	…	…	1	…	1	△1	1	1	1	…	0
		11	11	5	1	…	1	1	1	10	7	2	3	2	3	2	1	2	2	…	…	5	1	…	1	2	…	…	…	…	…	1	…	3	…	3	1	1	…	2
弘前		8	4	1	0	1	1	1	1	△10	1	1	…	0	…	0	0	0	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1	…	…	3	…	…	2	0	…	…
		27	16	16	2	2	1	2	1	8	8	2	…	1	…	1	1	2	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1	…	…	3	…	…	2	1	…	…
松江		14	2	4	1	0	…	…	0	△10	2	2	1	1	…	…	1	0	1	0	…	1	…	…	1	…	…	1	1	…	…	…	2	△2	0	3	2	1	4
		24	3	12	2	1	…	…	2	9	9	3	2	4	…	…	1	1	2	2	…	3	…	…	2	…	…	1	1	…	…	…	2	1	2	3	3•	1	5
東京		28	10	5	1	1	…	1	…	7	9	1	3	4	3	1	2	8	3	0	1	1	…	1	2	0	…	…	1	…	…	…	…	…	6	2	2	1	…
		48	19	11	2	1	…	1	…	7	22	2	6	8	8	1	4	8	6	2	1	7	…	1	3	2	…	…	1	…	…	…	…	…	6	2	2	1	…

（昭和九年度）

東大入學率一覽表（其の二）

（數字の上段は入學者數下段は受驗者數）

	◇法	◇經		◇文						◇醫		◇工											◇理								◇農						
		經濟	商業	國文	國史	心理	社會	英文	其他	醫學	藥學	土木	機械	船舶	航空	造兵	電氣	建築	應化	火藥	鑛冶	數學	天文	物理	化學	動物	植物	地質	鑛物	地理	地震	農學	農土	農化	林學	獸醫	水產	農經
大阪		26	4	1	1	1	…	…	1	3	4	0	…	0	…	1	0	1	…	3	…	1	…	…	2	…	…	…	…	…	…	1	2	…	…	…	…	…	…
		36	5	1	1	1	…	…	1	3	8	1	…	6	…	4	2	2	…	5	…	4	…	…	2	…	…	…	…	…	…	1	2	…	…	…	…	…	…
浦和		42	8	6	3	2	…	…	3	12	6	3	6	12	1	…	2	1	2	0	…	8	1	1	2	0	0	…	…	…	…	…	1	…	1	3	…	1	…
		85	27	16	3	2	…	…	3	12	37	5	12	17	6	…	3	3	4	1	…	11	1	1	2	1	1	…	…	…	…	…	1	…	1	3	…	1	…
福岡		19	7	3	…	3	2	…	…	9	1	1	…	2	…	1	1	…	…	…	…	0	…	…	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1
		40	16	6	…	3	2	…	…	9	3	1	…	6	…	1	1	…	…	…	…	1	…	…	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1
靜岡		26	12	10	4	…	1	2	2	△6	5	0	2	1	1	0	…	2	0	3	…	2	…	1	1	1	…	…	…	…	1	…	…	△1	4	1	…	1	2
		61	19	13	5	…	1	2	2	5	14	2	3	6	5	4	…	7	1	5	…	3	…	1	3	2	…	…	…	…	1	…	…	…	5	1	…	2	2
高知		14	3	1	1	…	…	…	1	△5	0	0	0	1	…	…	…	…	…	1	…	…	1	…	…	0	…	…	…	…	…	…	1	…	…	2	1	…	…
		37	8	5	2	…	…	…	3	4	3	1	1	4	…	…	…	…	…	1	…	…	1	…	…	1	…	…	…	…	…	…	1	…	…	2	1	…	…
姬路		14	2	5	2	1	3	1	0	△7	0	1	1	…	1	…	…	1	1	1	…	…	…	…	…	0	…	…	…	…	…	…	2	…	1	3	…	…	1
		37	5	13	3	2	3	1	1	5	5	1	4	…	1	…	…	3	1	1	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	2	…	1	3	…	…	1
廣島		23	6	9	0	2	3	3	1	11	2	…	1	2	1	…	0	2	1	0	…	1	…	…	0	3	…	…	1	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…
		47	14	13	1	2	3	3	1	11	12	…	2	4	3	…	1	3	3	2	…	1	…	…	1	3	…	…	1	…	…	…	…	…	1	1	…	…	…
臺北		7	1	1	…	…	…	…	1	7	2	…	0	0	0	…	…	0	1	0	…	0	…	…	2	…	…	…	…	…	…	…	1	1	2	1	…	0	…
		23	4	2	…	…	…	…	1	7	13	…	1	2	1	…	…	2	2	1	…	1	…	…	2	…	…	…	…	…	…	…	1	1	3	1	…	1	…
富山		10	4	2	2	…	…	…	0	9	1	…	0	0	1	1	…	0	…	1	…	0	1	…	…	1	…	…	…	…	…	…	3	…	1	2	..	1	1
		15	10	4	3	…	…	…	1	9	4	…	1	1	1	1	…	3	…	1	…	3	1	…	…	1	…	…	…	…	…	…	3	…	1	2	..	1	1
浪速		7	1	1	…	1	2	1	0	△5	0	0	…	1	…	…	…	0	1	…	…	0	…	…	0	0	…	…	…	…	…	…	1	0	2	0	…	0
		15	2	3	…	1	2	2	1	4	2	1	…	3	…	…	…	1	3	…	…	1	…	…	1	1	…	…	…	…	…	…	1	1	2	1	…	1
府立		23	6	10	1	1	…	1	…	△10	6	2	2	2	2	0	…	0	1	1	…	0	1	…	0	0	3	1	2	…	…	…	1	△1	7	3	2	…	1
		49	21	18	2	1	…	1	…	9	22	3	4	5	8	1	…	1	3	4	…	1	1	…	1	2	3	2	2	…	…	…	2	…	7	3	2	…	1
武藏		14	10	0	…	2	…	…	…	4	9	1	2	0	1	…	1	1	1	1	…	2	…	…	3	3	…	…	1	…	…	…	2	…	5	1	…	…	1
		17	14	1	…	2	…	…	…	4	18	1	5	3	2	…	1	5	2	1	…	5	…	…	3	3	…	…	1	…	…	…	2	…	5	1	…	…	1
甲南		2	1	2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	0	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1	…	…	…
		7	3	2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	…	…	…	1	…	…	…
成蹊		5	4	3	…	…	…	…	…	4	1	0	…	2	…	0	0	1	0	1	…	1	…	…	…	0	…	…	1	…	…	1	2	…	…	…	1	…	…
		25	7	7	…	…	…	…	…	4	7	1	…	5	…	1	1	1	1	4	…	2	…	…	…	1	…	…	1	…	…	1	2	…	…	…	1	…	…
成城		1	2	0	…	2	…	…	1	10	0	…	0	0	0	…	…	0	0	…	…	0	1	…	…	…	0	…	…	…	…	…	1	…	0	1	0	…	0
		13	7	9	…	2	…	…	1	10	5	…	1	4	2	…	…	1	3	…	…	1	1	…	…	…	1	…	…	…	…	…	1	…	4	1	2	…	1
學習院		1	3	0	…	…	…	…	…	6	0	0	…	0	…	0	0	0	…	0	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	0	△1	…	…	…	1	…
		3	11	4	…	…	…	…	…	6	2	1	…	3	…	1	3	2	…	1	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	…	…	1	…	…	…	…	1	…
其他		7	0	1	…	1	…	…	2	4	0	…	…	1	1	…	…	1	…	0	…	0	…	…	1	…	…	…	…	…	…	…	…	1	…	1	…	…
		14	1	1	…	1	…	…	2	4	3	…	…	1	1	…	…	1	…	1	…	1	…	…	1	…	…	…	…	…	…	…	…	2	…	1	…	…

（註）數字中△印付きは第二志願入學者を加算す

	哲學			美學	美術史學	言語學	英文學	獨文學	佛文學	教育學		
	東京	京都	東文理	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東京	東文理	廣文理
	一	八五	一二	一	一	一	一	一	一	一	一三	一五
	一六			二六	二六	七	五〇	二六	二一	二〇		
	一三	七八	三	二三	二三	四	四三	一八	一九	一六	一四	四
	一	五二	三	一	一	一	一	一	一	一	一	五
	三	一	二	三	三	三	七	八	二	四	一二	四
	一六	一三〇	五	二六	二六	七	五〇	二六	二一	二〇	二六	三九
	一六	六一	一	二六	二六	九	三八	二七	二二	二七	一	一
	一	四八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一七	三	一	一	一	一	一	一	一	一七	一	八
	一七	一四	四	二六	二六	九	三八	二七	二二	二七	一七	一〇

東大

	法	經		文					醫		工	
		經濟	商業	國文	國史	心理	社會	英文	其他	醫學	藥學	土木	機械
大阪		26	4	1	1	1	…	…	1	3	4	0	…	0
		36	5	1	1	1	…	…	1	3	8	1	…	6
浦和		42	8	6	3	2	…	…	3	12	6	3	6	12
		85	27	16	3	2	…	…	3	12	37	5	12	17
福岡		19	7	3	…	3	2	…	…	9	1	1	…	2
		40	16	6	…	3	2	…	…	9	3	1	…	6
靜岡		26	12	10	4	…	1	2	2	△6	5	0	2	1
		61	19	13	5	…	1	2	2	5	14	2	3	6
高知		14	3	1	1	…	…	…	1	△5	0	0	0	1
		37	8	5	2	…	…	…	3	4	3	1	1	4
姬路		14	2	5	2	1	3	1	0	△7	0	1	1	…
		37	5	13	3	2	3	1	1	5	5	1	4	…
廣島		23	6	9	0	2	3	3	1	11	2	…	1	2
		47	14	13	1	2	3	3	1	11	12	…	2	4
臺北		7	1	1	…	…	…	…	1	7	2	…	0	0
		23	4	2	…	…	…	…	1	7	13	…	1	2
富山		10	4	2	2	…	…	…	0	9	1	…	0	0
		15	10	4	3	…	…	…	1	9	4	…	1	1
浪速		7	1	1	…	1	2	1	0	△5	0	0	…	1
		15	2	3	…	1	2	2	1	4	2	1	…	3
府立		23	6	10	1	1	…	1	…	△10	6	2	2	2
		49	21	18	2	1	…	1	…	9	22	3	4	5
武藏		14	10	0	…	2	…	…	…	4	9	1	2	0
		17	14	1	…	2	…	…	…	4	18	1	5	3
甲南		2	1	2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
		7	3	2	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
成蹊		5	4	3	…	…	…	…	…	4	1	0	…	2
		25	7	7	…	…	…	…	…	4	7	1	…	5
成城		1	2	0	…	2	…	…	1	10	0	…	0	0
		13	7	9	…	2	…	…	1	10	5	…	1	4
學習院		1	3	0	…	…	…	…	…	6	0	0	…	0
		3	11	4	…	…	…	…	…	6	2	1	…	3
其他		7	0	1	…	1	…	…	2	4	0	…	…	1
		14	1	1	…	1	…	…	2	4	3	…	…	1

（註）

（禁轉載）

帝大各學部入學志望者・出願者・入學者調（昭和八年度）

學部學科	大學	收容豫定數	入學志望者	出願者 本年卒業者 第一次	出願者 本年卒業者 第二次	出願者 本年以前卒業者 第一次	出願者 本年以前卒業者 第二次	出願者 計	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年卒業者 第一次	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年卒業者 第二次	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年以前卒業者 第一次	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年以前卒業者 第二次	入學者 學士轉學 轉科 轉部	入學者 其他學校出身	入學者 計
法學部	東京	六五〇	一、〇二〇	七八一	—	二三七	—	一、〇一八	四〇四	—	一二五	—	一二	—	五四一
法學部	京都	四〇〇	三四七	五〇〇	—	一一六	—	六一六	六〇五	—	—	—	—	一	六〇六
法學部	計	一、〇五〇	一、三六七	一、二八一	—	三五三	—	一、六三四	一、〇〇九	—	一二五	—	一二	一	一、一四七
法律學	東京	六五〇	一、〇一八	七八一	—	二三七	—	一、〇一八	四〇四	—	一二五	—	一二	—	五四一
政治學	東京		三二六	一八二	—	一四四	—	三二六	一三九	—	三七	—	三七	—	二一三
醫學部	東京	一六五	五六一	二八七	—	二七四	—	五六一	八〇	—	八五	—	—	—	一六五
醫學部	大阪	一〇〇	二六一	一五九	—	一〇二	—	二六一	五六	—	四四	—	—	—	一〇〇
醫學部	京都	一二〇	三〇四	一六二	—	一四二	—	三〇四	六二	—	五八	—	—	—	一二〇
醫學部	九州	一二〇	二八六	一六八	—	一一八	—	二八六	六三	—	五七	—	—	—	一二〇
醫學部	東北	一〇〇	二二四	一三〇	—	九四	—	二二四	四九	—	五五	—	—	—	一〇四
醫學部	新潟	八〇	一一八	七六	—	四二	—	一一八	四九	—	三二	—	—	—	八一
醫學部	岡山	八〇	一二七	七八	—	四九	—	一二七	四六	—	三七	—	—	—	八三
醫學部	千葉	八〇	一七〇	九一	—	七九	—	一七〇	三八	—	四二	—	—	一	八一
醫學部	金澤	八〇	一三一	七八	—	五三	—	一三一	四六	—	三四	—	—	—	八〇
醫學部	長崎	八〇	一一一	五八	—	五三	—	一一一	四〇	—	四〇	—	—	—	八〇
醫學部	熊本	八〇	一三〇	七二	—	五八	—	一三〇	四二	—	三八	—	—	—	八〇
醫學部	計	九八五	二、四二三	一、三五九	—	一、〇六四	—	二、四二三	五七一	—	五二二	—	—	一	一、〇九四
醫學	東京	一三〇	四九六	二五六	—	二四〇	—	四九六	五八	—	七二	—	—	—	一三〇
醫學	大阪	一〇〇	二六一	一五九	—	一〇二	—	二六一	五六	—	四四	—	—	—	一〇〇
醫學	京都	一二〇	三一五	一六六	—	一四九	—	三一五	六二	—	六〇	—	—	—	一二二
醫學	九州	一二〇	二八六	一六八	—	一一八	—	二八六	六三	—	五七	—	—	—	一二〇
醫學	東北	一〇〇	二二四	一三〇	—	九四	—	二二四	四九	—	五五	—	—	—	一〇四
醫學	新潟	八〇	一一八	七六	—	四二	—	一一八	四八	—	三二	—	—	—	八一
醫學	岡山	八〇	一二七	七八	—	四九	—	一二七	四六	—	三七	—	—	—	八三
醫學	千葉	八一	一七〇	九一	—	七九	—	一七〇	三八	—	四二	—	—	一	八一
醫學	金澤	八〇	一三一	七八	—	五三	—	一三一	四六	—	三四	—	—	—	八〇
醫學	長崎	八〇	一一一	五八	—	五三	—	一一一	四〇	—	四〇	—	—	—	八〇
醫學	熊本	八〇	一三〇	七二	—	五八	—	一三〇	四二	—	三八	—	—	—	八〇
藥學	東京	三五	六五	三一	—	三四	—	六五	二二	—	一三	—	—	—	三五
工學部	東京	三二四	八四八	五四二	—	三〇七	—	八四八	二一八	—	一〇六	—	—	—	三二四
工學部	大阪	一二九	一七三	八九	二〇	四一	二三	一七三	五一	七	一五	九	—	四三	一二五
工學部	京都	一八六	二三一	一八九	—	四二	—	二三一	一四〇	—	四六	—	—	—	一八六
工學部	九州	一一二	一五四	一一五	—	三九	—	一五四	八五	—	二五	—	—	四	一一四
工學部	東北	八〇	一〇九	五〇	七	二九	二三	一〇九	四五	—	二四	九	—	—	七八
工學部	東工業	一五〇	二九一	六三	—	二八	—	九一	三五	—	二七	—	—	七〇	一三二
工學部	計	九八一	一、八〇六	一、〇四八	二七	四八六	四六	一、六〇六	五七四	七	二四三	一八	—	一一七	九五九
土木工學	東京	四〇	一〇五	六二	—	四三	—	一〇五	三三	—	七	—	—	—	四〇
土木工學	京都	三五	五三	四一	—	一二	—	五三	二三	—	一二	—	—	—	三五
土木工學	九州	一五	二七	二一	—	六	—	二七	一一	—	四	—	—	—	一五
機械工學	東京	七八	二三八	一四九	—	八九	—	二三八	五三	—	二五	—	—	—	七八
機械工學	大阪	四〇	五一	四一	—	一〇	—	五一	二二	—	五	—	—	一三	四〇
機械工學	京都	三五	五四	四七	—	七	—	五四	二八	—	七	—	—	—	三五
機械工學	九州	一五	三〇	二三	—	七	—	三〇	一一	—	四	—	—	一	一六
機械工學	東北	二〇	二二	一六	—	六	—	二二	一五	—	六	—	—	—	二一
機械工學	東工業	三〇	六七	二二	—	八	—	三〇	一二	—	一〇	—	—	一二	三四
船舶工學	東京	三一	五二	四〇	—	一二	—	五二	一六	—	一五	—	—	—	三一
航空學	東京	九	四〇	二七	—	一三	—	四〇	六	—	三	—	—	—	九
造兵學	東京	一七	四五	三一	—	一四	—	四五	一二	—	五	—	—	—	一七
電氣工學	東京	三五	一〇〇	六一	—	三九	—	一〇〇	二四	—	一一	—	—	—	三五
電氣工學	大阪	一八	二六	一五	—	一一	—	二六	七	—	四	—	—	八	一九
電氣工學	京都	五〇	五八	五〇	—	八	—	五八	四三	—	七	—	—	—	五〇
電氣工學	九州	二〇	二九	二三	—	六	—	二九	一五	—	三	—	—	—	一八

學科	大學														
船舶工學	東京	三一	五二	四〇	—	一二	—	五二	一六	—	一五	—	—	—	三一
航空學	東京	九	四〇	二七	—	一三	—	四〇	六	—	三	—	—	—	九
造兵學	東京	一七	四五	三一	—	一四	—	四五	一二	—	五	—	—	—	一七
電氣工學	東京	三五	一〇〇	六一	—	三九	—	一〇〇	二四	—	一一	—	—	—	三五
	大阪	一八	二六	一五	—	一一	—	二六	七	—	四	—	—	八	一九
	京都	五〇	五八	五〇	—	八	—	五八	四三	—	七	—	—	—	五〇
	九州	二〇	二九	二三	—	六	—	二九	一五	—	三	—	—	—	一八
	東北	二〇	二六	一三	—	一三	—	二六	一一	—	一〇	—	—	一	二二
	東工業	二五	五六	四	—	五	—	九	二	—	六	—	—	二二	二九
建築學	東京	三四	八五	五三	—	三二	—	八五	二一	—	一三	—	—	—	三四
	京都	一五	一九	一四	—	五	—	一九	一〇	—	五	—	—	—	一五
	東工業	二〇	四四	一三	—	三	—	一六	一〇	—	四	—	—	七	二一
應用化學	東京	二八	九〇	六五	—	二五	—	九〇	二〇	—	八	—	—	—	二八
	大阪	二二	二四	一七	—	七	—	二四	一二	—	三	—	—	五	二〇
	九州	一五	二一	一八	—	三	—	二一	一二	—	三	—	—	—	一五
	東工業	二四	四一	六	—	六	—	一二	七	—	六	—	—	一一	二四
工業化學	京都	二四	二六	二〇	—	六	—	二六	一四	—	一〇	—	—	—	二四
化學工學	東北	二〇	四〇	七	七	三	二三	四〇	七	—	四	九	—	—	二〇
火藥學	東京	五	一二	九	—	三	—	一二	四	—	—	—	—	—	四
鑛山及冶金學	東京	四七	八一	四五	—	三六	—	八一	二九	—	一八	—	—	—	四七
冶金學	九州	一七	一七	一二	—	五	—	一七	一三	—	四	—	—	一	一八
	大阪	一五	二五	六	六	三	一〇	二五	三	一	—	四	—	七	一五
採鑛學	九州	二〇	一七	一一	—	六	—	一七	一七	—	二	—	—	二	二一
採鑛冶金學	京都	二七	二一	一七	—	四	—	二一	二二	—	五	—	—	—	二七
金屬工學	東北	二〇	二一	一四	—	七	—	二一	一二	—	四	—	—	—	一六
造船學	九州	一〇	一三	七	—	六	—	一三	五	—	五	—	—	—	一〇
	大阪	一三	二〇	七	三	四	六	二〇	六	二	一	二	—	二	一三
釀造學	大阪	二三	二七	三	一一	六	七	二七	一	四	二	三	—	八	一七
染料化學	東工業	一二	二四	一	—	—	—	一	六	—	—	—	—	六	一二
紡織學	東工業	一五	一八	六	—	四	—	一〇	二	—	—	—	—	九	一一
窯業學	東工業	一二	二四	三	—	—	—	三	三	—	三	—	—	五	一一
電氣化學	東工業	一二	一七	八	—	二	—	一〇	五	—	二	—	—	六	一一
文學部	東京	四〇〇	四一六	三三四	—	八二	—	四一六	三九九	—	—	—	二	—	四〇一
	京都	二一〇	二九五	二〇八	一二四	—	—	三三二	一六七	一一六	—	—	九	一〇	三〇二
	東文理	六二	—	三一	—	三九	—	七〇	—	—	—	—	—	四四	四四
	廣文理	一七〇	—	三六	八	四二	三七	一二三	八	—	—	—	三	五五	六六
	計	八四二	七一一	六〇九	一三二	一六三	三七	九四一	五七四	一一六	—	—	一四	一〇九	八一三
國文學	東京	—	五五	四七	—	八	—	五五	三八	—	—	—	—	—	三八
國史學	東京	—	三四	二九	—	五	—	三四	二八	—	—	—	—	—	二八
支那哲學・支那文學	東京	—	二〇	一四	—	六	—	二〇	二六	—	—	—	—	—	二六
東洋史學	東京	—	二六	二〇	—	六	—	二六	二一	—	—	—	一	—	二二
西洋史學	東京	—	二八	一八	—	一〇	—	二八	二四	—	—	—	—	—	二四
印度哲學・梵文學	東京	—	一五	一四	—	一	—	一五	一六	—	—	—	—	—	一六
心理學	東京	—	一三	一一	—	二	—	一三	一七	—	—	—	—	—	一七
倫理學	東京	—	一九	一四	—	五	—	一九	二〇	—	—	—	—	—	二〇
宗教學・宗教史學	東京	—	二四	一七	—	七	—	二四	二四	—	—	—	—	—	二四
社會學	東京	—	一六	一四	—	二	—	一六	二〇	—	—	—	—	—	二〇
教育學	東京	—	二〇	一六	—	四	—	二〇	二七	—	—	—	—	—	二七
	東文理	一三	—	一四	—	一二	—	二六	—	—	—	—	—	一七	一七
	廣文理	一五	—	四	五	四	二二	三九	一	—	—	—	一	八	一〇
美學美術史學	東京	—	二六	二三	—	三	—	二六	二六	—	—	—	—	—	二六
言語學	東京	—	七	四	—	三	—	七	九	—	—	—	—	—	九
英文學	東京	—	五〇	四三	—	七	—	五〇	三八	—	—	—	—	—	三八
獨文學	東京	—	二六	一八	—	八	—	二六	二七	—	—	—	—	—	二七
佛文學	東京	—	二一	一九	—	二	—	二一	二二	—	—	—	—	—	二二
哲學	東京	—	一六	一三	—	三	—	一六	一六	—	—	—	一	—	一七
	京都	八五	—	七八	五二	—	—	一三〇	六一	四八	—	—	二	三	一一四
	東文理	一二	—	三	—	二	—	五	—	—	—	—	—	四	四
	廣文理	一五	—	三	三	—	一五	二一	二	—	—	—	—	四	六

學部	學科	大學	收容豫定數	入學志望者	出願者 本年卒業者 第一次	出願者 本年卒業者 第二次	出願者 本年以前卒業者 第一次	出願者 本年以前卒業者 第二次	出願者 計	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年卒業者 第一次	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年卒業者 第二次	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年以前卒業者 第一次	入學者 高等學校（學習院共）出身 本年以前卒業者 第二次	學士轉學 轉科 轉部	其他學校出身	計
	史學	京都	四〇	—	四七	—	—	—	四七	三九	—	—	—	四	一	四〇
	史學	東文理	一二	—	二	—	一二	—	一四	—	—	—	—	—	八	八
	史學	廣文理	二〇	—	一二	—	一五	—	二七	三	—	—	—	一	一七	二一
	文學	京都	八五	—	八三	七二	—	—	一五五	六七	六八	—	—	三	六	一四四
	文學	東文理	二五	—	一二	—	一三	—	二五	—	—	—	—	一	一五	一五
	文學	廣文理	二〇	—	一七	—	二三	—	四〇	二	—	—	—	一	二六	二九
理學部		東京	一一六	一九四	一四一	—	五三	—	一九四	八五	—	二四	—	二	二	一一三
理學部		京都	九一	一六八	七〇	九八	—	—	一六八	六六	—	二七	—	二	二	九七
理學部		東北	七五	九五	三五	八	三四	一八	九五	三四	—	二八	三	—	一五	八〇
理學部		東文理	三八	—	二八	—	一八	—	四六	—	—	三	—	—	三二	三五
理學部		廣文理	三〇	—	一六	三	二五	九	五三	—	—	一	—	—	三六	三七
理學部		計	三五〇	四五七	二九〇	一〇九	一三〇	二七	五五六	一八五	—	八三	三	四	八七	三六二
	數學	東京	一五	二一	一四	—	七	—	二一	一〇	—	五	—	—	—	一五
	數學	京都	二〇	二七	一三	一四	—	—	二七	一四	—	五	—	二	—	二一
	數學	東北	一五	二三	一〇	一	八	三	二三	九	—	七	—	—	三	一九
	數學	東文理	一〇	—	一〇	—	五	—	一五	—	—	一	—	—	一〇	一一
	數學	廣文理	一〇	—	九	—	一一	—	二〇	二	—	二	—	—	一六	一六
	天文學	東京	五	七	六	—	一	—	七	四	—	一	—	—	—	五
	物理學	東京	三〇	五二	三六	—	一六	—	五二	一九	—	九	—	一	一	三〇
	物理學	京都	一七	四二	一三	二九	—	—	四二	一三	—	五	—	—	—	一八
	物理學	東北	一五	一八	七	一	一〇	—	一八	七	—	六	—	—	四	一七
	物理學	東文理	六	—	一	—	四	—	五	—	—	一	—	—	三	四
	物理學	廣文理	五	—	三	—	三	—	六	—	—	一	—	—	四	五
	地球物理學	京都	五	六	二	四	—	—	六	三	—	二	—	—	—	五
	宇宙物理學	京都	四	七	四	三	—	—	七	四	—	—	—	—	—	四
	化學	東京	二四	六三	四七	—	一六	—	六三	二三	—	一	—	—	—	二四
	化學	京都	二五	五四	二二	三二	—	—	五四	二〇	—	七	—	—	—	二七
	化學	東北	一五	一六	七	—	九	—	一六	七	—	九	—	—	—	一六
	化學	東文理	六	—	二	—	一	—	三	—	—	—	—	—	三	三
	化學	廣文理	五	—	一	—	七	—	八	—	—	—	—	—	七	七
	動物學	東京	八	八	六	—	二	—	八	六	—	一	—	—	—	七
	動物學	京都	五	六	六	—	—	—	六	四	—	二	—	—	—	六
	植物學	東京	八	一二	八	—	四	—	一二	六	—	二	—	—	—	八
	植物學	京都	五	七	五	二	—	—	七	三	—	二	—	—	一	六
	生物學	東北	一〇	一一	五	—	六	—	一一	五	—	五	—	—	—	一〇
	生物學	東文理	一〇	—	一〇	—	四	—	一四	—	—	一	—	—	一〇	一一
	生物學	廣文理	一〇	—	三	三	四	九	一九	—	—	—	一	—	九	九
	地理學	東京	五	九	六	—	三	—	九	三	—	一	—	一	—	五
	地質學	東京	一二	一四	一二	—	二	—	一四	八	—	三	—	—	一	一二
	鑛物學	東京	四	五	二	—	—	—	二	二	—	—	—	—	—	二
	地質學鑛物學	京都	一〇	一九	五	一四	—	—	一九	五	—	四	—	—	一	一〇
	地震學	東京	五	五	四	—	一	—	五	四	—	一	—	—	—	五
	地理學	東文理	六	—	五	—	四	—	九	—	—	—	—	—	六	六
	岩石鑛物鑛床學	東北	一〇	一二	三	一	一	七	一二	三	—	一	一	—	三	八
	地質學古生物學	東北	一〇	一六	三	五	—	八	一六	三	—	—	二	—	五	一〇
農學部		東京	二一五	二九〇	一九二	—	九八	—	二九〇	一四四	—	六九	—	四	—	二一七
農學部		京都	一二〇	一五三	七一	三八	三四	一〇	一五三	六六	八	四	三五	一	四	一一八
農學部		九州	九五	一三六	二〇	一八	二一	四三	一〇二	二〇	一二（△二）	二〇	二七（△四）	—	一三	九二（△六）
農學部		計	四三〇	五七九	二八三	五六	一五三	五三	五四五	二三〇	二〇（△二）	九三	六二（△四）	五	一七	四二七（△六）
	農學	東京	四〇	五七	三一	—	一五	—	四六	三〇	—	一〇	—	二	—	四二
	農學	京都	二五	三四	一八	六	七	三	三四	一六	二	五	—	—	—	二六
	農學	九州	四〇	五七	一五	五	一一	一二	四三	一一	五	八	一一	—	五	四〇
同	農業土木學	東京	一五	二七	六	—	七	—	一三	八	—	七	—	—	—	一五

學科	大學														
地理學	東文理	六	—	五	—	四	—	九	—	—	—	—	—	六	六
岩石鑛物鑛床學	東北	一〇	一二	三	一	一	七	一二	三	—	一	一	—	三	八
地質學古生物學	東北	一〇	一六	三	五	—	八	一六	三	—	—	二	—	五	一〇
農學部	東京	二一五	二九〇	一九二	—	九八	—	二九〇	一四四	—	六九	—	四	—	二一七
農學部	京都	一二〇	一五三	七一	三八	三四	一〇	一五三	六六	八	四	三五	一	四	一一八
農學部	九州	九五	一三六	二〇	一八	二一	四三	一〇二	二〇	△二 一二	二〇	△四 二七	—	一三	△六 九二
農學部	計	四三〇	五七九	二八三	五六	一五三	五三	五四五	二三〇	△二 二〇	九三	△四 六二	五	一七	△六 四二七
農學	東京	四〇	五七	三一	—	一五	—	四六	三〇	—	一〇	—	二	—	四二
農學	京都	二五	三四	一八	六	七	三	三四	一六	二	五	—	—	—	二六
農學	九州	四〇	五七	一五	五	一一	一二	四三	一一	五	八	一一	—	五	四〇
同 農業土木工學專攻	東京	一五	二七	六	—	七	—	一三	八	—	七	—	—	—	一五
農藝化學	東京	五〇	五四	七一	—	二五	—	九六	三七	—	一三	—	—	—	五〇
農藝化學	九州	四〇	六三	五	一一	九	二三	四八	五	七	九	一四	—	四	三九
農業經濟學	東京	三〇	二六	二七	—	二三	—	五〇	一五	—	一五	—	一	—	三一
林學	東京	四五	四〇	三五	—	一四	—	四九	三一	—	一三	—	—	—	四四
林學	京都	二五	三八	九	一九	七	三	三八	六	六	一〇	一	—	—	二三
林學	九州	一五	一六	—	二	一	八	一一	—	△二 三	一	△四 八	—	二	一四
獸醫學	東京	二五	二六	一四	—	九	—	二三	一五	—	九	—	一	—	二五
水產學	東京	一〇	一三	八	—	五	—	一三	八	—	二	—	—	—	一〇
農林化學	京都	二五	二四	一九	—	五	—	二四	一八	—	五	—	—	—	二三
農林工學	京都	一〇	一四	四	二	四	四	一四	五	一	四	—	—	—	一〇
農林經濟學	京都	二五	二九	一六	五	八	—	二九	一六	—	九	—	四	—	二九
農林生物學	京都	一〇	一四	五	六	三	—	一四	五	三	二	—	—	—	一〇
經濟學部	東京	三五〇	六七五	四九六	—	一七九	—	六七五	二四九	—	一〇九	—	三七	—	三九五
經濟學部	京都	二五〇	三八七	二五一	—	七六	—	三八七	二五一	—	七〇	—	五	一	三二七
經濟學部	計	六〇〇	一、〇六二	七四七	—	二五五	—	一、〇六二	五〇〇	—	一七九	—	四二	一	七二二
經濟學	東京	二〇〇	四二九	三二二	—	一〇七	—	四二九	一四四	—	五九	—	三六	—	二三九
經濟學	京都	二五〇	一五三	二五一	—	七六	—	三二七	二五一	—	七〇	—	五	一	三二七
商業學	東京	一五〇	二四六	一七四	—	七二	—	二四六	一〇五	—	五〇	—	一	—	一五六
商學	東京商	三〇〇	一六九	一一三	—	五六	—	一六九	七七	—	—	—	—	二二八	三〇五
商學	神戶商	二〇〇	三二六	二一五	五五	五一	五	三二六	四八	—	三	—	—	一五〇	二〇一
法文學部	九州	三〇〇	四一四	四〇	三七四	—	—	四一四	三八	八三	—	—	一六	一一八	二五五
法文學部	東北	三〇〇	三一五	三一	一三一	一四	九九	二七五	三一	八八	一三	六〇	七	一三	二一二
法文學部	計	六〇〇	七二九	七一	五〇五	一四	九九	六八九	六九	一七一	一三	六〇	二三	一三一	四六七
總計	東京	三、二二〇	四、三二八	三、九五五	—	一、三七四	—	四、三二八	一、七一八	—	五五五	—	九四	—	三、三六九
總計	京都	一、三七七	一、八二五	一、四五一	二六〇	三七六	三四	一、九八八	一、四四四	一八二	二一三	三五	一八	一七	一、七五六
總計	九州	六二七	九九〇	三四三	三九二	一七八	四三	九五六	二〇六	△二 九五	一〇二	△四 二七	一六	一三五	五八一
總計	東北	五五五	八〇八	二四六	一四六	一七一	一四〇	七〇三	一五九	八八	一二〇	七二	七	二八	四七四
總計	大阪	二二九	四三四	二四八	二〇	一四三	二三	四三四	一〇七	七	五九	九	—	四三	二二五
總計	新潟	八〇	一一八	七六	—	四二	—	一一八	四九	—	三二	—	—	—	八一
總計	岡山	八〇	一二七	七八	—	四九	—	一二七	四六	—	三七	—	—	—	八三
總計	千葉	八〇	一七〇	九一	—	七九	—	一七〇	三八	—	四二	—	—	一	八一
總計	金澤	八〇	一三一	七八	—	五三	—	一三一	四六	—	三四	—	—	—	八〇
總計	長崎	八〇	一一一	五八	—	五三	—	一一一	四〇	—	四〇	—	—	—	八〇
總計	熊本	八〇	一三〇	七二	—	五八	—	一三〇	四二	—	三八	—	—	—	八〇
總計	東文理	一〇〇	—	五九	—	五七	—	一一六	—	—	三	—	—	七六	七九
總計	廣文理	一〇〇	—	五二	一一	六七	四六	一七六	八	—	一	—	三	九一	一〇三
總計	東工業	一五〇	二九一	六三	—	二八	—	九一	三五	—	二七	—	—	七〇	一三二
總計	東京商	三〇〇	一六九	一一三	—	五六	—	一六九	七七	—	—	—	—	一九八	二七五
總計	神戶商	二〇〇	三二六	二一五	五五	五一	五	三二六	四八	—	三	—	—	一五一	二〇一
總計	計	六、三三八	九、九五八	六、一九八	八八四	二、八三五	二九〇	一〇、〇七四	四、〇六三	△二 三七二	一、三〇六	△四 一四三	一三八	八一〇	六、六八〇

備考

一、出願者合計中△印アルモノハ文科ヨリ理科ヘ又ハ理科ヨリ文科ヘ轉科セル者ニシテ內數ナリ。

二、入學志望者トハ毎年十一月末日文部省調査ノモノヲ言フ。

三、入學者中本年度以前卒業欄ニ空欄アルハ文部省ニ於テ調査ナキモノナリ、便宜上本年卒業者欄中ヘ組入レタリ。

尙入學者、出願者共ニ概數ハ合計ノ欄ニツイテ承知アリタシ。

四、東京帝國大學文學部ニ於テハ收容豫定數ハ全學科ニテ四〇〇名ニテ學科別收容豫定數ハ設ケズ。

農藝化學	九州	四〇	六三	五	一	九	二三	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	千葉	八〇	一七〇	九一	—	七九	—	一七〇	三八	—	四二	—	—	一	八一
	金澤	八〇	一三一	七八	—	五三	—	一三一	四六	—	三四	—	—	—	八〇
	長崎	八〇	一一一	五八	—	五三	—	一一一	四〇	—	四〇	—	—	—	八〇
	熊本	八〇	一三〇	七二	—	五八	—	一三〇	四二	—	三八	—	—	—	八〇
	東文理	一〇〇	—	五九	—	五七	—	一一六	—	—	三	—	—	七六	七九
	廣文理	一〇〇	—	五二	一一	六七	四六	一七六	八	—	一	—	三	九一	一〇三
	東工業	一五〇	二九一	六三	—	二八	—	九一	三五	—	二七	—	—	七〇	一三二
	東京商	三〇〇	一六九	一一三	—	五六	—	一六九	七七	—	—	—	—	一九八	二七五
	神戸商	二〇〇	三二六	二一五	五五	五一	五	三二六	四八	—	三	—	—	一五一	二〇一
	計	六、三三八	九、九五八	六、一九八	八八四	二、八三[illegible]	二九〇	一〇、〇七四	四、〇[illegible]	三七二 △二	一、[illegible]六	一四三 △四	一三八	八一〇	六、六八〇

備考

一、出願者合計中△印アルモノハ文科ヨリ理科ヘ又ハ理科ヨリ文科ヘ轉科セル者ニシテ内數ナリ。

二、入學志望者トハ毎年十一月末日文部省調査ノモノヲ言フ。

三、入學者中本年度以前卒業欄ニ空欄アルハ文部省ニ於テ調査ナキモノナリ、便宜上本年卒業者欄中ヘ組入レタリ。

尙入學者、出願者共ニ概數ハ合計ノ欄ニツイテ承知アリタシ。

四、東京帝國大學文學部ニ於テハ收容豫定數ハ全學科ニテ四〇〇名ニテ學科別收容豫定數ハ設ケズ。

【附錄】

帝國大學各學部入學試驗問題集

【昭和四年——昭和九年】

昭和四年度

◎大阪工業大學

外　國　語（二時間）

英　文　和　譯

1. In every country, there are certain forms of conduct and speech, by which men regulate their intercourse, and which, by the authority of long custom, are rendered, in a great measure, incapable of change. These are widely different, indifferent nations and regions, because they have taken their rise, in all cases, from fancy rather than reason, and have all been modified by a hundred accidental circumstances in their progress of refinement. Hence, too, the manners of one people have always some appearance of ridiculous folly, in the eyes of another, so far as they are found to be different. (30點)

2. As we know, cold water sinks and warm water rises. In accordance with that principle great volumes of cold water sink from the melting ice in the Polar regions and stream along the floor of the oceans toward the Equator. The deeper we plumb the colder the sea becomes, and at 2000 fathoms it is almost ice cold. Even in tropical seas, whose surface temperature may reach from 80 to 90 degrees Fahrenheit, the water in the depths is icy cold. (20點)

3. Marvels crowd thick upon one another in our day, but the mind is still arrested and the imagination kindled by a feat so remarkable as that of the American Army aeroplane which has remained in continuous flight for 150 hours, refuelled constantly in mid-air by other aeroplanes. It has even been possible to mitigate the rigours of the crew's celestial existence by delivering the latest newspapers, with accounts of their exploit. (20點)

物　　理（二時間）

1. 質量 5gr. の物體が單一弦振動 (simple harmonic vibration) をなす。今振動の中心より 3cm の距離に於て 60dyne の力が作用せるものとすれば其週期如何。

2. 攝氏千度以上の高溫度測定に普通使用せらるる方法の

一を擧げ其原理を述べよ。

3. 副尺 (vernier) の理を說明せよ。

4. 次の術語の意義を記せ。

α 粒子 (α particle)。電子。イオン。

スペクトル。光電效果(photoelectric effect)。

化　　學 (二時間)

1. 接觸作用 (Catalytic action, Katalytische Wirkung) に就て知る所を記せ。

2. 次に列記したる語に就きその相違を例を擧げて說明せよ。

(1) 複鹽 (Double Salt, Doppelsalz) と錯鹽 (Complex salt, Komplex salz)

(2) 電離 (Electrolytic dissociation, Elektrolytische dissoziation) と解離 (Dissociation, Dissoziation)

(3) 酸度 (Acidity, Azidität) と鹽基度 (Basicity, Basizität)

(4) 炭化水素 (Hydrocarbon, Kohlenwasserstoff) と炭水化物 (Carbohydrate, Kohlenhydrat)

(5) 酸アミド (Acid amide, Säoreamide) とアミノ酸 (Amino acid, Aminosäure)

(6) 脂肪 (Fat, Fett) と脂肪酸 (Fatty acid, Fettsäure)

(7) エステル (E ster, E ster) と鹽 (Salt, Salz)

(8) 重合 (Polymerisation, Polymerisation) と縮合 (Condensation, Kondensation)

3. 次の根を有する脂肪族並に芳香族炭化水素各々一例を擧げて其名稱並に構造式を記せ。

$-OH$, $-NH_2$, $-CO-$, $-NH$, NH_2, $-C\overset{=O}{-OH}$

4. 鹽酸鹽, Amine 並に Alcohol に Primary, Secondary, Tertiary の區別ある理由を記せ。

5. $Ag^{\cdot}$, $Hg^{\cdot\cdot}$, $As^{\cdot\cdot\cdot}$ の三種の陽イオンを含む水溶液あり之より各々の分離，檢出，確認するには如何なる方法を用ふるや。

數　　學

1. 任意ノ三角形ノ面積 (A) ヲソノ三邊ノ長サ a, b, c ニテ表ハス。

公式：$A=\sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$ ヲ導キ出セ，但ニ

$$s=\frac{1}{2}(a+b+c)$$

2. 相交ル二定直線 OX, OY ニ夫々 A, B ニ於テ交ル動直線 l アリ，若シ $\frac{1}{OA}+\frac{1}{OB}=k$ (定數) ナラバ，l ハ常ニ或定點ヲ過ルコトヲ證明シ，且コノ定點ノ位置ヲ決定セヨ。

3. (i) 次ノ二ツノ函數ノ微分係數ヲ求メヨ。

$$\frac{x}{x+\sqrt{x^2+a^2}}\ ;\ \sin^2 2x+\frac{1}{3}\tan^3 x$$

(ii) $f(x)=x^2e^{3x}$ ナルトキ，コノ函數ノ $x=0$ ニ於ケル微分係數ノ値：$f'(0)$ ト定積分：$\int_0^{\cdot} f(x)dx$ トヲ求メヨ。又直交軸ニ關シ，方程式：$y=f(x)$ ノ表ハス曲線ニ對シテ，上ノ二ツノ値ハ幾何學的ニ何ヲ表ハスカヲ述ベヨ。

4. 直交軸ニ關シ，方程式：$x^2y=(x-a)(b-x)$ (但シ $a>b>0$) ノ表ハス曲線ヲ描ケ。

5. 半徑ニ1ナル球ヲ二ツノ平行ナル平面 p, q ニテ三ツノ部分ニ切リ，各部ノ容積ヲ相等シカラシメントス。球ノ中心 O ヨリリカクノ如キ平面 p, q ノイヅレカニ到ル距離 x ハーツノ三次方程式ノ根ナルコトヲ證明セヨ。

◎神戸商業大學

論　　文 (三時間)

(注意)　左記の中任意の二題に付き論文を作るべし。

1. 現代經濟生活に於ける企業の地位。

2. 商業の職能。

3. 最近に於ける會計學の發達。

4. 過失と民事責任との關係。

英　　語 (二時間半)

1. (a) 下記の論說の大意を邦文にて記せ。

(b) 同文章中橫線を施せる部分を全譯せよ。

FINANCIAL IMPERIALISM

A French economist, M. Lucien Romier, writing in the Revue des Deux Mondes for July 15, discusses the kind of "imperiallism" with which the Uuited States has become associated in the minds of foreigners since the war. He accepts without demur the protests o American statesmen that, this country has not the sli-

ghtest inclination to militarism, and is without even a secret desire to annex territory by conquest, or to impose upon others its own form of government. M. Romier declares that he regards the United States as "sincerly pacific." But he adds that "no imperialism is more denounced today than the imperialism of the United States." What he means he at once explains by the fact that American has, with amazing suddenness and almost unconsciously, become the great creditor nation of the world. It is the imperialism based on American capital invested abroad that is disliked and even dreaded.

With the great amounts of American capital loaned to Europe and South America there has gone a certain demand, often only tacit, for financial control of the borrowers. Their applications for credit in this country are severaly scrutinized by the Government. The lenders wish to know what the borrowers are going to do with the funds placed at their disposal. Even with the best intentoins on the part of the creditors, they inevitably have an air of superiority and supervision face to face with the debtors. This is the kind of thing which makes present-day American financial imperialism offensive to many. But M. Romier takes pains to point out that it cannot last. Inherent in it is a self-limitation. In Europe today, thanks to the credit obtained from America, factories are more thoroughly equipped than ever before, methods of production have been improved and industrial efforts have been coordinated. It is true that the sap for reinvigorating European finance and industry has come from the United States, but "even if the first fruits are gathered by the overseas creditor, the tree remains in Europe yielding what will soon enrich its owner." Dropping this figure of speech, the author asserts that after financial imperialism of the kind he describes has been in effect for a fairly long period there will come a reversal of power, because "forces will have been roused which will one day result in competition with the creditor and restore the balance to his own detriment." The beginings of this process have already been remarked by more than one skilled sbserver re-

turning from Europe.

2. 下の事例の要點を千字以内の邦文にて記せ

Because its small customers apparently were not receiving adequate personal attention, the Excelsior Company, which manufactured writing papers, proposed to change the administrative organization as a means of improving the situation.

In 1919 the Excelsior Company was marketing its products in practically all parts of the United States. It sold directly to retailers and also to wholesalers; the sales to wholesalers were incidental, for the company intended to develop its market primarily among retailers. About 40% of the sales were made to customers who bought in large quantities. Most of those curtomers were regular patrons of the company, but among the large number of firms which bought in small quantities there was frequent change. Many small firms which previously had been customers no longer were purchasing from the company.

The company had sought to emphasize a policy of fair treatment to all its customers. Nevertheless, in the sales department and also in the credit and shipping department more personal attenion had been given to large customers than to small customers.

When the rapid turnover among customers buying in small quantities came to the attention of the executives, the sales, credit, claims and grievances and shipping departments all were organized functionally. The claims and grievances for all customers, for example, were handled directly and exclusively by a single department. The company had planned to carry this specialization of functions further as the organization expanded.

In order to improve the service given small customers, however, the company decided that the sales office should be reorganized with territorial rather than functional specialization. According to this plan, the hiring and control of all salesmen for all territories was centralized under one head. Advertising also was to be centrali zed, and there was to be a single credit department. The country was to be divided into territories, and each territory was to be assigned to one man in

the sales department. For his territory he was to have charge of the routine supervision of salesmen, of claims and grievances, and of all correspondence with customers. In dealing with matters such as credit, he, of course, was to be guided by the decisions of the credit department, but no department other than the territorial sales department was to be permitted to communicate directly with individual customers except in the case of delinquent accounts to which severe collection methods were to be applied.

◎東京文理科大學

英 文 和 譯 (二時間)

(〔 〕内の部分は答案を要せず)

1. 〔Party-spirit gives a pretext for the exercise of such scorn and malice, as cou'd not be tolerated if they did not claim to have their origin in fervent wishes for the public welfare.〕〔It consumes in idle cotests that energy which the State has need of. By the perpetual interchange of hard names it tends to make a people suspicious and uncharitable: or it inclines them to think lightly of the kind of offences which they hear so often charged against their most eminent public men; 〔or it 'gives them a habit of using epithets and affecting sensations of moral indignation which bear no proportion to the thing itself, or to their ownreal feelings about the thing; of taking the names of Truth and Virtue in vain.'〕

2. 〔But, about this time in 1666, the death-rate had sunk to nearly its ordinary amount; a case of plague occurred only here and there, and the richer citizens who had flown from the pest had returned to their dwellings. The remnant of the people began to toil at the accustomed round of duty or of pleasure; and the stream of city life bid fair to flow back along its old bed, with renewed and uninterrupted vigour.〕 The newly kindled hope was deceitful. The great plague, indeed, returned no more; but what it had done for the Londoners, the great fire, which broke out in the autumn of 1666, did for London; and, in September of that year, a heap of ashes and the indestructible energy of the people were all that remained of the glory of five sixths of the city whithin the walls.

3. 〔The future of the English-speaking races depends largely on a problem which has not yet been decided.〕 Will supremacy ultimately fall to those nations, which, like the Anglo-Saxons above all others, have established a high standard of living, with varied and abundant food, comparatively short hours of work, many amusements and comforts of every kind, or to the cheaper races, who are accustomed to a simpler manner of life, and make fewer demans upon their environment?

次ノ三題ノ中一題ダケ解釋スルコト(C)ハ〔〕内ノ部分ハ答案ヲ要セズ

4. (a) Desire and curiosity are the two eyes through which a man sees the world in the most enchanted colours: it is they that make women beautiful or fossils interesting: and the man may squander his estate and come to beggary, but if he keeps these two amulets *he is still rich in the possibilites of pleasure.

**amulet*=thing worn as a charm against evil.

(b) Litertaure makes us partakersi n a life larger, richer, and more varied than we ourselves can ever know of our own individual knowledge; and it does this, not only because it opens up new fields of experience and new lines of thoght and speculation, but also, and even more notably, because it carries us beyond the pinched and meagre humanity of our everyday round of existence into contact with those fresh, strong, and magnetic personalities who have embodied themselves in the world's great books.

(c) 〔We know the commoner animals as they come before us, but do not trouble about the relationship of one beast to another. As regards man, he seems to us so very different from all the common animal forms that we can not believe him to be related to them at all, but prefer to regard him as standing isolated and alone, as a being of a peculiar order.〕 When, however, we begin to study his body and compare it, organ by organ, with that of other animals, we see that his isolation disappears, and that it is the thick veil of civilization in which he has so completely hidden him-

self that misleads us regarding his true position in the animal kingdom.

獨文和譯 (二時間)

1. Suchen wir nach einer Erziehung im Mittelalter, dann finden wir, wenn wir vom Rittertum absehen, nur einen gelehrten Unterricht, und der war durchgängig in den Händen der Geistlichkeit. Der Gedanke einer allgemeinmenschlichen Bildung geht dem Mittelalter ab. Das ist längst bekannt und braucht darum nicht besonders betont zu werden. Wir fragen gleich, wenn auch nur ganz kurz, nach dem tieferen Grunde, nach der leitenden Idee. Der gesamte Unterricht wird im Mittelalter von der bestimmten Idee beherrscht: alles was in Erziehung und Unterricht zu bieten ist, das ist fertig gegeben.

2. Der philosophische Unterricht auf der Universität soll die akademische Jugend dazu anleiten, die letzten grossen Prinzipienfragen, auf die das Denken jederzeit geführt worden ist, zu erfassen, in ihrer Bedeutung zu verstehen und zu ihnen mit eigenem Urteil Stellung

zu nehmen. Er hat sein Ziel erreicht, wenn es ihm gelingt, die Hörer über den öden, gedankenlosen Skeptizismus und die schmähliche Gleichgültigkeit gegen die höchsten Angelegenheiten der Menschheit, wie sie unter den sogenannten Gebildeten lange Zeit geherrscht haben und auch heute noch weit verbreitet herrschen, zu erheben und zu verständnisvoller Teilnahme für die grossen Gedanken zu führen, mit denen die geistigen Führer der Menschheit sich über Welt und Leben Rechenschaft zu geben versucht haben. Nicht fertigen Gedanken mitzuteilen, ist die Aufgabe, sondern zum Nachdenken zu erregen und ihm die Wege zu weisen. Das wird freilich niemand können, der nicht eigene Gedanken hat. öde＝荒れ果てた Schmählich＝恥づべき Angelegenheit＝事件 Rechenschaft geben＝理由を說明する

國語學國文學
漢　　文

（注意）——線を施したる部分のみ解答せよ。

このたびあらためられて出しなおすえそはまのまこ

なくしかのおもふしはつらゆきらがこの世におなじくむまれてしこの春の時にあくるなむとうこひはる人まうたくなりにたれどうたのしこころこまれるかなたえひ時のうつりこころのやあるをやきのいえたえずまつの葉のもりうすしてまさきもうかこころがくたはりとりのあこひさしくこまれきはうたのさまをしりこのこころえたらむ人はおほ空のほしをあおがこころにしくをもふまでいまをこひさらめかも

（古今和歌集序）

文　　法

I' 中古文法と現代文法との間における重なる差異に就いて論ぜよ。

II' 日本帝國の領土内において行はるる各種の言語を列擧せよ。

作　　文

平家物語を讀む。

（注意）解釋・文法・作文を通じて二時間半とす。

漢文學科 (二時間)

I' 左の文に反語語法の用ひられたる箇所を指摘し各自に解釋せよ。

予訪紂勇豈有强其所不知以爲知者哉夫子幸之日我欺知之之謂乎但所知者則以爲知所不知者則以爲不知此則我之謂爾不能盡知而無自欺之蔽亦不害其爲知之之實矣豈必盡知而後求之

又有可知之賢乎

II' 左の文に反語語法の用ひられたる箇所を指摘し各自に解釋せよ。

(イ)若使侯復能遵於國以代紂究之若諸侯日修德亡紂必從之若不可故謂一之爲其可事諸侯所謂都非相似非時亡與紂者其德薄之謂也

(ロ)安得言人天雨雖事其子且不察必能有立其親人之父爲吾而乘大亡其師事其子而能知其人之父爲

物理學科 (二時間)

1. 彈性に關する恒數の種類を列擧し各種につきて說明を與へよ。
2. 弦の振動を論ぜよ。
3. 横斷面が正方形なる眞鍮棒に正三角形の横斷面の鋼製刃を貫通したる音叉あり。次の條件に從ひ此の振子の

慣性の能率を計算せよ。
(イ) 棒は長さ l, 横断面(正方形)の一邊 a.
(ロ) 刃は長さ b, 横断面(正三角形)の一邊 a.
(ハ) 棒の上端より刃の下へり(支點)までの距離 $\frac{1}{4}l$.
(ニ) 密度は眞鍮(棒)が s, 鋼(刃)が d.
(ホ) 棒及び刃の兩端は共に横断面とす

4. Carnot's Cycle を説明せよ。

5. 下記二つの場合の磁場の强さを算出すべき式を證明し且つ實量を與へよ。
(a) 半徑 20cm の圓形輪道に 5 アンペアの電流を通す時其の中心に於ける磁場。
(b) 無限に延びたる直線の針金に 5 アンペアの電流を通す時其の針金より 20cm の距離に於ける磁場。

數　學　科 (三時間)

1. 二次方程式
$$x^2+px+q=0$$
が相異ナレル實根ヲ有スルトキハ零ナラザル實數 k ノ如何ニ關セズ
$$x^2+px+q+k(2x+p)=0$$
モ亦相異ナレル實根ヲ有シ且ツ其ノ唯一根ノミガ初メノ方程式ノ二根ノ間ニアリ，之ヲ證明セヨ。

2. 正數 x ガ $\frac{1}{100}$ ヨリモ大ナラザルトキ。
$$(1+x)^{\frac{1}{5}}=1+\frac{1}{5}x$$
ト置キタル場合ノ誤差ハ小數第何位ノ1ヨリモ小ナルカ。

3. 直交軸ニ關シ，方程式
$$y^2+ax+by+c=0$$
ノ表ハス抛物線ノ頂點ノ位置ヲ求ム。

4. $x=r\cos\theta$,　$y=r\sin\theta$
ナルトキ
$$\frac{\left\{1+\left(\frac{dy}{dx}\right)^2\right\}^{\frac{3}{2}}}{\frac{d^2y}{dx^2}}$$
ヲ θ, r, $\frac{dr}{d\theta}$, $\frac{d^2r}{d\theta^2}$ ノミノ式ニテ表ハセ。

5. 楕圓ニ内接スル矩形ノ邊ハ何レモ其ノ楕圓ノ主軸ニ平行ナルコトヲ證明シ且ツ a, b ヲ夫々半長徑，半短徑トスル楕圓ニ内接スル矩形ノ面積ノ最大値ヲ求メヨ。

6. 直交軸ニ關シ
$$y=\log x$$
ノぐらふヲ畫キ且ツ此ノ曲線ト x 軸トリ軸ノ負ノ部分トノ間ニアル平面ノ部分ノ面積ヲ求メヨ。

化　學　科 (三時間)

1. アムモニアの水溶液は，遊離アムモニア・アムモニアの水化物・水酸化アムモニウム・NH_4' イオン及び OH' イオンを含むと考へらる。如何なる根據ありて然るか。

2. 沃素は水によりも沃化カリウムの水溶液に，遙によく溶解す。此の事實は如何樣に解說し得べきか。又沃化カリウムの代りに他のアルカリ金屬の沃化物を用ひた場合にも同樣であるか。

3. 有機化合物に於ける各種の異性體に就て論ぜよ。

4. 次ぎの各語の意義を說明せよ。
(一) Leucobase　(二) Biuret reaction
(三) Grignard's reagent　(四) Diazotation

5. 一次反應に於ける速度恒數を求むる式を導け。

6. 廻折グレーテイング (Diffraction Grating) を用ひて光の波長を測る方法を說明せよ。

7. 償殺法 (Cmpensation Method) に由りて或る電池の電動力を測定する方法を說述せよ。

植　物　學　科 (一時間)

I. 根毛と根冠との關係を論ぜよ。

II. 左の語句につきお知ることころを述べよ。
(イ) 成　心　(ロ) 行　錐
(ハ) 分裂生殖　(ニ) 接合生殖
(ホ) カンブト　(ヘ) アリスムーメン
(注意) 答は I, II, III に分ちて各別に認むべし。

植　物　學　科 (二時間)

I. 根毛は如何にして發達するか。根毛の有無により之を記せ。

II. 蒸騰作用を測定する方法に就て知る所を記せ。

III. 種子植物と羊子植物との區別の標準を出だせよ。

動　物　學　科 (一時間)

I. 現存生存する脊椎動物の綱名及び產地を記せ。

II. 一例を擧げて兩棲類の消化器及び呼吸器を圖示せよ。

III. 肝ヂストメー及び猫ヂストメーの中及び前端を區別せよ。

問、ヒトデ及びクモヒトデの體の構造面を異ける。

地理學科（二時間）

1. 四國島の地形の特色を說述せよ。
2. Europe に於ける農作物の分布狀態を說述し、且つ之れ等と自然との關係を說け。

倫理學倫理學史科（一時間）

一、先驗的（transcendental）と超驗的（transcendent）との區別。
二、倫理學と認識論とは同一なりや。

國史學科（一時間）

一、國體（天皇の尊位を繼承し給ふに至りし特殊及び其の御系統を記せ。
二、大寶令、律明經兩法科立の起因及び其の內容を記せ。
三、左の人々の中より五人を選び各人に就き其の主要なる事項を記せ。

荻生徂徠	大伴家持	石上宅嗣
伴信友	小島祐馬	山田孝雄
黑川眞頼	小中川秀秋	堀田正敦

阿倍正弘

數學科（一時間）

一、一般的概念と數學的概念との差異を明かにし、其關係を述べよ。
二、左について知れる所を述べよ。

素數	連續數	ファクトリアル

英文法科（一時間）

（甲）
一、動詞の語法及び用法より現代の文體に及ぼしたる西方の勢力につきて記せ。
二、代名詞に關する語法につきて記せ。
三、完了の助動詞（現在）の用法につきて記せ。
四、主語明の省略の人物等につきて記せ。

右四題の中四題を選擇して二題を解答すること。

（乙）
五、完了といふ國語につきて記し、併せて其他現代の國語に及ぼせる。
六、完了未來の文法と發音との關係につきて記せ。

右二題の中の一題を選擇すること。

以上（甲）（乙）二科目中各科目より三題の答案を記すべきこと。

心理學科（一時間）

一、「己レノ欲スル所ヲ人ニ施セ人ノ己ニ爲サレンコトヲ欲スル」と云ふ道德の心理學的意義如何。
二、ヱーベル Weber 氏の法則とは何か。
三、調和感情 Feelings of harmony とは何か。
四、民族心理學 Völkerpsychologie とは何か。
五、反應時間 Reaction time とは何か。
六、性格に於ける生理的身體的變化を論ぜよ。
七、感覺閾とは何か。
八、ゾンデ Wundt の心理學の特徵如何。
九、左の人々について知れる所を記せ。
一〇、
(a) W. James　(b) A. Binet　(c) F. Galton
(d) Stanley Hall　(e) W. Köhler

◎岡山醫科大學

英文和譯（一時間半）

1. It is said to be difficult to supply the demand for temporary clerks and typists to take the places of the invalids. City restaurants where the same customers crowd in for lunch day after day are now often half full. The normal noise of town is diversified by a chorus of coughs and sneezes. Everybody, or at least every other body, seems to be or to have been suffening from influenza. Some of them have had only a bad cold, but they call it influenza all the same.

2. Harvey may be truly described as the founder of modern physiology and scientific medicine: he refused to be bound by tradition, yet, whilst discarding traditional teaching for which he could find no basis in fact, he paid honour to the earlier workers: above

all, he always insisted on testing the truth of inferences and on seeking the explanation of observed facts by means of animal experiments, not excluding observations on man himself.

獨文和譯 (一時間半)

1. Glück ist nur, wenn man also feststeht und auf diese weise hell und gescheit wird. Es ist ja nur aus Blindheit und Gleichgewichtsmangel und Lossprung vom Mittelpunkt, dass die Menschen Toren werden und wilde Narren, und lügen, betrügen, stehlen, ehebrechen, rauben und morden, im Rausch, im Taumel leben, nach Glück haschen und das Elend erhaschen.
2. Sind nun die Naturgesetze als blosse subjektive Vorschriften für die Erwartung des Beobachters, an welche die Wirklichkeit nicht gebunden ist, wertlos? Keineswegs! Denn, wenn auch der Erwartung nur innerhalb gewisser Grenzen von der sinnlichen wirklichkeit entsprochen wird, so hat sich erstere doch vielfach als richtig bewährt, und bewährt sich täglich mehr.

1図

物　理　學 (一時間)

1. 電流。磁力線及電線の運動に關する所謂フレミング氏三指法則を記載せよ。
2. 拋物鏡を以て光線を正しく焦點に集合せしめ得る理を數學的に說明せよ。

化　學 (一時間)

1. Kohlenoxyd (Carbonic oxyde) の存在。性質。實驗室內製法及其際起る化學反應を式にて記せよ。
2. Aliphatische Aldehyde (Aliphatic aldehydes) 及 Aromatische Aldehyde (Aromatic aldehydes) につき互に異なる性質を記せよ。
3. 下記物質の化學式並に常溫，常壓に於ける外觀を記せよ。
   a. Kaliumnichromat (Potassium bichromate).
   b. Ferricyankalium (Potassium ferricyanide).
   c. Pyrrol (Pyrrhol).
   d. Malonsäure (Malonic acid).
   e. Chinolin (Quinoline).
   f. Naphthalin (Naphthalene).

動物學及植物學 (一時間)

世代交番 (Generationswecksel) を動物及植物の各一種を擧げて——但し動物にありては「ペテロゴニー」(Heterogonie) を含むものを撰びて——詳に說明すべし。

◎新潟醫科大學

物　理　學 (二時間)

1. d' Arsonval の電流計を說明せよ。
   (moving coil galvanometer Drehspulengalvanometer)
2. 電磁波を波長の順に列記しその各々に付て特性を記せ。

數　學

一次ノ化學反應ニ於テ，濃度ガ單位時間ニ減ル割合ハ濃度ニ比例スル，即チ $\frac{dc}{dt} = -kc$ c 濃度 t 時間 最初ノ濃度ヲ C。k 常數 トシタ場合ノ濃度ノ變化ヲ「グラフ」デ示セ。

化　學 (一時間半)

1. 酸性度に就いて。
2. アミン類の性質に就いて。
3. 水溶液中の左記諸イオンの除去法を記せ。
   (イ) SO_4''　(ロ) Cl'　(ハ) Ca''　(ニ) PO_4'''

動植物學 (一時間半)

1. メンデルの法則を述べよ。
2. 次の現象の差異を說明せよ。
   (a) 無性生殖と單爲生殖。
   (b) 共生と寄生。

英文和譯 (一時間半)

1. The apple is the commonest and yet the most varied and beautiful of fruits. A dish of them is as becoming to the center-table in winter as was the vase of flowers in the summer —a bouquet of spitzenbergs and greenings and northern spies. A rose when it blooms, the apple is a rose when it ripens. It pleases every sense to which it can be addressed, the touch,

1図

the smell, the sight, the taste; and when it falls in the still October day it pleases the ear. It is a call to a banquet; it is a signal that the feast is ready. The bough would fain hold it, but it can now assert its independence; it can now live a life of its own.

From "Winter Sunshine." John Burroughs.

2. With malice toward none; with charity for all; with firmness in the right, as God gives us to see the right, let us strive on to finish the work we are in; to bind up the nation's wounds; to care for him who shall have borne the battle, and for his widow, and his orphan—to do all which may achieve and cherish a just and lasting peace among ourselves, and with all nations.

From the Second Inaugural Address of Abraham Lincoln.

獨文和譯（一時間半）

1. Wenn überhaupt ein Beruf, so erfordert derjenige des Arztes Vollmenschen. Nicht die wissenschaftliche Ausbildung allein macht den Arzt, nicht das medizinische Können und die technischen Fertigkeiten, deren Beherrschung damit Hand in Hand geht, genügen dazu; in ebenmässiger Weise verlangt gerade dieser Beruf eine harmonische Durchbidung des Charakters, sittliche Selbstzucht im Leben, besondere Gaben des Gemütes und des Verstandes, Menschenliebe und Menschenkenntnis, Selbstvertrauen, einen starken Willen, Pflichttreue, Wahrhaftigkeit gegen sich selbst und gegen andere.

2. Unter dem Namen der Kohlenhydrate fasst man eine Gruppe sehr wichtiger Stoffe zusammen, von denen ein Teil, wie Stärke und Rohrzucker, zu den Nahrungsstoffen des Menschen gehört. Die alte Bezeichnung „Kohlenhydrate" rührt davon her, dass die Verbindungen ausser Kohlenstoff die Elemente Wasserstoff und Sauerstoff im gleichen Verhältnis wie im Wasser enthalten, nämlich zwei Verbindungsgewichte Wasserstoff auf ein Verbindungsgewicht Sauerstoff.

和文獨譯

新學期の始まるまでに宿を極めて置きたいのだが僕はま

だ新潟の勝手もよくわからないしするから御面倒でも君ひとつお世話を願へないだらうか。

小人數の素人家でうちのもの同樣に面倒を見て呉れる處があれば無論それに越した事はないけれども，風儀がよくて小ざつぱりして靜かなら普通の下宿屋 (Pension) でも差支へがない。

◎長崎醫科大學

英文和譯

The student becomes a student in all subjects and a scholar in some. Choosing his vocation at an earlier age than did his father, he elects studies that specially fit him to take up his professional preparation. For medicine he takes chemistry, biology, and physics; for law, history and economics; for theology, phylosophy and psychology. Through such concentration he gains in power as well as in special Knowledge. Knowing that all studies aid in every professional equipment, and knowing, too, that he is a citizen and an individual person, he appreciates the value of studies that seem unrelated to his future. He thus realizes that no opportunity should be neglected, no advantage wasted. He thus becomes an academic miser, or a scholastic power house.

和文英譯

吾人が現社會に立つて最も大切とする所のものは何ぞ，曰く吾人の精神の基礎を定むることである精神の基礎がなかつたならば吾人の精神は決して安立することは出來ぬ安立することが出來ねば活動することは無論不可能である。果して然らば其安立する所の基礎は何であるか，其れは財産でもない權勢でもない地位でもない。學識でもない唯一箇の至誠の心である。

獨文和譯

Wegen des Mangels an Vernunft, also an Allgemeinbegriffen, ist das Tier, wie der Sprache, so auch des Lachens unfähig. Dieses ist daher ein Vorrecht und charakteristisches Merkmal des Menschen. Jedoch

hat, beiläufig gesagt, auch sein einziger Freund; der Hund, einen analogen, ihm allein eigenen und charakteristischen Akt vor allen andern Tieren voraus, nämlich das so ausdrucksvolle, wohlwollende und grundehrliche Wedeln.

和文獨譯

吾々の時代では法律が道德と正反對になつてゐるのは珍らしい事でもないが古代では法律と道德とは頗る美しい調和を保て居たものだ。

數學

1. $2x^2+2y^2+2x-2y-5=0$ ハ如何ナル圖ヲ表スカ。（半徑ノ長サ及中心ノ位置如何）
2. $y=(1+x^2)^n \log(1+\sin^2 x)$ ノ $\frac{dy}{dx}$ ヲ求ム。
3. 積分ノ近似値ヲ求ムルニ當リテ使用サルヽしむぷそんノ法則ヲ簡單ニ説明スベシ。

物理

1. 内部抵抗各 1.5 オームの電池 18 箇を用ひて抵抗 3.5 オームの external circuitに最大の電流を通すには如何に配列すべきか。
2. 次の事項につきて簡單に述べよ。

(1) 三極眞空管	(2) 原子番號
(3) ヤング率	(4) 定常波
(5) 理想氣體(完全なる氣體)	

化學

1. 石炭タールの分溜によりて生ずる物質及此等より製出し得る主要なる物質を列擧せよ。
2. 空中窒素の固定法とその應用を問ふ。
3. 鹼化及加水分解とは如何なる事か。例を擧げて説明せよ。

◎千葉醫科大學

化學

1. 窒素を得る方法を列記せよ。
2. 次の化合物の化學構造式を記入せよ。

エチールアルコール	エチールエーテル
醋酸	石炭酸(フエノール)
サリチール酸	グリセリン
クロロフオルム	アセトン
フオルムアルデヒード	尿素

動物學

1. 變態 (Metamorphose, Metamorphosis) とは何か。四つの例を擧げて説明せよ。
2. 動物發生に於ける三胚葉 (Drei Keimblätter, Three Germlayers) の名稱をあげ，各胚葉より分化する器官又は組織の名稱を各胚葉に就き二つ宛擧げよ。

和文獨譯

一般に機械類は使へば使ふ程其能率が低下して終には使用に耐へなくなる。反之種の臓器や組織は適當に働かすと形態上發達するのみならず其機能も旺盛になる。夫れ故に吾々は安逸と過勞とを避け休養しつゝ，働き身心の發達を計らねばならぬ。

獨文和譯

1. Das Reiten wäre hübsch nur dass man leicht Hals und Beine bricht.
2. In Not und Tod werden auch Feinde zu Freunden wenn sie anders Menschen sind.
3. Wenn in früheren Zeiten wrissenschaftlicheu Qualifikationen der Militärärzt im grossen Publikum als eine niederwertige angesehen wurde, so ist heute mit hoher Befriedigung festzustellen.

英文和譯

1. These investigators are all only known to us through references in the works of that great physician who absorbed all the knowlege and art of his contemporaries and predecessors and placed medicine upon a firm foundation ——in the works of Galen.
2. A fact of greatest significance, however, was that in learned circles of Bagdad not only were theology and philosophy, philology and literature studied, but a deep and lasting enthusiasm was aroused for the different branches of mathematics and natural science and in thees subjects in particular, despite the fact that in-

spiration was constantly sought from the achievements of the ancients, new ideas, fresh observations and wider experience were added to the sum of inherited knowledge.

佛文和譯

1. De toutes, les branches de l'entendement humain, la médicine est, sans conteste, celle dont le domaine est le plus étendu; ses frontiéres sont necessairement imprécises, car elle doit empiéter à chaque moment sur le terrain des autres sciences.

2. Il faut m'oublier! Il faut! Il ne faut plus m'aimer, Challange! ····· J'ai beaucoup d'amitié pour vous. Prouvez-moi que vous la méritez; ····· Vous m'oublierez ····· Ce sera bien facile pour vous ····· Répondez! ····· N'est-ce pas? Vous ne vous obstinez plus? Vous renoncez à vos folies? ··· Dites? ··· Dites? Vous allez partir? ····· Ah! Vous êtes effrayant! Ecoutez! Ecoutez! ····· Vous vous trompez sur moi ····· Vous me connaissez mal. Ce n'est pas tout à fait votre faute ····· Ecoutez ····· Je vais essayez de vous dire ····· Mettez-vous là····· Vous comprendrez, jén suis certaine ····· Pourquoi vivre toujours dans une espèce de lutte? Est-ce que nous ne pourrions pas enfin nous parler doucement, calmement, sans cette obsession de vos regards sur moi? ····· Je ne suis pas combative, moi. Je náime pas, je ne sais pas lutter. Cela m'épuise d'avoir toujours à vous opposer cette attitude armée et hostile ····· Jáimerais tellement mieux vous expliquer doucement ce que je suis, ce qu'est ma vie ····· J'aurais tant de choses à vous dire! Je vous assure que vous ne me connaissez pas.

◎京都帝國大學醫學部

英文和譯

1. If an animal dies on dry land, where its bones li exposed to the summer's sun and rain and the winter's frost and snow, it does not take these destructive agencies long to reduce the bones to powder; in the rare event of a climate devoid of rain, mere changes of temperature, by producing expansion and contraction, will sooner or later cause a bone to crack and crumble. (20點)

2. In a general way it may be said that much of what at the first glance we might term extinction of animals is really the replacement of one set of them by another better adapted to surrounding conditions. There are many cases of animals, and particularly of large animals, so very obviously adapted to their own special surroundings that it requires little imagination to seet that it would have been a dffiicult matter for them to have responded to even a slight change in the world about them. (30點)

3. The beauty of nature can never be given by description. Words place themselves in array indeed, like loose pieces of mosaic, one after another, but one understands not the whole picture put together piecemeal. Thus it is in nature; of the entire greatness there must be always something wanting. One gives the single pieces, and thus lets the stranger put them together himself; but if hundreds saw the complete picture, each would represent it very differently. It is with nature, as with a beautiful face; no idea can be formed of it by the mere details of it; we must go to a well-known object, and only when we can say, with mathematical precision, that this resembles that, with the exception of this or that particular, can we have, in any degree, a satisfactory idea.

(50點) mosaic 寄木細工 (剪嵌細工)

獨文和譯

1. An den Ufern des Nil begegnen uns in Zeiten, in denen die Geschichte Europas noch im tiefsten Dunkel liegt, bereits die Spuren einer künstlerischen Tätigkeit, von der wir ein geschichtlich begründetes Bild zu gewinnen vermögen. Wie sich überhaupt höheres Kulturleben zuerst in den Stromtälern entfaltete, so war dies besonders hier der Fall. Ohne den Nil wäre Aegypten eine ebenso unwirthare Wüste wie die angrenzenden Teile von Afrika. (20點)

2. Der wichtigste Schritt in dem Fortschritt einer

jeden Wissenschaft ist das Messen von Grössen. Diejenigen, welche sich mit der Beobachtung der Tatsachen begnügten, haben gelegentliche Dienste geleistet, indem sie die Aufmerksamkeit anderer auf Erscheinungen richteten, die sie gesehen hatten; die grossen Fortschritte der Wissenschaft verdanken wir aber denjenigen, die sich bemühen, aufzufinden, wieviel von jedem vorhanden ist. (30點)

3. Naturschönheiten lassen sich durch eine blosse Erzählung niemals wiedergeben. Die Worte folgen ja, wie lose Mosaikstücke, hintereinander, das ganze Bild wird stückweise zusammengesetzt, man wird nicht, wie in der Natur, von dem grossen Ganzen ergriffen, und immer bleibt es mangelhaft und unvollkommen. Man giebt die einzelnen Teile und lässt den Fremden sich das Bild selbst zusammensetzen; könnte man aber bei einer grösseren Anzahl von Personen sehen, was für ein Bild sie sich nach ihrer Auffassung daraus gemacht haben, wie grosse Verschiedenheiten würden sich zeigen. Es geht mit der Natur wie mit einem schönen Antlitz; durch Aufzählung der Einzelheiten bei beiden wird der Gesamteindruck doch nicht begreiflich; man muss einen bekannten Gegenstand zu Hilfe nehmen, und nur, wenn man mit mathematischer Gewissheit sagen kann, sie ähneln einander bis auf diese oder jene Einzelheit, entsteht ein einigermassen befriedigender Begriff. (50點) Mosaik 寄木細工(剪嵌細工)

植物學

1. 細胞含有物Inclusion of the protoplasm Einschlüsse des Protoplasma の種類を列擧せよ。(說明を要せず)
2. 分子間呼吸 Intramolecular respiration. Intramolekulare Atmung の意義。
3. 重複受精 Double fertilization. Doppelte Befruchtung とは如何なる現象なるか。

動物學

1. 次の事項に就きて簡單に記述す可し。
   (1) 體細胞 (Somatische Zellen, Somatic cells) とは何ぞや。
   (2) 分化 (Differenzierung, Differentiation) の意義。
   (3) 相稱 (Symmetrie, Symmetry) の種類を列擧せよ。

(4) 總排泄腔 (Cloaca) とは何ぞや。

2. 次の動物の所屬を問ふ。
   (1) ヒドラ (Hydra) (2) 肝蛭 (Fasciola hepatica)
   (3) イヒダコ (Polypus membranaceus)
   (4) ダニ (Ixodes röcinus)

物理學

1. 電氣容量 K Farad なる蓄電器を V volt の電源にて荷電せり。此際電源は蓄電器に對して幾何の仕事をなしたりや。
2. 一定の音が種々の異りたる氣體に波及する場合に(イ)其波長(ロ)其振動數(ハ)其速度に變化ありや。あらば其關係式を記せ。
   (イ) 波長　　(ロ) 振動數
   (ハ) 速度
3. 二つの半球より成立せる半徑 r なる球狀剛體あり，其外面のみに p の壓力が作用するものとす。これを其二つの半球に引き離す爲めには幾何の力を要するか。

數學

1. 一ノ曲線ガアル，直角坐標ニ於テ曲線上ノ點ノ坐標 x, y ガ $\frac{dy}{dx}=(1-x^2)^{\frac{1}{2}}$ ノ如キ關係ニアル。コノ曲線ノ全長求ム。
2. a cos x+b sin x ノ極大値又ハ極小値ヲ求ム。但シ a, b ハ共ニ正數トスル。
3. 直線 $y=3x-2$ ガ曲線 $y=x^3$ ノ切線デアルコトヲ證セヨ。

化學

1. 鼓ニ精製セル食鹽及ビ砂糖(甘蔗糖)アリ，何レガ食鹽ニシテ何レガ砂糖ナルカ，之ヲ短時間ニ區別スル方法六ツヲ記セ，但シ裝置，器械及ビ試藥等凡テ完備セル場處トス。
2. 次ノ化學方程式ヲ完成シ其主要產物ノ名稱ヲ記セ。
   A. $2NaCl+MnO_2+2H_2SO_4=$
   (熱ス)
   B. $C_6H_6+C_2H_5Cl+AlCl_3=$
3. 次ノ構造式ノ名稱ヲ記セ
   A. $NH_2\cdot CO\cdot NH_2$　　B. $CH_3\cdot CH(OH)\cdot COOH$
   C. $C_6H_5\cdot NH\cdot COCH_3$　　D. $CH_2\cdot (COOH)_2$

E. $C_6H_4(OH)_2$ (1:3)

◎京都帝國大學文學部

史學科

國語

一、世の中になほいと心うきものは人ににくまれむことこそあるべけれ誰てふものゝくるひかわれ人におもはれむとはおもはむされどしぜんに宮づかへ所にも親はらからの中にても思はるゝおもはれぬがあるぞいとわびしきやよき人の御事は更なりげすなどのほども親などのかなしうする子は目だち見たてられていたはしうこそおぼゆれ見るかひあるはことわりいかゞ思はざらむとおぼゆことなることなきは又これをかなしと思ふらむは親なればぞかしとあはれなり。

二、冬ごもり春の大野を燒く人はやきたらねかもわが心やく。

三、(イ)佐野の馬かんろのやうな豆をくひ。

(ロ)歌一首あるではなしにけつまづき。

獨文和譯

1. Der Weggang der Jesuiten aus Japan hat auch alle ihre Bestrebungen beendet, und die Druckerei nach europäischer Art hat gar keinen Einfluss auf die Technik Japans ausgeübt. Die vorhandenen Bücher wurden von der Regierung in Japan vernichtet und auch der Import von Büchern zeitweilig ganz verboten. Im 18. Jahrhundert bestand zwar noch dieses Verbot, es wurde aber hauptsächlich auf Bücher mit religiösem Inhalt angewendet, während andre, wie z. B. Wörterbücher, geduldet waren.

2. Weltpolitik als eine innerlich verbundene Einheit, als Gesamtheit der Verhälthnisse in einem Weltstaatensystem konnte erst ihren Anfang nehmen, als sich gleichberechtigte Kulturstaaten ausserhalb des abendländischen Kulturkreises zum europäischen Staatensystem hinzugesellten. ......Erst als die ostasiatischen Mächte in den Kreis der politischen Interessen des Abendlandes eintraten und auf diesen zurückwirkten, entstand das Weltstaatensystem.

3. Die überraschende Wehrlosigkeit des chinesischen Kolosses und der leichte Erfolg des japanischen Vorstosses, durch den auf dem Festlande plötzlich ein neuer, schwer zu wägender Machtfaktor entstanden ist, bringt in die bisherige scheinbare Stille an den Gestanden des Grossen Ozeans eine rasch anwachsende, zunächst noch unsichere Bewegung. Diese Stille im Zentrum der ostasiatischen Welt war die Folgeerscheinung nach einer Sturmperiode, die genau sechzig Jahre vorher, 1834, eingesetzt hatte und dreissig Jahre später zum Abschluss gekommen war.

英文和譯

1. I have remarked that the stories of treasure buried by the Moors, so popular throughout Spain, are most current among the poorest people. Kind nature consoles with shadows for the lack of substantials. The thirsty man dreams of fountains and running streams; the hungry man of banquets; and the poor man of heaps of hidden gold: nothing certainly more opulent than the imagination of a beggar.

2. China at this time of the Han dynasty, was the greatest, best organized and most civilized political system in the world. It was superior in area and population to the Roman empire at its zenith. It was possible then for these two vast systems to flourish in the same world at the same time in almost complete ignorance of each other. The means of communication both by sea and land was not yet sufficiently developed and organized for them to come to a direct clash. Yet they reacted upon each other in a very remarkable way, and their influence upon the fate of the regions that lay between them, upon Central Asia and India, was profound.

佛文和譯

1. Considérée sous cet aspect, la grande oeuvre de Mahomet, l'Islam, est une religion qui s'est donnée pour but de remonter le cours des âges, afin de retrouver l'unitarisme absolu des ancêtres arabes, c'est-à-dire des ancêtres assyriens. Epurer l'arabisme de son temps, voilà donc ce que le Prophète se propose; pour

instruments, il emploie les notions chrétiennes et juives, et il les choisit de préférence parce que ces religions lui présentent une forme de l'unitarisme plus exacte que les production contemporaines de la même idée.

2. En plus de la lutte entre le désert et les régions cultivées, le pays a été le théâtre d'une autre lutte, celle des races, les peuples et des civilisations.

Dans l'antiquité, la population de l'Asie centrale se composait d'Aryens au sud, et au nord, de nomades. Les premiers habitaient les vallées des grands fleuves et peuplaient en partie les vallées plus étroites des montagnes; les seconds erraient dans les steppes et dans les pâturages des montagnes. Le bien—être relatif des sédentaires excitait naturellement les convoitises des nomades.

漢文

I' 左の本文に句讀點を加へ訓點を施して、同樣にその意味を解すべし。

大王謂齊大夫曰夫子好樂甚王庶幾乎古之人有行之者則治其道也今之樂猶古之樂齊王不能行此其所以與百姓同樂也

II' 左の本文に訓點を施し、語釋を施せる文句のみを同樣に解すべし。

夫子聖者與。孔子曰。丘之於人譬諸飢渇者。以道人之飢渇而已。若己有飢渇之症而學醫者然。人實能己飢渇之苦而學之必有所得之症而學醫者然。人實能己飢渇之苦而學之必有所得之症而學醫者然。若己有飢渇之症而學醫者然。人實能己飢渇之苦而學之必有所得之症而學醫者然。

III' 左の文章の語釋を施せる文句のみを同樣に解すべし。

[illegible]

獨文和譯

I' わかき人三四人はかりいろいろのすきのきれりをたどなえばみたりとこのさまりびふさわかしのかのあるまいかをりまいかたりしのはてそなたこと見かるむかしのかのあるまいかをりまいかたりしのはてそなたこと見

II' 此のくひきわかく間もなし誕生祭五月雨もしまひのはらへ人かな歳にまわり出てよひきがくる

III' 今は老の手に錯もすくれば人しけれは我面影は我忘れにたりかし昔鏡よりもあらわれ外にも人しけれは我面影は我忘れにたり

金剛が見ればこれ程にも外にも人しけれは我面影は我忘れにたり
我のこの戸開の前やさが出でよ
らとにしけれどもかみはやさがさむ

獨文和譯

1. Was ist Gehalt? Was ist Gestalt? Gehstalt ist das Gedankliche, ist —um sich altgewohnter Ausdrücke zu bedienen —alles, was aus dem Umkreis des Erkennens, Wollens und Fühlens in einem Kunstwerk enthalten ist. Denselben Umkreis beschreitet die issenWschaft. Ihre Aufgabe und ihr Wesen ist, all dies Gedankliche in begriffliche Worte umzuwandeln. Die Kunst geht über die Wissenschaft hinaus, indem sie den gleichen Gehalt in Gestalt umsetzt, in etwas, das auf unsere Sinne, auf die äusseren wie auf die inneren, wirkt. Ganz unbedingt und uneingeschränkt tun dies bildende Kunst und reine Musik.

2. Erdgeboren

Über mir in wolkigen Lüften
Wogen Lerchen traumverloren.
Tief im Heidekraute lieg ich,
Fühle mich so erdgeboren;

Ganza, ls ob ich aus der Scholle
Wildentwachsen wär. wie Bäume,
Leicht vom Heidewind geschaukelt,
Erde halb — und halb auch Träume.

Ganz, als ob ich aus der Scholle
Aufgeflogen wär mit Schwingen,
Hoch im Sommerwind aufsteigend,
Erde halb — und halb doch Klingen.

和文獨譯

1. 私は或る「獨逸文學史」を讀んでゐるが，有名な詩人があんまり多すぎて，誰から始めていゝのか，まるでわからない。
2. 老ゲエテがある日のことエッケルマンに云つた，「世間ではいつも私のことを特に幸福に依て惠まれた人間のやうに云ひはやしてきたが，私は恐らくかう云へるだらうこの七十五年間に本當に快かつた日は四週間も無い位だつたと。それは，一つの石を絕えず新らたに轉がしては，また轉がしてゆくやうなものであつた。」

國　文

右子之論校大手以起證給天下萬世之視也上下縱令之絲絲糸素之力以牽天下萬起證者起而與之校己而獨　人未證而糸糸糸作出是非人欲其所證糸糸以知治　給指生如流之說紛而無所適從時所及耳。

帝國漢語學留起置記

右本試に適當數學者を出し同試に當らしむ。

◎京都帝國大學農學部

農林化學科

物　理　學

1. 20 秒裡の速度にて運動する質量 50 瓦の物體を$\frac{1}{100}$秒間に靜止せしむるに要する力は幾ダインなるか。
2. 光が水の中を進む速度は空氣の中を進む速度より小であることを證明せよ。

化　學

1. 複鹽，錯鹽，酸性鹽，鹽基性鹽につき例を擧げて說明せよ。
2. 施光體の性質を單簡に說明せよ。

動　物　學

1. 次の學者は如何なる分科に於て如何なる貢獻をなしたるか。

（範例，ドフリース，遺傳學，突然變異）

リンネ　(Carl von Linne)
ダーウキン　(Charles Darwin)
メンデル　(J. G. Mendel)
ファーブル　(J. H. Fabre)

2. 有用物資を生產する昆蟲二例を擧げ，其の物資を形成する器官を記せ。

（範例，ラック介殼蟲，塗料シエラック，皮下腺）

植　物　學

1. 分子間呼吸 (Intramolecular respiration) 及醱酵作用 (Fermentation) を說明しその異同を比較せよ。
2. 顯花植物及羊齒植物の世代交番 (Alternation of generations) を比較對照せよ。（成るべく表示せよ）

農林工學科

物　理　學

1. 水平面と 45° をなす傾斜面上を滑り落つる物體あり，摩擦係數を 0.2 とすれば加速度は幾何なりや。

2. 次の語を簡單に說明せよ。
   (イ) 凝集力：粘着力 (Cohesion Adhesion)
   (ロ) 粘性係數 (Coefficient of viscosity)
   (ハ) 比熱 (Specific heat)
   (ニ) ヤング率 (Young's modulus)

數　學

1. In the curve represented by the equation
$$y=4x^3-33x^2+72x+10,$$
find two points, at which the tangent to the curve is parallel to the axis of x.
2. Calculate the area bounded by the four lines, whose equations are
$$xy=75,\quad x=4,\quad x=24,\quad \text{and } y=0.$$

英文和譯

1. At the present moment in scientific history, as a result of a rapid and brilliant series of experimental discoveries which have taken place during the last fifteen years, we stand face to face with necessary changes in our scientific theories, concerning the nature

of two things, matter and energy, regarded by our predecessors as definitely settled foundations of all science. It is not perhaps too much to say that twenty years ago there had developed a cast-iron belief that matter and energy, and these alone, were the two fundamental entities of the physical world, and that each was eternal, unalterable, and had existed in fixed amount from the beginning of days, uncreatable and indestructible.

2. Fellows and other visitors to the Zoo who dislike its crowding in summer should take advantage of its winter emptiness, for the changes in recent years have been to the advantage not only of the animals, but of those who wish to see them in comfort. Let them begin with the new Monkey House. It is roomy, well-ventilated, and not oppressively warm, and the electric light, installed for the direct benefit of the monkeys, makes them not only gay and active but also visible. The Aquarium is also reasonably cool for visitors, and the tanks are lighted so as to make the coloration and fantastic shapes and movements of the aquatic creatures even more delightful than when daylight filters through the double glass roofs.

獨文和譯

1. Die nördlichen Völker sind also stärkere Teetrinker als die südlichen, England dürfte heute Russland wohl schon überholt haben. Die Schweiz mit ihrem Teeverbrauch von 0,75 kg pro Kopf ist wegen der vielen Touristen nicht mitzurechnen, die hier am Teekonsum hervorragend mitbeteiligt sind. Von den englischen Frauen hat ein Autor gesagt: "Es gibt etwas, was ihnen mehr gilt als Sie und ich-das sind sie selbst; etwas, was ihnen mehr gilt als ihr eigenes Ich—das ist ihr Ruf; und mehr noch als Ruf gilt ihnen—Ihr Tee."

2. Der Tag ging zur Neige. Das Antlitz der Sonne begann sich zu röten, und bald tauchte der feurige Ball mit seinem unteren Rande in die Fluten ein. Lange purpurne Strahlen streiften die Wellenkämme und schienen sie in ihrem Innern zu entzünden. Die Ortschaften längs der Küste standen in ihrem Wiederschein wie in Flammen, und über ihenen hüllte der Apennin sich in sein abendliches Festgewand. Immer tiefer sank die Sonne in das blaue Meer hinab, dann verschwand sie und damit war ein weiterer Lebenstag zu Ende.

佛文和譯

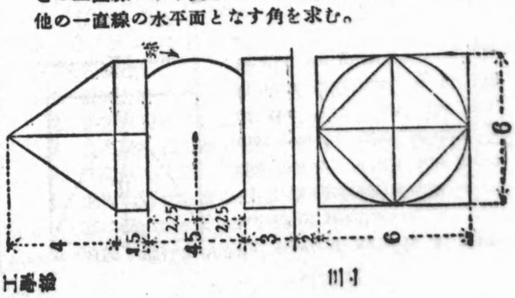
1. Le soleil se couvre, les premiers roulements du tonnerre se font entendre; les crocodiles y répondent par un sourd rugissement, comme un tonnerre répond à un autre tonnerre. Une immense colonne de nuages s'étend au nord-est et au sud-est le reste du ciel est d'un cuivre sale, demi-transparent, et teint de la foudre. Le désert éclairé d'un jour faux, l'orage suspendu sur nos tes et près d'éclater, offrent un tableau plein de grandeur.

2. On voit quelle est l'extraordinaire difficulté du rôle de l'agriculteur en présence de tous les phénomènes capables de favoriser ses intérêts, ou de leur nuire, de la façon la plus imprévue. la fertilité du sol est la résultante d'actions combinées d'une variété presque infiuie, et la connaissance de la biologie des terres explique la lentur des progrès de l'art agricole, le plus difficile de tous si l'on songe que l'action de l'homme s'exerce sur des transformations dont les condition —— à peine connues aujourd'hui —peuvent varier sans cesse.

◎京都帝國大學工學部

圖畫

1. 水平面と 30° をなす直線と垂直なる他の一直線あり，この二直線の水平投象は 105° をなして相交はる。この他の一直線の水平面となす角を求む。



2. 上圖の立體の陰影を畫け。
(圖中の數字はすべて糎を單位とす)

【注　意】
1. 答案用紙第一葉には第一問題を解答すべし。
2. 答案用紙第二葉には第二問題を解答すべし。
3. 答案用紙の裏面を使用すべからず。
4. 答案用紙の最小方眼は一耗角なり。
5. 定規及兩脚器は本學部より貸與せるものを使用し，退場の際答案用紙の上に整頓し置くべし。
6. 問題に就いては質問を許さず。但し不明なる文字に關する質問は此の限りに非ず。

1. Find the inflexion point of a curve,
$y = L^3(x/L - 3x^3/L^3 + 2x^4/L^4)$
where x is positive and smaller than L.

2. Determine the ratio of the depth h to the inner diameter d of an open cylindrical vessel, to make the necessary material minimum, for a given capacity A when the base and the side are of equal thickness t.

3. The surface of water in a rotating cylinder about its vertical axis is a paraboloid of revolution.
Find the lowest depth a of the water, when the inner diameter 2r, the volume V of the water and the maximum difference h of the height are given.

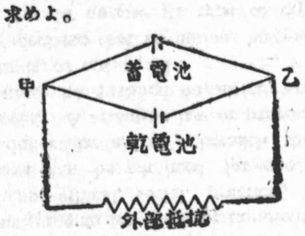
物　　理

1. 次の各量の單位を定義せよ。
仕事(work)，
工率(power)，
照度(intensity of illumination or illumination)，
靜電電荷(electrostatic charge)。

2. 一樣なる圓板が斜面上を滑らずして轉がり落つる時圓板の中心が最初靜止の位置より高さ h 糎だけ降下したる時の圓板の速度を求めよ。

3. 100° c. の水蒸氣を以て飽和されたる一定量の空氣あり，今この混合氣體の容積を一定に保ちて200° c. に加熱したるに壓力2氣壓となれりと云ふ。
上記と同容積同量の空氣のみの場合其の溫度 0° c. なる時の壓力を計算せよ。

4. 蓄電池(起電力 2.0 ヴオルト，內部抵抗 0.1 オーム)，乾電池(起電力 1.5 ヴオルト，內部抵抗 0.2 オーム)及外部抵抗(10 オーム)を圖の如く接續したる時甲乙二點間の電位差を求めよ。



化　　學

1. 次の言葉の意義を簡單に記せ。
(イ) 原子(Atom)，(ロ) 原子番號(Atomic number)，
(ハ) 同位元素(Isotope)，(ニ) 理想氣體(Ideal gas)，
(ホ) イオン(Ion)。

2. 炭素水素及び酸素より成れる有機化合物に於て酸素の結合狀態の差異を類別して說明せよ。

3. 下の化合物の用途の1つを擧げ其應用さるゝ所以を明にせよ。
二硫化炭素，過酸化水素，臭化銀，炭化石炭，
メチルアルコール(Methylalcohol)，ピネン(Pinene)，
グリセリン(Glycerin)。

4. 稀硫酸の溶液を電解して水素瓦斯を造らんとす，今電極は何れも白金を用ひ，電流は5アンペア(Ampere)を通じたり。攝氏27度1氣壓の下に於て容積1立(Litre)の水素を得んには幾何の時間を要するや。但し1ファラデイ(Fara day)は96500クーロン(Coulonb)，1クーロンは1アンペア秒とす。

【受驗者注意】
1. 質問を許さず。
2. 答案は明晰に記載すべし。
3. 各用紙に和洋兩字を以て各自の番號を明記すべし。
4. 問題毎に答案の用紙を新にすべし。
5. 退場の節は答案を一括とし各自の座席に於て監督官に提出す可し。
6. 時間を勵行すべし。

英文和譯

1. In sciences which are concerned only with physical forces and phenomena, rules of evidence are used solely as instruments for the ascertainment of absolute truth, and no ethical, social, practical, or personal considerations can be admitted for one moment to divert or deflect by a hair's breadth the processes of pure reason. A scientific law or proposition of this character must be justified on strictly rational and logical grounds, or not at all.

2. History declares that no nation, however great, is entitled to try to impose its type of civilization on others. No race, not even the Teutonic or the Anglo-Saxon, is entitled to claim the leadership of humanity. Each people has in its time contributed something that was distinctively its own, and the world is far richer thereby than any one race, however gifted, had established a Permanent ascendancy.

3. Has any one of us ever seen a Tree? I certainly do not think that I have — exept most superficially. I sometimes ask myself what else there is in the woods beyond what I see with my eyes. I see sunlight falling upon the leaves and shining through. I see that each live branch has a manner and significance according to its species. I see that one tree is different from another, but I do not rightly know them. Once or twice I have thought that I have perceived more deeply, but remain uncertain. What at any moment do we behold? An image ever-transient, liquid in mutubility.

獨文和譯

1. Durch das Erdbeben wurde die Gemütsrühe des Knaben im tiefsten erschüttert. Gott, der Schöpfer und Erhalter des Himmels und der Erde, den ihm die Erklärung des Glaubensartikels so weise und gnädig vorstllte, hatte sich, indem er die Gerechten mit den Ungerechten gleichem Verderben preisgab, keineswegs väterlich bewiesen. Vergebens suchte das junge Gemüt sich gegen diese Eindrücke herzustllen, welches überhaupt um so weniger möglich war, als die Weisen und Schriftgelehrten selbst sich über die Art, wie man ein solches Phänomen anzusehen habe, nicht vereiniger konnten.

2. Daß die Weltgeschichte von Zeit zŭ zeit umgechrieben werden müsse, darüber ist in unsern Tagen wohl kein, zweifelübrig geblieben. Eine solche Notwendigkeit entsteht aber nicht etwa daher, weil viel Geschehenes nachentdeckt worden, sondern weil neue Ansichten gegeben werden, weil der Genosse einer fortschreitenden Zeit auf Standpunkte geführt wird, von welchen sich das Vergangene auf eine neue Weise überschauen und beurteilen läßt.

3. Was der Mensch ist, verdankt er der Veréinigung von Mensch und Mensch. Die Möglichkeit, Assoziationen hervorzubringen, die nicht nur die Kraft der gleichzeitig Lebenden erhöhen, sondern von allem dunch thren die Persönlichkeit des Einzelnen überdauernden Bestand die vergange-nen Geschlechter mit den kommenden verbinden, gab uns die Möglichkeit der Entwicklung, der Geschichte.

佛文和譯

1. Sans doute il faut partir de la réalité, puisqu elle est le fond même des choses, l'étoffe, pour ainsi dire, des oeuvres de l'art et de l'imagination. Mais, si quiconque affecterait de la mépriser ne pourrait aboutir, dans le roman et dans la poésie, qu'à la niaiserie sentimentale ou à l'abstraction symbolique, elle n'est toutefois qu une matière confuse, à qui le propre de l'art est de donner une forme. Il ne suffit pas de voir; il faut sentir; il faudrait aussi penser! Certes, c'est une faculté rare, et qui caractérise, qui signale déjà l'artiste que le don de saisir sous forme d'image ce que le Vulgaire des hommes n'entrevoit que sous forme d'expression abstraite des choses; — et cependant c'est encore peu. Il reste à dégager ce que la réalité enferme de beauté secrète.

2. Le principe de la souveraineté nationale est non seulement indémontré et indémontrable, mais il est encore inutile. Plus que personne je crois qu'il est

bon et équitable que la plus grande quantité possible d'individus soient associés à la puissance politique dans un pays donné, et j'estime que le progrès consiste avant tout à élever degré de culture générale et à faire participer à la puissance politique un nombre toujours plus grand d'individus. En un mot, le suffrage universel réglementé et organisé est l'idéal vers lequel je désire que tendent tous les Etats. Dès lors, je comprendrais que l'on défendît le principe de la souveraineté du peuple, s'il avait pour conséquence nécessaire, logique, le suffrage universel. Or, il n'en est rien. La souveraineté en effet n'est pas dans cette conception la somme des vorontés individuelles; elle est une volonté générale dans laquelle viennent se fondre, se perdre en quelque sorte les volontés individuelles.

◎東北帝國大學醫學部

物理學

U dt

1. 單一弦運動をなす質點の運動のエネルギー，位置のエネルギー，及び週期を夫れ夫れ L, U, T，とすれば次の關係が成立することを證せよ。

$$\frac{1}{T}\int_0^T L\,dt = \frac{1}{T}\int_0^T U\,dt$$

但し t は時間を表はすものとす。

2. 次の語の意義を問ふ。
(イ) エントロピー　(ロ) 電　位　(ハ) 等時性
(ニ) 光の分散　(ホ) 電　子　(ヘ) 横　波
(ト) 質　量　(チ) 固　體

3. 地球磁氣の水平分力を測定する方法を述べよ。

化學

1. 左の事項よりエチルアルコホル(液體)の生成熱を計算せよ。

C_2H_5OH(液體)$+3O_2=2CO_2+3H_2O$(液體)$+341.8$Cal.

C(固體)$+O_2=CO_2+96.0$ Cal.

$H_2+O=H_2O$(液體)$+68.0$ Cal.

但し前記の化學記號中特記せざるものは氣體を表すものとす。

2. 左記の場合に起る酸化作用を述べよ
(イ) 過マンガン酸加里の酸性溶液
(ロ) 過マンガン酸加里のアルカリ性溶液

3. 互變異性體(Tautomer)とは如何，例を擧げて說明せよ。

4. 左記の化合物の構造式を記せ。
(イ) 酪酸(Butyric Acid, Buttersäure)
(ロ) アセトニトリル(Acetonitrile, Acetonitril)
(ハ) ヨードフオルム(Iodoform, Jodoform)
(ニ) ピリヂン(Pyridine, Pyridin)
(ホ) フエニルカルビルアミン(Phenylcarbylamine, Phenylcarbylamin)
(ヘ) 酒石酸(Tartaric Acid, Weinsäure)
(ト) アセトアニリド(Acetanilide, Acetanilid)
(チ) ニトロメタン(Nitromethane, Nitromethan)
(リ) インドル(Indole, Indol)
(ヌ) 亞硝酸イソアミル(Isoamyl Nitrite; Isoamynmitrit)

動物學

1. 進化論の要旨と其の論據とを問ふ。
2. アミーバ(Amoeba)に就き其の生活現象を說明せよ。
3. 棘皮動物の代表的諸型の外形を圖解せよ。
4. 人體寄生動物十種を擧げ其等の分類學上の位置並に寄生場所を示せ。
5. 哺乳動物の特徵を擧げ且つ彼等が他の脊椎動物に比し生存上優勝の地位を占むる所以を述べよ。

植物學

1. 被子植物の胚珠と種子の正中縱斷面の圖を描き胚珠のどの部分が變じて種子のどの部分となるかを明示せよ。
2. 氣孔の開閉は如何なる仕組みによつて行はれるかを圖を描きて說明せよ。
3. 通常のバクテリアは大略どの位の大さのものなりや。
4. 「あをみどろ」は如何なる時期に於て減數分裂を行ふか。
5. 「まつ」「たけ」「うめ」は植物界中如何なる部類に屬するか。

英文和譯

1. The following sentence of advice is contained in the catalogue of Harvard University issued in 1874:

Those who intend to study medicine are advised by the Medical Faculty to pay special attention to the study of Natural History, Chemistry, Physics and the French and German languages, while in college.

2. The rapid strides in the field of natural science told against faith, and tended in general to a mechanical interpretation of the universe. This, of course, was disastrous to the church as it was then conceived, for those very elements which she condemned were being used to account for things which she accounted for on supernatural premises. The struggle between the church and science has been long and bitter, and each has contributed her martyrs.

3. During my consultation with him, Dr. Ransom advised me never in future to live alone. He thought, and no doubt rightly thought, that my solitary days in lodgings had been largely instrumental in bringing on the physiological disaster which had already cost me no much of life and of work. Probably he inferred that in the absence of distractions my brain had been active during times which were nominally times of rest.

4. If the first love indeed, as I hear it everywhere maintained to be, the most delicious feeling which the heart of man, before it or after, can experience,—then our hero must be reckoned doubly happy, as permitted to enjoy the pleasure of this chosen period in all its fulness. (Few men are pecuriarly favoured; by far the greater part are led by the fellings of their youth into nothing but asschool of hardship, where, after a stinted and checkered season of enjoyment, they are at length constrained to renounce their dearest wishes, and learn forever to dispense with what once hovered before them as the highest happiness of existence.)

（注意）　第四問括弧内は譯述するを要せず

獨文和譯

1. Eine notwendige Veraussetzung der Gesundheit und des Wohlbefindens ist genügende Bewegung im Freien und körperliche Arbeit. Am meisten bedürfen ihrer diejenigen Menschen, deren Beruf sie zu einer sitzenden Lebensweise und zu anhaltender geistiger Anspannung nötigt.

2. Einer der besten Prüfsteine für das Vorhandensein von wirklichem Edelmut ist das Verhalten der Menschen gegenüber lange andauerndem, oder ganz hoffnungslosem Unglück; diejenigen, die wenig davon besitzen, ermüden und überlassen bald den Unglücklichen seinem Schicksal, etwa noch gar mit der schönen Redensart, „Man müsse ihn mit seinem Gott allein lassen"; die Andern, welche mit ihrer wahren Teilnahmen dennoch aushalten, bestehen die höchste Probe der uneigensüchtigen Menschenliebe.

3. Nach einer eingehenden Konsultation gab mir Dr. Ransom den Rat, in Zukunft nie mehr allein zu leben. Er führte mit Recht meine physiologische Zerrüttung, die mich schon so viel Zeit und Arbeit gekostet hatte, zum grossen Teil auf mein Einsiedierdasein zurück; wahrscheinlich vermutete er auch, dass ich infolge des Mangels an Zerstreuung selbst zu Zeiten, die dem Namen nach der Musse gewidmet waren, geistig tätig war.

4. Wenn die erste Liebe, wie ich allgmeein behaupten höre, das Schönste ist, was ein Herz früher oder später empfinden kann, so müssen wir unsern Helden dreifach glücklich preisen, dass ihm gegönnt ward, die Wonne dieser einzigen Augenblicke in ihrem ganzen Umfange zu geniessen. (Nur wenig Menschen werden so vorzüglich begunstigt, indes die meisten von ihren frühern Empfindungen nur durch eine harte Schule geführt werden, in welcher sie nach einem kümmerlichen Genuss gezwungen sind, ihren besten Wünschen entsagen, und das, was ihnen als höchste Glückselichkeit vorschwebte, für immer entbehren zu lernen.

（注意）　第四問括弧内は譯述するを要せず

國語

第一問、左記一節に於いて作者の言はんとする處を説明し、特に、敍述を敍したる點所を指摘せよ。

若百人の骨肉と雖も天地人生の諸般諸面諸般を悉く相提携して相倚り相助くるの關係を保つ能はざるの時は、之に和したる絶對圓滿なる見解の立てらるゝあらば、是れ寧ろ不自然の極、不可思議の極、不安全の極、危險の極にして、彼等は固より言ふを俟たざる所なれど、其の他の大抵に於いては（一時家の一方に偏せんとするの傾向を矯正すべき覺容の餘裕を以て反對の見解を等しく思想の大海に游泳せしむるを可とす若然らずして徒りに其の一方を助長せんとすれば、是れ却つて其の保持せんとする所の眞理をも若干を缺くに至らしむる所以のものは其の反對なれば也其の若干を缺くの故を以て他方の全部を排斥するの理由とはならざるなり。

第二問、左記の文章を讀解せよ。

ある人の説をかりて他人の説を排斥するのは、ひとつの立つわけをかりて他のひとつの立つわけをこわすのと同じことである。ある人の説をかりて他人の説を排斥するのは、ひとつの立つわけをかりて他のひとつの立つわけをこわすのと同じことである。

英語

次の文を和訳せよ。

Those who are to decide must have truthful material upon which to decide. Their judgment must not be thwarted by the presentation of a biased case. We have learned especially of late years, that this is no easy matter. A statesman can sometimes be made what the press chooses to make him. A policy may be represented as entirely good or bad by the skilful omission of relevant facts. Our civilisation has stimulated the creation of agencies which live deliberately on the falsification of news. It would, indeed, not be very wide of the mark to argue that much of what had been achieved by the art of education in the nineteenth century had been frustrated by the art of propaganda in the twentieth. The problem is made more complex than in the past by the area over which our judgment must pass. We have no leisure to survey that area with comprehensive accuracy. We must, very largely, take our facts on trust. But if the facts are deliberately perverted, our judgment will be unrelated to the truth. A people without reliable news is, sooner or later, a people without the basis of freedom.

次の文を和訳せよ。

The simple journal of his ordinary occupations exhibits a pleasing picture of an accomplished emperor, and with some allowance for the difference of manners, might well deserve the imitation of modern princes. He rose early; the first moments of the day

◎東京帝國大學法學部

和文獨譯

ハワイでは數種の異人種が狹い地域に共同生活を營んで居る。彼等は經濟的關係に於てのみならず、社交、學藝、競技などに於ても絶えず相接觸して居る。時には人種的衝突の事實が無いではないが大體に於て圓滑な關係を保つて居る。ハワイに於ける此の實驗は將來に於ける人種問題の解決に就いて多大の暗示を與へるものである。

英文和譯

1. One condition of political liberty is the provision of an honest and straight-forward supply of news. Those who are to decide must have truthful material upon which to decide. Their judgment must not be thwarted by the presentation of a biased case. We have learned especially of late years, that this is no easy matter. A statesman can sometimes be made what the press chooses to make him. A policy may

were consecrated to private devotion, and his domestic chapel was filled with the images of heroes, who, by improving or reforming human life had deserved the grateful reverence of posterity. But as he deemed the service of mankind the most acceptable worship of the gods, the greatest part of his morning hours was employed in his council, where he discussed public affairs, and determined private causes, with a patience and discretion above his years. The dryness of basineswas relived by the charms of literature: and a portion of time was always set apart for his favourite studies of poetry, history and philosophy.

独文和訳

1. Sehen wir das Verhältnis von Staat und Gesellschaft nun näher an, so ist deutlich, dass sich ein Zustand beständiger Wechselwirkung ergibt, der zu den feinsten wissenschaftlichen Problemen gehört. Das Ideal ist, dass Staat und Gesellschaft sich decken, dass jede lebendige soziale Kraft auch in der Rechtsordnung des Staates die Stelle einnimmt, welche ihr entsprechend ihrer sozialen Macht gebührt. Aber dies Ideal kann nie erreicht werden, weil die Gesellschaft immer schneller lebt und leben muss als der Staat. Aktiengesellschaften müssen erst durch den bürgerlichen Verkehr sich gebildet haben, ehe der Staat an ein Gesetz darüber auch nur denken kann. Es ist daher wohl die Tendenz vorhanden, dass Staat und Gesellschaft sich decken, aber sie wird nie ganz verwirklicht werden. Jede soziale Kraft, die in der Gesellschaft emporkommt, strebt darnach im Staat eine entsprechende Geltung zu erlangen, und umgekehrt sucht der Staat jede in der Gesellschaft vorhandene Kraft für seine Lebenszwecke zu verwerten.

2. Für die allgemeine Haltung des Geisteslebens einer bestimmten Zeit wird immer die Art, in der die Fragen der Erziehung und des Unterrichts gelöst werden, als Ausdruck des Erreichten bezeichnend sein.

Im späteren Mittelalter fällt hier vor allem eine bisher unbekannte Scheidung des Bildungsganges für die verschiedenen Berufskreise der Nation auf. Bisher war der Unterricht im wesentlichen noch überall der gleiche, nationale gewesen: Übung in der Führung der Waffen, Tradition der Geheimnisse nationaler Überlieferung in Sage und Märchen, in Spruchweisheit und Scherz hatte alle Deutschen, den Bauer wie den Ritter, noch miteinander verbunden. Jetzt trat der Bürgerstand dazwischen. Er bemächtigte sich in ziemlich breiten Schichten der Elemente der fremden, lateinischen Überlieferung. Während auf den Dörfern die alte Bildung auf mündlichem Wege unter stets grösserem, innerem Verfall fortgepflanzt ward, entstanden in den Städten fast überall Lateinschulen, gewöhnlich mit einem geistlichen Stifte verbunden.

仏文和訳

1. La science a pour unique objet la recherche de la vérité, elle n'est en soi ni bonne ni mauvaise. Elle est, comme toutes les forces, ce que l'on veut qu'elle soit, d'après l'usage que l'on en fait. N'oublions pas, d'ailleurs, que le progrès matériel, si bienfaisant soit-il, n'est qu'un des éléments de la civilisation, et qu'il n'en est même pas le principal: le facteur dominant de la civilisation doit être la moralité. Que d'ailleurs le progrès moral, de nos jours, retarde sur le progrès matériel, c'est là une constatation qui sollicite l'attention la plus agissante sur la nécessité du développement continu de la morale, encore que dans le bilan de la science l'actif dépasse considérablement le passif. Mais, en définitive, il ne dépend que de l'homme d'utiliser la science pour son seul bonheur.

2. Ce ne sont pas les appareils qui font les découvertes: il faut avant tout des cerveaux dans les laboratoires. Si les bons chercheurs manquent, les laboratoires, fussent-ils bien dotés deviennent inutiles. Or, pour pouvoir se livrer à des recherches, ne faut-il pas tout d'abord subsister? Et qu'arrive-til? Les traitements sont insuffisants, et l'on cherche ailleurs le supplément nécessaire: il faut vivre. Gaspillage de forces aussi parfaitement absurde qu'il est déplorable. Du moins, si l'on est mal payé, est-on mieux considéré? Guère mieux, en général. Il en résulte que, hormis les cas de vocations impérieuses ou de ceux qui, trop vieux dans la carrière, sont condamnés à y

rester, on délaisse les laboratoires de recherches.

◎東京帝國大學經濟學部

英文和譯

1. To discover general principles belongs to the speculative faculty: to discern and discriminate the particular cases in which they are and are not applicable constitutes practical talent: and for this, women as they now are have a peculiar aptitude. I admit that there can be no good practice without principles, and that the predominant place which quickness of observation holds among a Woman's faculties makes her particularly apt to build over-hasty generalizations upon her own observation; though at the same time no less ready in rectifying those generalizations, as her observation takes a wider range. But the corrective to this defect is access to the experience of the human race; general knowledge — exactly the thing which

education can best supply. (百點)

2. Liberalism stands for Liberty; but it is an error to think that a policy of liberty must be always negative, that the State can help liberty only by abstaining from action, that invariably men are freest when their Government does least. Withdraw the police from the streets of the towns, and you will, it is true, cease to interfere with the liberty of the criminal, but the lawabiding citizens will soon find that they are less free than before. Abolish compulsory education: the child, and perhaps his parent, will no longer be forced to do what they may perhaps not wish to do; but adults of the next generation will be denied the power to read, to think, to succeed, which is essential to a real freedom. Repeal, to take one more example, the Shops Acts: short-sighted shopkeepers will be allowed to trade for longer hours, but other shopkeepers and the whole class of shop-assistants will be robbed of their proper share of the leisure without which life is a servitude. Often more law may mean moreliberty.

(百點)

3. The "individual character" is well marked in English theology, philosophy, and science alike. It is one of the resemblances between England and Greece that our most influential thinkers and discoverers have rarely been professionals. We are a nation of amateurs in peace and war. when compared with the Germans. There are advantages and disadvantages on both sides. Our great men have had wider interests and more knowledge of the world than can be often found in a university professor. They have not (Herbert Spencer is an exception) been systematizers; many of them have been content to write from an individual point of view. But they have had imagination, which even in pure science (Clark Maxwell is said to have been a salient example) often reveals in flashes truths which the plodding inductive method might have failed to reach. It remains to be seen whether the social changes now in progress will give scope in the future for thinkers and researchers with independent means, such as Mill, Darwin and Galton, who have contributed so largely to the fame of their country in the last three genera-

(百點)

tion.

英文和譯

(商業學科)

1. There can be no doubt, however, that luxurious consumption is in itself an injury to the public and particularly to the laboring classes, however inexpedient it might be for the goverment to use its power of compulsion to prohibit luxury. There is an ancient and nauseous fallacy to the effect that the extravagance of the rich gives employment to the poor. Nothing could be any farther from the truth. The extravagance of the rich gives much less employment to the poor than do accumulation by the rich and their investment in various kinds of productive industry. The individual who buys extravagantly does of course set labor to work producing the objects of extravagance, but the individual who invests largely also sets labor to work producing the buildings, tools, etc. in which he invests. In addition to this he adds definitely to the productive power of the community.

Furthermore, labor must be hired to make use of the buildings and the tools, and there is a larger social product out of which to pay their wages. Comparatively speaking, therefore, the extravagance of the rich takes away from the employment of the poor. From that point of view extravagant consumption is a social injury. (百點)

2. In their first beginnings fairs and markets appear as a religious rather than as a commercial institution. They originated in the religious assemblies of pious worshippers who congregated round famous shrines on the feast days of saints. Indeed, between the festival and the fair there is a close, almost inseparable, relation. "There is no great festival without a fair, no fair without a festival." The concourse of strangers from distant parts afforded opportunities for the exchange of products, and the pilgrim was often also a trader. These periodical gatherings became the natural centres for commercial dealings, and merchants were always assured of the presence of buyers in an age when population was scattered and

seldom concentrated in large groups. Moreover, the ostensible purpose for which the assemblies were held threw over the trader the cloak of religion and ensured a degree of security which induced him the more willingly to brave the risks inseparable from his calling. The influence of the Church was undoubtedly a powerful factor in fostering the temporary peace to which the fair usually owed its rise. (百點)

3. We have witnessed in modern business the submergence of the individual within the organization, and yet the increase to an extraordinary degree of the power of the individual — of the individual who happens to control the organization. Most men are individuals no longer so far as their business, its activities or its moralities, is concerned. They are not units, but fractions; with their individuality and independence of choice in matters of business they have lost also their individual choice within the field of morals. They must do what they are told to do, or lose their connection with modern affairs. They are not at liberty to ask whether what they are told to do is right or wrong. They cannot get at the men who ordered it—have no access to them. They have no voice of counsel or of protest. They are mere cogs in a machine which has men for its parts. And yet there are men here and there with whom the whole choice lies. There are men who control the machine as a whole and the men who compose it. There are men who use it with an imperial freedom of design, whose power and whose individuality overtop whole communities. There is more individual power than ever, but those who exercise it are few and formidable, and the mass of men are mere pawns in the game. (百點)

德文和譯

(兩科共通)

1. Freilich bleibt daneben die Tatsache, dass Bismarck auch den Teil der nationalökonomischen Wissenschaft, der kondensierte Erfahrung ist, nicht genauer kannte und zeitweise missachtete. Er täuschte sich über sich selbst, wenn er annahm, seine zufällige persönliche Beobachtung sei fehlerlos, die so gemachten Schlüsse ruhten auf einer sicheren Erfahrung. So gross seine Erfahrungen waren, grösser bleiben die von der Wissenschaft gesammelten. Und auch in seine Beobachtungen und Erfahrungen mischten sich, wie in alle anderen, subjektive Elemente, Ideale, Hoffnungen und Wünsche. Dass die vollendete Wissenschaft mit der vollendeten Erfahrung der Praktiker übereinstimmen müsse, wird er freilich nicht geleugnet haben. Aber wo sind sie? Die Praxis wie die Wissenschaft müssen selbständig nebeneinander gehen, sich korrigieren und ergänzen. Vollendet können sie beide nicht sein. (百點)

2. Dass in allen protestantischen Ländern während der Jahrhunderte nach der Reformation ein ausser-gewöhnlich starkes religiöses Gefühl die Völker beherrschte, ist eine zu bekannte Tatsache, als dass es nötig wäre, dafür eigens Belege beizubringen. Nur darauf möchte ich das Augenmerk des Lesers richten, dass die Stärke dieses religiösen Gefühls ihren Höhepunkt erreichte (ausser in einzelnen Teilen der Schweiz) in demjenigen Lande, in dem wir am Ende des

17. Jahrhunderts eine besonders schnelle und durchdringende Entfaltung des kepitalistischen Geistes wahrnehmen konnten: in Schottland. Da man von dem Grade der Leidenschaftlichkeit und des Wahnes, mit dem man in dem Schottland des 17. Jahrhunderts die religiösen Werte schätzte und pflegte, sich ohne genauere Kenntnis der Einzelheiten keine rechte Vorstellung machen kann, so will ich eine kurze Schilderung von der Seelenverfassung geben, in der sich die Schotten während jener Zeit befanden: man wird leicht die überragend grosse Bedeutung daraus abnehmen können, die für diese Leute die Lehre der Kirche haben musste — mochte es sich handeln um welches Lebensgebiet immer. (百點)

3. Haben wir bereits "Uebervölkerung"? Werden wir sie wenigstens in absehbarer Zukunft haben? Das erscheint dem eine sonderbare, beinahe lächerliche Frage, der an ein solches Problem überhaupt nicht glaubt, der stolz auf den technischen Fortschritt hinweist und von ihm Alles erwartet, der den momentanen Mangel an Arbeitskräften bei uns, nicht nur in der östlichen Landwirthschaft, sondern auch in der westlichen Industrie, als genügenden Gegenbeweis ansieht, der wohlfeile fremde Arbeitskräfte zu uns hereinziehen möchte; (百點)

佛文和譯
(兩科共通)

1. La socialisation peut s'observer dans des groupes de toute nature et de toute importance, dans une nation, dans une Eglise, dans une famille. La foule, ce groupe sans cohésion durable et grossièrement fromé, comporte une socialisation passagère très restreinte et très forte à la fois. La famille antique est un groupe de socialisation très avancée, forte et généralisée, où les liens de dépendance sont rigoureux et enserrent une bonne part de l'individu. La famille actuelle est moins strictement socialisée, les tendances individuelles y jouent plus librement et sans avoir un besoin aussi grand de revêtir l'uniforme familial. Mais dans les familles d'aujourd'hui il en est de beaucoup plus socialisées que d'autres en tant que familles, où le respect des parents, la soumission des enfants, s'affirment avec plus de force, où les traditions sont plus strictement suivies, où les croyances, les idées, les sentiments portent plus nettment l'empreinte du groupe familial, où des rites sociaux, des célébrations d'anniversaires, des fêtes ou des repas, des habitudes cérémonielles témoignent de l'esprit collectif eten entretiennent longuement la vigueur. (百點)

2. Quand les soldats sont pourvus d'armes, ajoutentils, tout n'est pas fait pour assurer l'indépendance du pays. Encore faut-il que la subsistance de la population soit assurée; car, si la population pouvait être affamée, notre plus grand ennemi serait à l'intérieur et nos adversaires n'auraient qu'à nous laisser mourir d'inanition. Malheur, dit-on au pays qui ne produit pas luimême son froment et qui attend ses aliments de rivages lointains! Le jour où il voudra faire la guerre, on lui coupera les vivres par une simple rupture des communications, et la famine l'obligera bientôt à faire la paix aux conditions dictées par l'ennemi. Il faut donc qu'un Etat, pour être indépendant, produise son blé à peine de tomber sous la domination des pays producteurs de céréales. (百點)

3. Les excédents de naisance sur les décès, que l'on enregistre encore dans les Etats européens et certains Etats américains, ne sont dus qu'à la forte natalité des décades antérieures à la guerre, grâce à laquelle les populations contiennent une forte proportion d'éléments jeunes, par conséquent à faible mortalité; mais la mortalité générale augmentera au fur et à mesure que la natalité diminuera. Comme la durée de la vie moyenne ne dépasse pas cinquante ans dans la plupart des pays, et que cette durée moyenne correspond à une mortalité de vingt pour mille par an, il est évident que les pays où la natalité est inférieure à vingt pour mille (France, Angleterre, Belgique, Suisse, Allemagne) sont dans la voie du dépeuplement progressif et que, dans l'espace d'une ou deux générations, si l'état actuel se maintient, ils enregistreront un excédent de décès sur les naissances. (百點)

◎東京帝國大學醫學部

醫學科

歐文和譯

(答案ハ三問題ノ內隨意一問題ヲ撰ビテ横書スベシ)

1. It is generally held that the evidence indicates that a living organism can only arise from another living being. experiments favouring the view that spontaneous generation does occur having failed to withstand the strictest tests of criticism.

2. Die Geschichte der Mediz'n gibt uns von unsterblichen Ärzten Kunde, die neben der in erster Linie stehenden Beobachtung und Erfahrung am Krankenbette als wissenschaftliches Rüstzeug ihres Berufes philosophische und naturphilosophische Lehren ihrer Zeit benutzten.

3. Pour un observateur superficiel, la vérité scientifique est hors des atteintes du doute; la logique de la science est infaillible et, si les savants se trompent quelquefois, c'est pour en avoir méconnu les régles.

和文歐譯

(答案ハ英獨佛語ノ內隨意一語ヲ撰ビテ横書スベシ)

小醫は人を醫し，大醫は國を醫すと云ふが，若し人類の不治の病なる世道の廢頽を醫し得る者があつたならば　これこそ大醫の更に大なるものである。

數學

1. $y=A\sin px\times B\cos px$ ヲ單一ナル正弦函數ニ變形セヨ。

2. $y=f(x)$ ノ微分係數 $f(x)$ ノ曲線ガ與ヘラレ $x=a$ ナルトキ $y=b$ ナルコトヲ知リテ $f(x)$ ノ曲線ヲ圖式法ニテ求ムル法如何。

3. $\cos n\theta$ 及ビ $\sin n\theta$ ヲ $\sin\theta$ 及ビ $\cos\theta$ ノ級數トシテ展開セヨ但シ n ハ有理數トス。

物理

1. 砲聲の達する距離が晴曇によりて相違する理由を說明せよ。

2. 白紙に赤色，黃色，綠色，紫色のインクにて夫々文字を記し，之を赤色透明の平面硝子にて透視する時，如何に見ゆべきか。

3. X線及び γ線を說明せよ。

化學

1. 空氣の組成及び其性質に就て。

2. 炭酸曹達 (Na_2CO_3) 及び重炭酸曹達 ($NaHCO_3$) 水溶液のアルカリ性反應並びに其强弱に就て說明せよ。

3. グリセリンに就て。

生物學

1. 細胞原形質ノ理學的性狀。

2. 動物體ニ於ケル消化作用。

藥學科

英文和譯

An action which requires experience to enable us to perform it, says Darwin, when performed by an animal, more especially by a very young one without experience, and when performed by many individuals in the same way without their knowing for what purpose it is performed, is usually said to be instinctive. A little does of judgment or reason, says, Huber, often comes into play even with animals low in the scale of life. Instinct has been defined as hereditary habit, comprising an element of transmitted experience. In all cases where instinct becomes complex or refined we seem compelled to accept the view that its origin is to be sought in consciously intelligent adjustment on the part of the ancestors. Many of the lower animals exhibit instinctive actions, such, for instance, as a spider spinning its web, a bird building its nest, and the beaver building a dam, these actions being performed the first time the animal tries almost as well as when it is older and experienced. Spencer supposed that intelligence first arose through the multiplication and coördination of reflex actions, and although many of the simple instincts grade into reflex actions, and can hardly be distinguished from them.

yet the more complex instincts seem to have arisen independently of intelligence.

獨文和譯

Die Ermittelung der organischen Bestandteile einer Pflanze ist weitaus schwieriger als die ihrer anorganischen. Während bei der Untersuchung der letzteren nur eine verhältnismässig kleine Anzahl von bekannten Elementen und Verbindungen in Betracht kommt, ist die Zahl der in den Pflanzen vorkommenden organischen Stoffe, wenn sie auch nur aus wenigen Elementen zusammengesetzt sind, eine ungeheuer grosse. Die Eigenschaften der Körper, deren Darstellung der Zweck der Untersuchung ist, sind meistens unbekannt und die Entscheidung darüber, ob die endlich isolierten Köper chemische Individuen sind, oder nicht, ist nicht immer leicht.

Ausserdem ist der Pflanzenchemiker oft vor die Frage gestellt, ob die von ihm im Laufe der Untersuchung gewonnenen Körper in der Pflanze enthalten waren, oder ob sie nur Zerstzungsprodukte sind. Denn die bei den Arbeiten selten völlig ausschliessende Einwirkung der Wärme, des Luftsauerstoffes, der Enzyme, möglicherweise auch die Reaktionen der gelösten Stoffe auf einander und der oft sauren oder alkalischen Lösungsmittel können oft Veränderungen in den ursprünglich vorhandenen Pflanzenstoffen hervorrufen, welche selbst bei Aufwand grosser Mühe und eindringlichen Scharfsinns nicht mehr nachzuweisen sind.

物　理

1. 電池の原理
2. 溶液の電導度及其測定法
3. 旋光度測定機の構造及其應用

化　學

1. C_3H_8O なる分子式に相當する化合體各種を構造式にて示せ。
2. 石炭酸の製法
3. 次の諸反應を化學式にて示せ
   (イ) 亞硝酸カリウムとヨードカリウムとを溶解せる水溶液に硫酸を加へたる場合
   (ロ) 亞砒酸に硝酸を加へて蒸發したる場合
   (ハ) 鹽素酸カリウムの水溶液に硫酸を加へたる場合
4. 炭素，水素，酸素より成る一鹽基性酸 0.2 グラムに就き原素分析を行ひ
   CO_2 0.5049 グラム H_2O 0.0846 グラムを得且同物質 0.25 グラムを中和するに水酸化カリウム 0.1147 グラムを費したりと云ふ此物質の分子式を與へよ
   但し C=12 O=16 H=1 K=39 にて計算すべし。

◎東京帝國大學理學部

英文和譯

(外國語全部ニテ二時間)

1. Scholarship and science know no barriers of language or of race. They are and must naturally be potent unifying forces in the life of the world. It is no small satisfaction to see, therefore how quickly and with what cordiality the leading universities of the world have come forward to bear their full share in the movement to establish peace and to promote good will between the nations, and how willing they are to draw upon each other's strength in so doing. The main fortress of prejudice and international antagonism is ignorance. Knowledge is the one weapon by which this fortress can be reduced and rendered harmless.

2. In an age of specialization we must all be specialists in research, but this is no excuse for narrowness of sympathy or for intolerance. Bigotry is as hateful in science as anywhere else. Problems and methods vary from decade to decade; fashions in research are as much in evidence as in dress. Perhaps it is but natural that those clothed in the newest styles should look with amused superiority upon those in older garments.

獨文和譯

1. Van't Hoff und ich blieben auch auf dieser Reise zusammen, um uns die lange Fahrt durch Plaudern zu verkürzen. Am Abend zeigte er mir die Massregeln, die er für den Fall eines Eisenbahnunglücks

getroffen hatte. Zunächst hatte er überlegt, dass er während der Nacht in der Fahrtrichtung, den Kopf voran, liegen müsse. Wenn der Zug durch ein plötzliches Hindernis zum Stehen gebracht wird, so hat der Körper noch eine grosse Bewegungsenergie, durch die er gegen die Trennungswand geworfen wird, den Kopf voran. Die Hirnschale würde dabei in Anspruch genommen, wie ein Ei, das man gegen den Tisch schlägt, d. h. sie würde zerbrochen werden, wenn der Stoss nicht gedämpft wird. Somit baute es alle Kissen, seinen Mantel und was sonst noch Weiches vorhanden war, als Puffer gegen diesen Stoss auf.

2. Wer aber das Gesetz der Phänomene kennt, gewinnt damit nicht nur Kenntnis, er gewinnt auch die Macht, bei geeigneter Gelegenheit in den Lauf der Natur einzugreifen und sie nach seinem Willen und zu seinem Nutzen weiter arbeiten zu lassen. Er gewinnt die Einsicht in den zukünftigen Verlauf dieser selben Phänomene. Er gewinnt in Wahrheit Fähigkeiten, wie sie abergläubische Zeiten einst bei Propheten und Magiern suchten.

佛文和譯

1. La théorie de Huyghens a remporté, dans la première moitié du siécle passé, une éclatante victoire, grâce surtout aux travaux de Fresnel et de Foucault Seul, elle permet de rendre compte des phénoménes d'interférences et de polarisation. Cette victoire n'était cependant pas aussi définitive qu'on a pu le supposer. Quoique le caractère ondulatoire de la lumière ne puisse être mis en doute, la notion de particule de lumière a réapparu, sous une forme nouvelle, avec l'hypothése des quanta et notre théorie de la lumière est à l'heure actuelle un singulier mélange des deux conceptions de l'émission et des ondulations.

2. Dix heures du matin. Pas un souffle d'air. C'était le mois de juillet le plus chaud qu'on eût connu. Dans l'étroite rue de Jérusalem, une centaine de citoyens de la section faisaient la queue à la porte du boulanger, sous la surveillance de quatre gardes nationaux qui, l'arme au repos, fumaient leur pipe. La Convention nationale avait décrété le *maximum* : aussitôt grains, farine avaient disparu. Comme les Israélites au désert, les Parisiens se levaient avant le jour s'ils voulaient manger. Tous ces gens, serrés les uns contre les autres, hommes, femmes, enfants, sous un ciel de plomb fondu, qui chauffait les pourritures des ruisseaux et exaltait les odeurs de sueur et de crasse, se bousculaient, se regardaient avec tous les sentiments que les êtres humains peuvent épouver les uns pour les autres, antipathie, dégoût, intérêt, désir, indifférence.

和文英譯

1. イタリヤの僧 Cupani が 1699 年にシシリー島から野生の小い sweet peas の種子を英國の友人に送つた。それが段々改良されて現今では花も立派に大くなり香も増し世界各國の人を喜ばす sweet peas となつた。

2. Sir William Ramsay は飛行船に水素の代りにヘリウムを用ゆべしと主張して歐洲大戰の眞中に死んだ。然し當時はヘリウムを大量に得ることが出來なかつた。所が後に天然瓦斯からそれをとることが發見され大戰の止む頃には米國より 15 萬立方呎のヘリウムを歐洲に送ることが出來るようになつた。

數　學

(力學と共に二時間半)

1. 半徑が1米なる半球を其の底面に平行なる平面にて截り其の體積を二等分せんとす，底面と截面との距離を粍の位まで算出せよ。

2. 二つの變數 x 及び y の間に $x^3+y^3=3xy$ なる關係あるとき，x^2+y^2 の極大値及び極小値を索めよ。

3. 方程式 $\sqrt{x}+\sqrt{y}=1$ の表はす曲線を畫き且其の長さを索めよ。

物　理　學　(二時間)

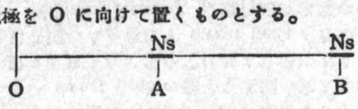
1. 熱の仕事當量とは何か。これを精密に測定する一つの方法を述べよ。

2. 空氣中に於ける音の速度に對する水蒸氣の影響を論ぜよ。

3. 電燈の球が乳色ガラスなれば纖條の形がはつきり見え，磨りガラスなれば見えないのは如何なる理由によるか。

4. 水平な机の上に小さい羅針盤と小さい一本の棒磁石と

がある。羅針盤をOに置き，棒磁石をAに置くときとBに置くときとの羅針盤磁針の方向を知つて磁氣子午線の方向を求める作圖法を示せ。但しO, A, Bは一直線上にあつて OA=AB, 又棒磁石は二回とも軸をOB線上に北極をOに向けて置くものとする。



5. 電氣容量 0.003 microfarad の蓄電器がある。これと同容量の孤立した球狀導體の直徑はいくらか。但し
farad = coulomb／volt = 10^{-9} C. G. S. 電磁單位

力　學

(數學と共に二時間半)

1. 地上の或る點Aから與へられた速度V米1秒で物體を拋げて，Aと同一水平面上でAからa米だけ隔たつた點Bに達せしめるにはどんな方向に拋つべきか。但し空氣の抵抗はないものとする。

2. 半徑a糎の一樣な薄い圓板にこれを直角に貫く軸が圓板の中心からb糎の距離に取付けてある。この軸を水平にして，それの周りに小さい振動をさせる場合に於ける振動の週期を求め，なほ與へられた圓板に就て週期を最小にするにはbを如何に選ぶべきかをしらべよ。

化　學 (一時間半)

1. ヘンリーの定律と分配の定律との關係を說明せよ。

2. 黃銅鑛を原料とする銅の冶金に於ける化學變化の大要を反應式を用ひて說明せよ。

3. 組成は炭素 56.45%，水素 9.10%，窒素 25.45% にして氣態比重は空氣の二倍に近き化合物あり。其の分子式を定め此の分子式を有する既知の化合物の名稱並に性質を記せ。

4. 25° C. の水1立は 0.0024 瓦の硫酸バリウムを溶解す。0.001 規定の硫酸1立は 25° C. に於て約幾瓦の硫酸バリウムを溶解すべきか。
但し S=32, Ba=137 とす。

◎東京帝國大學工學部

歐文和譯

1. 次の文の中何れか一つを邦語に譯すべし

(A) The goal of personal life is realization of the self. Wherever there is life at all there is effort, strain, struggle to be. Every little creature which comes into the world is furnished with instincts that work toward guarding and furthering existence. On each higher level of life this foundamental principle shows higher significance, but it is nowhere absent.

(B) Am farbigen Abglanz haben wir das Leben. Es ist dem Menschen eingeboren, dass er neben die wirkliche Welt eine zweite, unwirkliche, zu setzen trachtet, sein eigenes Werk; ein blosser Schein, ein Symbol nur, dem Menschen ganz nutzlos und doch von höchstem Wert. Wir nennen diese Scheinwelt Kunst. In ihrer Schaffung wird der Mensch sich bewusst und nimmt sich heraus, zu sagen, was die Wirklichkeit ihm bedeutet, was in ihr und seiner Stellung zu ihm das Wesenhafte und Wertvolle ist.

(C) Je puis bien concevoir un homme sans mains, sans pieds; et je le concevrais même sans tête, si l'expérience ne m'apprensit que c'est par là qu'il pense. C'est donc la pensée qui fait l'être de l'homme, et sans quoi on ne le peut concevoir. Qu'est-ce qui sent du plaisir en nous? Est-ce la main? est-ce le bras? est-ce la chair? est-ce le sang? On verra qu'il faut que ce soit quelque chose d'immatériel.

2. 次の文の何れか一を邦譯すし

(A) Farm electrification in Japan has close and intimate relation with the food problem of her increasing population and with the problem of the high cost of labour which resulted from the economical condition of Japan after the World War.

(B) Die Anwendung der Elektrizität in der Landwirtschaft in Japan wird angestrebt einerseits, um der sich vermehrenden Bevölkerung genügend Nahrungsmittel zu verschaffen, anderseits um die Handarbeit.

welche infolge der gestiegenen Arbeitslöhne seit dem Kriege sehr teuer geworden ist, durch Mascinenarbeit zu ersetzen.

(C) Au Japon, l'application de l'électricité à l'agriculture poursuit deux buts, à savoir: almenter en suffisance la population qui augmente sans cesse; remplacer, par le travail des machines, la main-d'oeuvre, très chère depuis la guerre à la suite de la hausse des salaires.

數　　學　(二時間半)

1. $y=x(x-1)(x-2)$ の表す曲線の大體を畫き且その曲線と x 軸との包む面積を計算せよ。
2. 曲線 $x=a(2\cos t+\cos 2t)$
   $y=a(2\sin t-\sin 2t)$
   の任意の點に於ける切線の方程式を求む。
3. $\int\frac{\cos\theta(p+\sin\theta)}{\cos^2\theta-p\sin\theta}d\theta$ を計算せよ。
4. ゼンマイ秤の鉤に W なる重量の物體を靜かに掛け（重みが秤に掛らざる樣）急に手を放すとき，秤の示す最大の目盛は如何，但しゼンマイ及び鉤の質量は無視す。

化　　學　(二時間)

1. 酸化カルシウム，炭酸カルシウム及び炭酸マグネシウム，を相觸るゝこと無き樣にして，一の容器に密封し，溫度を徐々上げて，常溫より約 1000°c に至らしめ，次に之を徐々冷して，常溫に復歸せしむ。此間，容器內の固相，氣相及び壓に如何なる變化ありと考ふるか。
2. 水溶液に於て，次の如き反應を呈する一の無機化合物は何か。
   但し非案化合物に非らず。
   (a) 鹽酸と作用して白色沈澱を生ず。其沈澱は鹽酸に溶解せず。アムモニアに溶解す。
   (b) 硝酸バリウムと作用して白色沈澱を生ず。其沈澱は硝酸に溶解せず。
3. ベンゾールの重なる利用を述べよ。
   但し化學變化を伴ふものは，反應式を記せよ。

鑛物及地質

1. 各結晶系 (Crystallographic system) に就いて，其結晶軸の關係を說明し且つ所屬の鑛物二個宛擧げよ。
2. 岩石の三大別なる

火成岩 (Igneous rock or Eruptive rock)
水成岩 (Aqueous rock or Sedimentary rock)
變成岩 (Metamorphic rock or Schistose rock)
に就き各特徵を略記せよ。

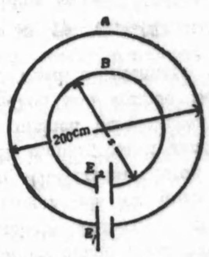
物　　理　(二時間)

1. 下記の諸量の二桁乃至三桁の近似値を括弧內に指定せられたる單位を以て示せ。
   (1) 水銀 1 c.c. の重量(ダイン)；(2) 氷の融解點（絕對溫度)；(3) 氣體定數(エルグ/溫度)；(4) 大氣中の音波の速度(米/秒)；(5 眞空中の光の速度(糎/秒)；(6) 水の屈折率　(7) 熱の仕事當量(ジュール/カロリー)；(8) 鋼の透磁率(電磁單位)；(9) D 線の波長(uu)　(10) 鉛蓄電池一個の起電力(ヴオルト) (Permeability of copper)
2. 單位質量の完全氣體が壓力 P_1，絕對溫度 T_1 及びエントロピー ϕ_1 なる狀態より壓力 P_2 絕對溫度 T_2 及びエントロピー ϕ_2 なる狀態に變化したりとすればエントロピーの變化は次式にて算出し得る事を證明せよ。

$$\phi_2-\phi_1=Cp\log\left(\frac{T_2}{T_1}\right)+\frac{R}{m}\log\left(\frac{P_1}{P_2}\right)$$

但し Cp は定壓比熱；R は氣體定數；m は分子量。

3. 同一平面上に同心に置かれたる二個の圓形回路 (A 及び B) に相等しき起電力を有する電源 (E_1 及び E_2) より互に逆方向に電流を通じ，其の中心に於ける合成磁場を零ならしめんとす。A 回路には銅線を用ひ，B 回路はアルミニウム線にして，共に一樣なる圓形斷面を有す。銅線の直徑は 0.25 cm. アルミニウム線の夫れは 0.2cm. なり。A 回路の平均直徑を 200 cm. とせば B 回路の夫れは何糎なるべきか。但し銅の比抵抗を 1.7×10^{-6} オーム糎，アルミニウムの夫れを 2.8×10^{-6} オーム糎とし，電源の大き及び抵抗を無視して計算せよ。



◎東京帝國大學文學部

獨文和譯（二時間）

1. Die Germanen sind das kühne Seevolk des Nordens. Das bedeutet: Frische, Gesundheit, Abhärtung. Wir können noch heute die belebende Wirkung, die Seebäder, während weniger Wochen genommen, auf unser Befinden an den Küsten für Monate ausüben, merken und daran ermessen, wie ein Volk, das jahraus, jahrein von Geschlecht zu Geschlecht dort sass, seine Körperfrische und Leistungsfähigkeit entwickelte. Ein Volk, das dem nordischen Meere einen Teil seiner Nahrung abgewinnen will, darf nicht schläfrig, vertäumt, träge am Ufer sitzen und dem Spiel der Wellen zuschauen.

2. Als ich vor sechs Jahren nahe dran war, einer schmachvollen Lage zu erliegen, weil mir zum ersten Eintritt in einen höheren Bildungskreis notwendige kleine Geldsumme fehlte, da schlossen Sie sich denjenigen Personen, welche sich bemühten, mir diese zu verschaffen, mit Wort und Tat an. Glauben Sie nicht, dass ich Ihr Verdienst um meine Entwicklung vergessen habe, weil ich so lange zögerte, Ihnen das Gegenteil zu beweisen. Dies ging aus den Umständen und aus meinem Charakter hervor. Studentenbriefe, die in meinen Verhältnissen immer einige Ähnlichkeit mit stummen Bettelbriefen gehabt hätten, mochte ich nicht schreiben, um so weniger, als ich mich schon bei meinem Abgang zur Universität durch bittre Erfahrungen veranlasst sah, meine Zukunft einzig und allein von mir selbst, von meinen persönlichen Bestrebungen, abhängig zu machen und fremde Beihilfe, die mir auch seitdem nicht ward, abzulehnen.

佛文和譯（二時間）

Portrait d'un avare

Le seigneur Harpagon est, de tous les humains, l'humain le moins humain; le mortel, de tous les mortels, le plus dur et le plus serré. Il n'est point de service qui pousse sa reconnaissance jusqu' à lui faire ouvrir les mains. De la louange, de l'estime, de la bienveillance en paroles et de l'amitié, tant qu'il vous plaira; mais de l'argent, point d'affaires. Il n'est rien de plus aride que ses bonnes grâces et ses caresses; et donner est un mot pour lequel il a tant d'aversion, qu'il ne dit jamais: je vous danne, mais: je vous prête le bonjour. Je défie d'attendrir, du côté de l'argent, l'homme dont il est question.

和文佛譯

"不可能といふ語を字書から去れ"と云つたナポレオンは猪口才である。

"人間はあらゆるものを發明する事が出來る—幸福になる術を除いては"と云つたナポレオンは稍々語るに足る。然し，自ら言はず，唯，巨砲の口をして殷々たる大音聲を放たしめたナポレオンが，要するに最もナポレオンらしい。

英文和譯（二時間）

【注意】答案は各別紙に認むべし

1. The origin of any widespread social disturbance is never merely a theory. It is only in pursuit of their interests, or under the influence of powerful emotions, that large masses of men are moved to action. When we analyse any of the historical movements in favour of democracy, we find that they derive their original impetus from considerations of self-interest on the part of the whole or a part of the population. But the discontented are never satisfied with mere discontent and desire for change. They like to justify their discontent, to find exalted and philosophical excuses for their desires, to feel that the state of affairs most convenient to themselves is also the state of affairs most agreeable to Pure Reason, Nature, and the Deity.

2. Still the mysterious coming sounds continued at intervals to grow louder and clearer, joined by other tones as they progressed, now altogether bursting out in joyous chorus, then one purest liquid note soaring bird-like alone, but whether from voices or wind instruments I was unable to tell, until the whole air about me was filled and palpitating with the strange, exquisite harmony, which passed onwards, the tones

growing fewer and fainter by degrees until they almost died out of hearing in the opposite direction.

和文英譯

恐らくは，挙げらるべくして，挙げ洩らされた名著も尠くないであらう。が，それは著者自らがまだ讀んでゐなかつた爲か，或ひはまだ善く其存在を確かめ得てゐなかつた爲であつたと諒せられたい。

獨　　文　（二時間）

1′ 次の文を獨譯せよ。

2′ 其の事については，種類，屬，科，作者及び成立時代を記せ。

（イ）自我會話　（ロ）近代劇
（ハ）萬葉集古歌　（ニ）若菜集
（ホ）和歌即興詩　（ヘ）桂園一枝
（ト）明　星　（チ）新古今集
（リ）武士道　（ヌ）參語問題集
（ル）舞　姫　（ヲ）獨和辭典

3′ 左の語について，次に示す例の如く，文法上の説明を加へよ。

わが宿の花見がてらに來る人は

（例）

獨　　文　（二時間）

1′ 左の文を獨譯せよ。

「我」　自稱（又は多數人稱）代名詞
「は」　助　　詞
「行か」　カ行四段動詞の未然形（又は未然形）
「ど」　助動詞「ど」の終止形，
「我は」「行かど」に續する主語，
「行かど」「我は」に續する述語として文を終止す。

◎東京帝國大學農學部

英　文　和　譯

1. A word may be said about Arrhenius as a linguist. He held thaf to speak a foreign language what one wanted was, not so mnch knowledge, as courage Being liberally endowed with this latter quality he spoke and wrote many languages with ease and confidence, if not with accuracy.

2. Having got his facts, the scientific investigator proceeds to arrange them, to find their common denominator, to discover the conditions of their occurrence, and to describe them as completely and as simply as possible, and finally to sum them up in a general formula, often called "a law of nature."

獨　文　和　譯

1. Wohl ist der naturgenuss ein Erbeteil, das auch dem Ärmsten zukommen soll. Er setzt aber eine gewisse Kulturstufe voraus. Je mehr der Einzelne seine Sinne schärft, je mehr sich seine Beachtungskraft entwickelt, desto sicherer hat er sich die Grundlage zur sichern Erkentniss des Schönen geschaffen.

2. Als Physiologie bezeichnet man die Wissenschaft, welche die sich ausschlieslich im lebenden Organismus abspielenden Erscheinungen, die sogenannten Lebenserscheinungen, untersucht. Die der Lebenserscheinungen in der Pflanze gewidmet und stellt sich nicht nur eine möglichst vollstandige Beschreibung, sondern auch eine Erklarnng dieser Erscheinungen zur Aufgabe.

佛　文　和　譯

1. Dent pour dent, oeil ponr oeil, est une maxime inbumaine. Faites le bien à vos amis, ils vous aimeront davantage. Faites le bien à vos ennemis. ils deviendront vos amis. Il n'est que juste de faire du bien à ceux qui vous en ont fait; mais il est généreux de rehdre le bien pour le mal.

2. Ne forçons point notre talent. L'homme doit se connaftre et savor ce qu'il vaut. La conscience de ses défauts le rendra modeste. Il évitera ainsi un travers aussi dangereux que ridicule: la vanité.

數　學（二時間）

1. $e^x+2\cos x+e^{-x}$ の極大又は極小の値を求めよ。
2. $\mathrm{Lim}_{(x=0)}\left(\frac{1}{z}\right)^{\sin z}$ を求めよ。
3. $\int \cos^2 x\,dx$ を求めよ。
4. Cycloid（擺線）: $x=a(t-\sin t)$, $y=a(1-\cos t)$. の Roll circle（轉圓）が一回轉したるときの曲線と x 軸との間の面積を求めよ。

化　學

1. 水素の製法並に其工業的利用法を問ふ。
2. アルカロイドとは何ぞや。
   例三を擧げよ。
3. 下の化合物の一般式を記せ。
   （イ）アミン　（ロ）アルデハイド　（ハ）ケトン
   （ニ）エーテル　（ホ）エステル

動　物　學

1. 生殖の種類を擧げ簡單に說明せよ。
2. 下の事項を簡單に說明せよ。
   （イ）胚葉 (Germ layers)
   （ロ）共棲 (Symbiosis)
   （ハ）彷徨變異 (Fluctuation)
   （ニ）プラコクトン (Plankton)

植　物　學
（動物學と併せて二時間）

1. 染色體 (Chromosome) とは何ぞや。
2. 植物の榮養に缺くべからざる元素を列記せよ。

◎九州帝國大學醫學部

物　理　學（五十分）

（昭和四年三月十六日）

（一）閉鎖感應電流ト開放感應電流(Schliessungs und Offnungsindukionsstrom.)ノ相異ノ點ヲ述ベヨ。

（二）電動力ヲ任意ニ變ゼントス，如何ニセバ可ナルヤ。

化　學（五十分）

（一）化學反應ノ速度ヲ論ゼヨ。

（二）「エチルアルコール」ヨリ「プロピオン酸」ヲ，及ビ「ベンツオール」ヨリ「フエノール」ヲ導ク方法ヲ化學式ヲ以テ示セ。

動植物學（五十分）

〔I〕次ノ事項ヲ簡明ニ說明セヨ。

1. 「ラゲナ」Lagena.
2. 蛙ノ赤血球 Erythrocyten des Frosches.
3. 「ゲヲトロピスムス」Geotropismus.
4. 葉綠體 Chloroplasten.

〔II〕「モルモツト」ニテ純系黑色平毛ノモノヲ雄親トシ，純系白色粗毛ノモノヲ雌親トシテ，交配實驗ヲナシタルニ次ノ結果ヲ得タリト云フ。此レヲ說明スルニ都合ヨキ方則アリヤ？有リトセバ，其ノ方則ニ依テ，此ノ結果ヲ簡明ニ說明セヨ。

外　國　語（五十分）

1. 次ノ獨，英，佛三ケ國語ノ中，獨逸語及ビ任意ノ他ノ一ケ國語ヲ日本語ニ飜譯セヨ。（六十點）

（獨）Der Lebensvorgang kann sich wiejeder Vorgang nur abspielen, wenn enie bestimmte Summe von Bedingungen gegeben ist. Mit. dieser Summe von Lebensbedingungen ist das, was wir Leben nennen,

identisch. Wäre der ganze Komplex von Lebensbedingungen ermittelt, kaun wäre das Leben restlos erklärt, und man könnte daran denken, schliesslich noch die Probe aufdas Exempel zu machen und die Bedingungen synthetisch experimentell zusammenzufügen. Wenn dieser Versuch realisierbar Wäre, so wäre dann Leben künstilch erzeugt.

M. Verworn (Zuntz und Loewy: Lehrbuch der Physiocogie des Menschen).

(英) It is the same property of adaptation, the deciding factor in the struggle for existence, which impeles the greatest thinkers of our time to spend long years of toil in the invention of the means for the officeen and defence of their communtiy, or for the protection of mankind against disease and death. The same law which determines the downward growth of the root in plants is responsible for the existence to-day of all the sciences of which mankind is proud.

E. H, Starbing (Starling: Principles of human physiology).

(佛) Il n'y a en réalite q'une physique, qu'une chimie, qu'une mécanique générale, dans laquelle rentrent toutes les manifestations phénoménales de la nature aussi bien celles des corps vivants que celles des corps bruts. Tous les phénoménes en un mot qui apparaissent dans l'étre vivant, retrouvent leurs lois en dehors de lui, de sorte qu'on pourrait dire que toutes les manifestations de la vie se composent de phénoménes empruntés, quant à leur nature, au monde cosmiqe extérieur.

Cl. Bernard (Fredeicq et Nuel: Elements de physiologie phumaine).

2. 次ノ日本語ヲ獨, 英, 佛三ケ國語ノ中任意ノ一ケ國語ニ飜譯セヨ。(四十點)

(1) 大學ハ我ガ國家ニ須要ナル學術ノ理論及ビ應用ヲ教授シ並ニ之ヲ攻究スル所デアル。

(2) 醫學ハ應用科學デアルカラ之ヲ學ブニハ自然科學及ビ精神科學一般ノ素養ガ必要デアル。

◎九州帝國大學工學部

數　學

1. 楕圓 $\frac{x2}{a2}+\frac{y2}{b2}=1$ に內接する最大面積を有する矩形の面積を求めよ。

2. 二つの直線あり互に平行にして其の間の距離 100 米とす。今一つの直線上を甲は每時5粁の速度にて步み他の直線上を乙は每時3粁の速度で同じ方向に步むものとす或る瞬間に於ける甲乙二人の間隔 120 米なるとき其瞬間に於て二人の間隔は每分何米の割合に變化しつゝありや

化　學

1. 次の術語を說明せよ。
   Polymorphism (Polymorphie)
   Geometrical isomerism (Geometrisch Isomerie)

2. (a) 次の化學變化を方程式を以て示せ。
   銅に硫酸を作用する場合。
   第一鹽化錫の水溶液に苛性曹達を作用する場合。
   (b) CH_2O なる實驗式を有する有機化合物に就きて三つの例を擧げ且つ各々の構造式を示せ。

物　理

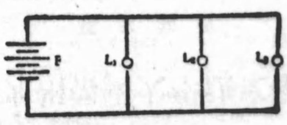
1. (イ) 蓋なき鐵製の箱に張れる氷あり。大氣中にて鐵箱の外より之を熱する時, 次第に惹起される變化の有樣を述べよ。

(ロ) 上記の鐵箱は厚さ2糎の鐵板で造られ, 其傳熱面積は1平方米, 熱せられる鐵板の外側の溫度を攝氏600°. 內側の溫度は滿されし氷或は水と同溫度とすれば, 溫度0°, 容積1立方米の氷を 0° の水にするには幾分幾秒を要するか。

但し氷の密度を 0.92 瓦/糎³, 融解熱を $80\frac{\text{瓦カロリー}}{\text{瓦}}$,

鐵板の熱傳導率を $0.15\frac{\text{瓦カロリー}}{\text{糎}^2\text{度/糎秒}}$ として計算せよ。

2.



上圖に於て E は電池にして其の起電力は 100 ヴォルト L_1L_2 及び L_3 は此の狀態に於て夫々 20, 30 及び 40 燭光を出す白熱電燈なりとす。其の一燭光當り 1.25ワットの電力を要するとき此等三電燈の合成抵抗は何オームとなるか。但し電燈以外の部分には抵抗なきものとして計算せよ。

力　學

1. 1 糎なる長さの彈性の棒ありこれを x 糎だけ延ばすには $K\left(\frac{x}{1}\right)$「ダイン」の力を要す(但し K は定數) 然るとき此の棒を(1+α)糎なる長さに延ばすに要する仕事の量幾何程なるや。但し棒の變形は彈性限度內とす。

2. 半徑 r 糎, 長さ 1 糎, 密度 ρ 瓦/糎^3 なる圓壔あり。下圖の如く中心軸の周りに ω ラヂアン/秒なる廻轉速度で廻轉しながら v 糎/秒なる並行速度を有し, 地上水平基準面より h 糎の高さにある時, 地上水平基準面に對して此圓壔の有する總エネルギーは幾何程なるか。絕對單位及び重力單位で書きあらはせよ。(圖は略す)

◎九州帝國大學法文學部

英文和譯

1. (A) Every branch of science has a subject-matter of its own — some group of natural phenomena — some fragment or aspect of the actual world. If the study of law is, or is to be, the study of a brach of science, then it must deal with a group of natural phenomena, with a part of the actual word, with some peculiar type of subject-matter. What is that subject-matter? In my present view the answer is: the subject-matter of legal science is a certain species of human behavior — I mean the distinctive behavior of those persons whose official rôle in human socityis to answer such questions as arise repecting what is just. In a word, the subject-matter of legal science is the decisions (the distinctive behavior) of judges. (50)

(B) According to the reasonable principles of international social life, sovereignty, the paramount power in the juridical community of the human species, belongs to mankind, the personification of the human species, and, strictly speaing, exclusively to mankind. As, however, in the present state of the world, the general direction of public affairs is exercised by the States, as the representatives of mankind, there is no objection, although the power of the States is a derived power and a creation of historical events, to giving the power of the States the qualification "Sovereignty," provided that we take the word "Sovereiguty" in a peculiar sense, the sense of an immediate tenure of mankind. (50)

2. (1) It is probable that no more was meant by those who denied innate ideas, than that all ideas were copies of our impressions, though it must be confessed that the terms which they employed were not chosen with such caution, nor so exactly defined, as to prevent all mistakes about their doctrine.

(2) For example, when we think that it is impossible to make anything out of nothing, we do not imagine that this proposition is a thing which exists, or a property of something, but we take it for a certain eternal truth, which has its seat in the mind, and is called an axiom.

(3) Our most holy religion is founded on Faith, not on reason, and it is a sure method of exposing it to put it to such a trial as it is by no means fitted to endure. (100)

3. (A) It is scarcely necessary to remark that a stationary condition of capital and population implies no stationary state of human improvent. There would be as much scope as ever for all kinds of mental culture, and moral and social progress; as much room for improving the Art of Living, and much more likelihood of its being improved, when minds ceased to be engrossed by the art of gething on. (30)

(B) The relative strength and growth in capitalist production of the various countries must, of course, be profoundly affected by their relative possession and availability of coal, oil, and water power, together with improvements in the technique of the generation and distribution of electric power. The dominating part

played by electric energy, distributed from great generating stations over wide areas, may not only alter the relative position of the industrial nations in wealth, production, and commerce, but may have equally important reactions upon the conditions of work and life within the industrial countries. (30)

和文英譯

戰後各國とも非常なる不景氣に襲はれてゐる。この狀態を如何に切り抜けるかは各國爲政者、學者、實際家の均しく頭を惱ましてゐる問題である。(四〇點)

獨文和譯

1. Eine Rechts und Staatstheorie hat es damit zu tun, was sich von dem Rechte und dem Stante allgemeingültig feststellen lässt. Sie muss die reinen Formen darlegen, in denen wir juristisch denken und gegebenes rechtliches Whollen grundsätzlich beurteilen. Indem sie also die gleichmässige Methode für das Erfassen rectlicher Gedanken angeben will, sucht sie nach einem Massstable, mit dem sich wissenschaftlich — das ist: in unbedingt einheitlicher Weise des Erwägens — beweisen lässt: ob ein geschichtlich auftretendes Recht die Eigenschaft der Richtigkeit besitze oder nicht.

2. Die Probleme des Sprachursprungs und der Sprachverwandtschaft decken sich im wesentlichen; was sich gegen die Annahme von lauter festbegrenzten Ursprachen sagen lässt, das auch gegen die allgemeine Ursprache. Die Grundlagen bleiben die gleichen, welche Zwecke wir auch vor Augen haben mögen; die Aufgabe des Sprachforschers ist es, die Zusammenhänge zwischen den Sprachen und den Sprachtatsachen zu untersuchen und ein moglichst treues Bild von den Vorgängen zu gewinnen, auf denen sie beruhen. Sprachverwandtschaft ist eine Art von Kulturverwandtschaft; das kommt in den einzelnen Problemen und Methoden zum Ausdruk, wenn auch die Sprache, dank ihrer symbolischen Natur, den andren Kulturgütern gegenüber eine gewisse Sonderstellung einnimmt. (100)

3. Der individuale Faktor kann für die Bestimmung des Objektes einer Sozialwissenschaft deshalb nicht von massgebender Bedeutung sein, weil die rein individuale Bedingtheit des Wollens und Handelns sich ja über die Sozialphänomene hinaus erstreckt, nichts diese besonders Charakterisierendes, das "Prinzip der Wirtschaftlichkeit" des Handelns ja ein allgemeines Prinzip alles rationalen Handelns und kein spezifisch soziales Verkehrsprinzip ist. Es kommt in der Nationalökonomie nicht schlechthin auf dieses prinzip im allgemeinen an, sondern auf eine bestimmte Ausdrucksweise dieses Prinzipes in einem ganz bestimmt gearteten sozialen Verkehre und unter ganz bestimmten besonderen Vcraussetzungen. Die Voraussetzung dieses allgemeinen Individualprinzipes der "Wirtschaftlichkeit" des Handelns als eines allgemeinen Vernunftprinzipes jedes vernünftigen und daher einer Erkenntnis zugänglichen Handelns ist zwar eine auch für die spezifisch nationalökonomische Erkenntnis notwendige, aber keine, die ihre spezifische Eigenart als nationalökonomische bedingt (100)

◎九州帝國大學農學部

英文和譯

1. The concept of a "struggle for existence" among livin gorganisms has as a corollary the idea of a "natural balance." If we consider an individual plant. the continuation of the species will depend upon its ability to maturity and to provide for the reproduction of its kind despite the many factors which tend towards its suppression: Of these factors, an important group comprises thoseo the rorganisms, the pests of the plant, which in the course of their existence cause injury or prejudice its successful development. If the plant tends towards an increase, conditions will favour the multiplication of the pests; the increase of the pests brings about, in turn, a reduction of the productivity of the plant. These processes result in the establishment of an equilibrium — the "natural balance."

Man is able to modify this natural balance to suit better his own needs. He is able to encourage arti-

ficially the growth and reproduction of those plants useful to him as crop plants and to discourage the growth and reproduction of those particular pests which, because of that encouragement, tend likewise to increase.

2. Although the inquisitive mood is probably instinctive in man, it does not seem likely that the early conditions of human life can have favoured the pursuit of knowledge for its own sake. It was doubtless in practical lore that the science of life had its beginnings. The gardener and the shepherd, the herbgatherer and the huntsman, were the pioneers of the biologist, and they may teach him still.

If we use the term Biology, in its widest sense of Life-lore, to include all the results of the scientific study of living creatures, we must admit that it had its foundations in antiquity. But if we restrict the word, as is often done, to the study of the general vital phenomena common to plants and animals, then it is very modern.

獨文和譯

1. "Die Pflanzen leben, die Tiere leben und empfinden," Mit diesen Worten versucht der grosse Naturforscher Linné das Gemeinsame und den Unterschied zwischen Tier und Pflanze zu bestimmen. Sein Ausspruch ist jedoch mit Recht angefochten, denn einerseits ist der Begriff des Lebens durchaus nicht mit genügender Genauigkeit zu bestimmen, anderseits sind wir weder imistande, mit Sicherheit zu behaupten, dass alle Tiere empfinden, noch können wir den Pflanzen ohne weiteres die Fähigkeit dazu absprechen.

Auch das Vermögen, sich von der Stelle zu bewegen, das man gewöhnlich als etwas nur den Tieren Eigentümliches bezeichnet, ist kein sicheres Kennzeichen; denn viele Algen und Pilze, sowie die Sporen mancher blütenlosen Pflanzen können sich frei im Wasser umherbewegen, während die Bewegungsfreiheit vieler Tiere aufs äusserste beschränkt ist.

2. Der Sonnenball sinkt langsam rotglühend am Horizont hinab. Langsam, wie ein Held, stirbt das Licht; aber lange noch glüht der ganze Himmel und leuchtet noch, nachdem die Sonne verschwunden ist.

So leben die Edlen und Braven fort im Andenken ihres Volkes, so wirkt das Schaffen fleissiger, tüchtiger Menschen noch lange zum Segen ihres Namens. Auch des Bauern Andenken und Wirken wird fortleben über Jahr und Tag in seinem Hofe. Was er schuf, das wird späterer Geschlechter Nutz und Freude sein. Und auch dem Vaterlande wird er zum Segen gedeihen. Bauernarbeit ist Zukunftsarbeit, Bauernflei ist Volkssegen.

◎東北帝國大學理學部

數學教室

解析幾何學

1. 直交座標 x, y ノ相和平均(即チ算術平均)ト調和平均(即チ逆數ノ相和平均)トノ積ガ一定(c^2)ナル如キ點 $P(x, y)$ ノ軌跡ヲ求ム。又 x, y ノ相乘平均(即チ幾何平均)ト調和平均トノ積ガ一定(c)ナル如キ點 $P(x, y)$ ノ軌跡ヲ求メテ之ヲ前者ト比較シ，且ツ之等ガ如何ナル圖形ナルカヲ說明セヨ。

2. 拋物線上ノ動點 M ヲ過リテ，拋物線ノ軸ニ平行ニ引ケル直線ガ，拋物線ノ頂點 A ニ於ケル切線ト交ル點ヲ P トシ，M ニ於ケル切線ニ P ヨリ下セル垂線ガ直線 AM ト交ル點ヲ Q トスレバ點 Q ノ軌跡ハ該拋物線ノ焦點ヲ中心トスル楕圓ナリ。

3. 双曲線ノ任意ノ切線ガ二ツノ漸近線ノ間ニ截チトラルル線分ハ其ノ切點ニテ二等分セラル。

4. 原點ニ於テ互ニ直交スル三ツノ直線上ノ楕圓體

$$\frac{x^2}{a^2}+\frac{y^2}{b^2}+\frac{z^2}{c^2}=1$$

ノ半徑ガ $r_1\ r_2\ r_3$ ナル時ハ

$$\frac{1}{r_1^2}+\frac{1}{r_2^2}+\frac{1}{r_3^2}=\frac{1}{a^2}+\frac{1}{b^2}+\frac{1}{c^2}$$

ナルコトヲ證セヨ。

微積分

1. Find the limit of $(\cos x)^{\cot^2 x}$ as x to zero

2. Prove that

$$\frac{2}{3}n\frac{3}{2}<\sqrt{1}+\sqrt{2}+\sqrt{3}+\cdots\cdots+\sqrt{n}-\frac{2}{3}\{(n+1)^{\frac{3}{2}}-1\}$$

3. Explain how to find the envelope of $f(x, y, \alpha)$ and find the condition that the contact of the curve with its envelope at a point should be at least of the second arder.
4. Find the area of the loop of the curve
$$y^2(x-a)+x^2(x+a)=0$$
in rectangular coordinats.

物　理　學（二時間）

1. 氣體の壓と溶液の滲透壓との間には如何なる關係ありや。
2. 氣態，液態及固態は如何なる點にて相異るか。
3. 燐光，螢光に就て知る所を記せ。
4. 電子の電荷を測定する方法の概略を記せ。

化　學（二時間）

1. 過酸化水素水溶液に對する酸化銀及び二酸化マンガンの作用を比較し，その作用を次の熱化學的數値を用ひて論ぜよ。

$$2Ag+\frac{1}{2}O_2=Ag_2O+5400\ cal.$$
$$Mn+O_2=MnO_2+126000\ cal.$$
$$\frac{1}{2}O_2+H_2O=H_2O_2\ aq-23000\ cal.$$

2. 次の場合に如何なる化學變化を生ずるか。
(a) 二酸化鉛ト鹽酸，(b) 硫黄と濃硫酸を熱す，
(c) 漂白粉水溶液に二酸化炭素を通ず，
(d) 沃素溶液に二酸化硫黄を通ず。
3. 下記の化合物に亞硝酸の作用を反應式を以て記せ。
(イ) 第一ニトロパラフイン (Primary Nitro-paraffin)
(ロ) 第二ニトロパラフイン (Secondary Nitro-paraffin)
(ハ) メチルアミン (Methylamine)
(ニ) ヂメチルアミン (Dimethylamine)
(ホ) ヂメルアルアニリン (Dimethylaniline)
(ヘ) アニリン鹽化水素鹽 (Anilin Hyrschloride)
(ト) グリシンエステル (Glycine Ester)
(チ) アラニン (Alanine)
4. フエニルヒドラヂン (Phenyl hydazine) の製法を記し葡萄糖 (Gliccose) 及ビ果糖 (Fructose) に對する其作用を述べよ。

5. 焔色反應及硼砂球反應に就て說明せよ。

地質學古生物學教室

下記ノ標品ヲ示シテ知ル所ヲ記セ。

地　質　學

1. アンモナイト (北海道白堊紀産)
2. 安山岩
3. 等軸玉石 (蛋白石)
4. 鏡乳狀熔岩
5. フズリナ石灰岩
6. 水河作用による擦痕ある礫
7. 六射珊瑚 (Herpetolithe)
8. 灰長石 (Anorthite)
9. Sequoia の葉の化石 (撫順第三紀産)
10. 粘板岩

生　物　學

1. 馬ノ頭蓋骨
2. 化石象ノ臼齒
3. 有孔蟲 (Biloculina)
4. 泥炭苔 (Peatmoss Jphogneem)
5. えぼしがい (Lepas)
6. 海百合 (Heliometre)
7. 硅質海綿 (Aphrccallistes)
8. ねしざめノ齒 (Heterodontus)
9. 珂逸トーヒ (Picer excelia)
10. うらじろがし (Quercus myrsnalfaica)

岩石鑛物鑛床學教室

物　理

1. 溫度測定法の種類を擧げ，其原理を述べよ。
2. 電磁波 (Electromagnetic Waves) には其波長により如何なる種類ありや。各ノ簡單なる說明を與へよ。
3. 光の波長測定法とその理論について述べよ。

鑛　物

1. 鑛物學の研究に物理化學 (Physical chemistry) の必要なる所以を說明せよ。
2. 同一化學成分を有する鑛物にして結晶體及び非晶體として產出する實例を擧げ，その鑛物學上の性質を比較せ

よ。

3. 次の鑛物に就て知る所を記せ。

(イ) 銅籃(Covelline)
(ロ) 紫蘇輝石(Hypersthene)
(ハ) 高陸土(Kosline)
(ニ) 辰砂(Cinnabar)

次の語を説明せよ。

(イ) 對角の中心(Center of Spanisnetry)
(ロ) 双晶(Twin)
(ハ) 五角十二面體(Pentaganal dodecahedrou)
(ニ) ニコル柱(N.col prism)
(ホ) 多色性(Preochooism)

化　學

1. 次の分析表より其の岩石中に含まる方解石の頁分比を求めよ。

SiO_2	0.07	
Mg0	18.16	(但シ表中の CaO は全部方解石
CaO	29.03	とし Ca=40, C=12 として計
MnO	1.42	算せよ)
F_2O	4.85	
CO_2	46.47	
	100.00	

2. (a) 次の化學方程式を完結せよ。

(イ) $2KMnO_4+10FeSO_4+8H_2SO_4=$
(ロ) $8AuCl_3+3H_2S+12H_2O=$

(b) 次の術語の化學式を示せ。

(イ) 加里明礬　(ロ) 石膏
(ハ) モリブデン酸アムモニア　(ニ) 昇汞
(ホ) 硝酸コバルト　(ヘ) 重クロム酸加里
(ト) 黄血鹽　(チ) 硫酸銅
(リ) 硼砂　(ヌ) 螢石

3. (a) $CaSO_4$ 及ビ NaCl の絶粹なる水に對する溶解度と溫度との關係を圖示せよ。

(b) Emulsoid と Suspensoid との著しき相違を記せ。

(c) H_2O の氷結溫度と壓力との關係を記せ。

昭和五年度

◎東京帝國大學法學部

英文和譯

1. That man, I think, has had a liberal education who has been so trained in youth that his body is the ready servant of his will, and does with ease and pleasure all the work that, as a mechanism, it is capable of; whose intellect is a clear, cold, logic engine, with all its parts of equal strength, and in smooth working order; whose mind is stored with a knowledge of the great and fundamental truths of Nature and of the laws of her operations; one who, no stunted ascetic, is full of life and fire, but whose passions are trained to come to heel by a vigorous will, the servant of a tender conscience; who has learned to love all beauty, whether of Nature or of art, to hate all vileness, and to respect others as himself.

2. Every age is in some sort an age of transition, but our own is characteristically and preëminently an epoch of transition in the very foundations of belief and conduct. The old hopes have grown pale, the old fears dim; strong sanctions are become weak, and once vivid faiths very numb. Religion, whatever destinies may be in store for it, is at least for the present hardly any longer an organic power. It is not that supreme, penetrating, controlling, decisive part of a man's life which it has been and will be again. The air seems full of missiles, and all is doubt, hesitation, and shivering expectancy. Hence a decisive reluctance to commit one's self. Conscience has lost its strong and on-pressing energy, and the sense of personal responsibility lacks sharpness of edge.

和文英譯

3. 産業革命は現代人の生活環境に劃世的な變化を齎した。假りにシーザーが十八世紀末のロンドンを訪れたとしても、左程驚かなかつたかも知れないが、ナポレオンが今日のニューヨークを案内されたとしたならば、驚異の眼をみはつたであらう。産業革命は自然科學の應用と云ふ極めて

單純な事實に依て達成されたのであつたが、それは交通機關の發達、近代都市の勃興、市場の世界的擴大等我々の外部的生活を變化せしめたばかりでなく、文學、藝術、哲學等我々の精神生活の領域にまでも大きな影響を與へつつあるのである。

(注意)
1. 英文和譯に就きては同時に國語漢文の學力をも試驗す(文體隨意)。
2. 答案は三問題夫々別の紙に認め且各葉に問題の番號を記入すべし。
3. 着席番號及氏名は所定の用紙以外に記入すべからず、此等を記入したる答案は之を無効とす。

獨文和譯

1. Das römisch-griechische Altertum, welches seit dem 14. Jahrhundert so mächtig in das italienische Leben eingriff, als Anhalt und Quelle der Kultur, als Ziel und Ideal des Daseins, teilweise auch als bewusster neuer Gegensatz, dieses Altertum hatte schon längst stellenweise auf das ganze, auch ausseritalienische Mittelalter eingewirkt. Diejenige Bildung, die Karl der Grosse vertrat, war wesentlich eine Renaissance gegenüber der

Barbarei des 7. und 8. Jahrhunderts und konnte nichts anderes sein. Wie hierauf in die romanische Baukunst des Nordens ausser der allgemeinen, vom Altertum ererbten Formengrundlage auch auffallende, direkt antike Formen sich einschleichen, so hatte die ganze Klostergelehrsamkeit allmählich eine grosse Masse von Stoff aus römischen Autoren in sich aufgenommen und auch ihr Stil blieb seit Einhart nicht ohne Nachahmung.

2. Der Mensch bedarf zu seiner geistigen Gesundheit des Naturverkehrs und Naturgenusses. Wir können überall beobachten, wie unser Volk sich am Grünen erfreut; und ergreifend war es in diesem Kriege zu beobachten, wie unsere Krieger vor allem nach Blumen verlangten. Ein Zustand, in dem grosse Massen von Menschen auf die Dauer auf ihre Wohnung, Arbeitsräume und die Verkehrsstrassen beschränkt wären, würde die grösste Gefahr für unsere geistige Gesundheit in sich enthalten. Der Vater der heutigen Natur- und Heimatschutzbewegung in Deutschland hat dieses Bedürfnis nach freier von keiner Zwecktätigkeit berührten Natur einmal treffend in die Worte gekleidet: „

Ich will im Walde nicht „geduldet" sein……Ich will das Recht haben, in der Welt und vor allem in meiner Heimat da meinen Fuss hinzusetzen, da Lebenslust und reine Luft zu atmen, wo ich meinem Nächsten weder schade noch ihn im Genuss seiner Güter störe. Welch ein unerträgliches Gefühl, die Erde ansehen zu sollen als ein Konglomerat von einzelnen Besitzeigentümern, die Welt abgesperrt denken zu müssen bis auf die Landstrassen und die paar Stellen, die die Gnade anderer für gut befindet, ihnen zu erfrischendem Aufenthalt anzuweisen."

和文獨譯

3. 和文英譯の和文に同じ

佛文和譯

1. La Science française ne date pas d'hier; et si l'on remonte aux origines lointaines, comme si l'on arrive aux temps voisins du présent, on constate que, souvent, à la source même d'où est sortie une nouvelle catégorie de connaissances humaines, est attaché un grand nom français.

Il est arrivé bien des fois dans l'histoire des grandes découvertes qu'une science, complètement insoupçonnée la veille, est, nouvelle Minerve, sortie tout armée, munie de sa méthode propre et de ses moyens d'action, du cerveau puissant d'un homme de génie. De ces hommes-là, la France a été la mère féconde; elle a enfanté, elle a instruit, elle a préparé, par sa douce et profonde culture, les Descartes, les Lavoisier, les Champollion, les Ampère, les Lamarck, les Claude Bernard, les Pasteur, les Berthelot.

2. Le pragmatisme se présente comme un moyen de concilier les exigences de l'idéalisme et les exigences de l'action. L'homme ne peut pas impunément penser sans agir et agir sans penser. Tout ce qui sépare la pensée de l'action est funeste et décevant. L'homme de pensée qui se dérobe à l'action, qui poursuit par le seul effort de l'intelligence la solution des problèmes qui nous tourmentent, qui remet tout en question, se condamne à l'impuissance, au scepticisme. Il doute de la possibilité de la science, de l'existence du monde

extérieur, de la liberté, de la morale. S'il ne se soustrait pas à l'obsession de sa propre pensée, il devient incapable de vivre. Celui qui, par tempérament ou délibérément, croira pouvoir prendre l'autre parti,——écarter toutes les préoccupations d'ordre intellectuel, tous les problèmes que l'esprit ne peut pas résoudre,——n'aura pas un sort plus heureux : il lui sera impossible de régler, d'organiser sa vie ; il se sentira à certains moments dégoûté de cette vie sans perspective qui ne peut lui procurer que des satisfactions purement matérielles. Chacun de ces hommes ne peut être heureux que s'il parvient à trouver la conception qui s'adapte le mieux aux exigences de sa vie, celle qui lui est le plus utile, celle qui le rassure, l'encourage, excite son zèle et son espoir. C'est à ces résultats qu'il reconnaît sa supériorité.

和文佛譯

3. 和文英譯の和文に同じ

(注意)
1. 佛文和譯に就きては同時に國語漢文の學力をも試驗す(文體隨意)。
2. 答案は三問題夫々別の紙に認め且各葉の問題の番號を記入すべし。
3. 席番號及氏名は所定の用紙以外に記入すべからず、此等を記入したる答案は之を無効とす。

◎東京帝國大學經濟學部

英文和譯 (甲)

1. The best way of dealing with a great author is, in the first instance, to go to him without much criticism, and with a receptive mind, and to let his way of thinking permeate into our minds, until it becomes part of their very substance. For, till we have done so, our criticism will not be adequate ; it will be wanting in sympathy, and it will rather tend to defend us against his spirit than enable us to appreciate it. When, however, we have for a long time submitted to such a powerful influence, when we have learned to live in the atmosphere of our author's ideas, so that we can almost anticipate the turn his thoughts will take on any occasion, it is advisable for us to change our method, to put him, so to speak, at arm's length, and to attempt calmly to estimate what we have got from him, and so to determine his proper place among the company of the wise to whom we return ever again and again, as the permanent possessions of our intellectual life. (百點)

2. I have not thought it necessary here to insist on that part of the functions of government which all admit to be indispensable, the function of prohibiting and punishing such conduct on the part of individuals in the exercise of their freedom as is clearly injurious to other persons, whether the case be one of force, fraud, or negligence. Even in the best state which society has yet reached, it is lamentable to think how great a proportion of all the efforts and talents in the world are employed in merely neutralizing one another. It is the proper end of government to reduce this wretched waste to the smallest possible amount, by taking such measures as shall cause the energies now spent by mankind in injuring one another, or in protecting themselves against iujury, to be turned to the legitimate employment of the human faculties, that of compelling the powers of nature to be more and more subservient to physical and moral good. (百點)

3. Few things are more difficult than to use aright arguments founded on the political experience of other countries. As the chief practical use of history is to deliver us from plausible historical analogies, so a comprehension of the institutions of other nations enables us to expose sometimes the ill-grounded hopes, sometimes the empty fears, which loose reports about those nations generate. Direct inferences from the success or failure of a particular constitutional arrangement or political usage in another country are rarely sound, because the conditions differ in so many respects that there can be no certainty that what flourishes or languishes under other skies and in another soil will likewise flourish or languish in our own. Many an American institution would bear different fruit if transplanted to England, as there is hardly an English institution which

has not undergone, like the plants and animals of the Old World, some change in America. (百點)

(注意)
1. 試驗時間ハ二時間トス。
2. 答案ハ三問題各別ノ紙ニ認メ且各葉ニ問題ノ番號ヲ記入スベシ。
3. 着席番號及氏名ハ所定ノ用紙以外ニ記入スベカラズ。
4. 上記課文ニヨリ國語ノ學力ヲモ考査ス。

以下各科ト同ジ。

英文和譯 (乙)

1. The people who founded this country were a selected group with high ideals, for most of them came in protest against parts of the European system, seeking religious freedom, greater political liberty, escape from the blight of class, the demand for equality of opportunity. They were those of the large initiative and greater courage. They were people of independence of thought and action. They were a unique selection of a new people for a new country.

This courage and this dependence upon individual initiative were further developed and strengthened by the ceaseless contest with the wilderness in an ever extending frontier, yet this very struggle bred within the race a capacity for coöperation in action and emergency. America, therefore, started with changed social direction, which diverged even further from Europe as it progressed amid its new environment. The inherent instincts of individual initiative and for coöperation and organization grew without this new setting. Thus we finally developed a political and a social system widely apart not only from our mother races, but new in the whole annals of the world. (百點)

2. The part which systematic scientific reasoning plays in the production of knowledge resembles that which machinery plays in the production of goods. For when the same operation has to be performed over and over again in the same way, it generally pays to make a machine to do the work; and where there is so much changing variety of detail that it is unprofitable to use machines, the goods must be made by hand. Similarly in knowledge, when there are any processes of investigation or reasoning in which the same kind of work has to be done over and over again in the same kind of way, then it is worth while to reduce the processes to system, to organize methods of reasoning and to formulate general Laws.

It is true that there is so much variety in economic problems, economic causes are intermingled with others in so many different ways, that exact scientific reasoning will seldom bring us very far on the way, to the conclusion for which we are seeking. But it would be foolish to refuse to avail ourselves of its aid, so far as it will reach:—just as foolish as would be the opposite extreme of supposing that science alone can do all the work, and that nothing will remain to be done by practical instinct and trained common sense. (百點)

3. It is easy in these times to put the case against any existing institution. Most of us are in a highly critical mood, because we feel that during the last few years things have happened which ought never to have happened, and that these earth-shaking events were not well met and handled, especially on their economic side. We have seen the whole fabric of civilization in danger and a desperate battle raging to save it, and we have felt that, if civilization had been better, and the governors of the nations had been more worthy of their charge, it could never have contained the seeds of such danger, or the seeds ought never to have been allowed to sprout and blossom. During the contest we have seen the best men in all the countries concerned —the best in strength of body, courage and devotion —suffering untold hardships, wounds and death, while the next best and the worst have stayed at home and have in many cases made large fortunes, or greatly increased their wealth. A world crisis which ends in enormous destruction of life and property, and at the same time in the enriching of many of those who were not good enough, in mind and body, to risk their lives to meet it, seems to be a piece of sheer stupidity and injustice. It is no wonder that many impatient minds are driven to the conclusion that every institution which existed at the time when these crimes and absurdities were perpetrated should be cut down, rooted out and

cast upon the dust heap. (百點)

佛文和譯

1. La base psychologique fondamentale de la production est l'initiative stimulée par le risque et le profit. Dès que la responsabilité s'évanouit, comme dans l'organisation anonyme de l'Etat, l'initiative disparaît. Quelle raison aurait le fonctionnaire de s'intéresser à un travail dont il ignore le rendement et ne retire aucun profit? Il est d'ailleurs enveloppé dans un réseau de circulaires et de règlements qui lui interdirait la moindre initiative si, par hasard, il y songeait. Cette initiative serait, d'autre part, immédiatement paralysée par l'intervention de ses chefs. Avec la meilleure volonté du monde il ne peut être que le rouage d'une machine. Observer strictment le règlement, c'est tout ce qu'on lui demande. (百點)

2. La monnaie est un instrument qui, dans les échages, sert de mesure et par lui-même est un équivalent. Cette définition de la monnaie, qni représente comme inséparables les deux qualités de mesure et d'équivalent, ressort clairement de la pratique des peuples civilisés, à l'origine de la monnaie et depuis. On la trouve dans les écrits anciens sur la matière. Quand Aristote s'est proposé de déterminer la nature de la monnaie, il a mis en relief, avec cette précision qui lui était propre, ce double caractère de mesure et d'équivalent. "On convint, dit-il, de donner et de recevoir dans les échanges une matière qui, utile par elle-même, fût aisément maniable dans les usages habituels de la vie; ce fut du fer par exemple, de l'argent, ou telle autre substance dont on détermina d'abord la dimension et le poids, et qu'enfin, pour se délivrer des embarras d'un continuel mesurage, on marqua d'une empreinte particulière, signe de sa valeur." (百點)

3. Les hommes jouissent de certains biens que la nature leur accorde gratuitement, tels que l'air, l'eau, la lumière du soleil; mais ce ne sont pas ces biens auxquels, dans l'acception commune, ils donnent le nom de richesses. Ils le réservent pour ceux qui ont une valeur qui leur est propre, et qui sont devenus la propriété exclusive de leurs possesseurs, tels que des terres, des métaux, des monnaies, des grains, des étoffes, des marchandises de toutes les sortes. Si l'on donne aussi le nom de richesses à des contrats de rentes, à des effets de commerce, il est évident que c'est parce qu'ils renferment un engagement pris de livrer des choses qui ont une valeur par elles-mêmes. (百點)

獨文和譯

1. Einen Gegensatz zur Scholastik bildet die mittelalterliche Mystik, als Philosphie des Gefühls, als feste Ueberzeugung, durch Versenkung in die Innerlichkeit des Gemüts, der eigenen Seele, der tiefsten Geheimnisse habhaft werden zu können, das Göttliche unmittelbar zu erfassen, zu erschauen; eine gewisse Neigung zum Pantheismus, zur Findung der Gottheit in der Welt, der Welt in Gott ist bei den Mystikern bemerkbar. Unter den deutschen Mystikern ragt durch die Tiefe seines Denkens, durch die Kraft spekulativer Phantasie und durch die bilderreiche, dabei oft schlichtvolkstümliche Ausdrucksweise Meister Eckart hervor, neben dem Tauler, Suso erfolgreich als Prediger wirkten. Indem die Mystiker sich der deutschen Sprache bedienten, deutsche Gemütstiefe besassen, wirkten sie als Gegendamm gegen den lateinisch-romanischen Geist, übten sie Einfluss auf grössere Schichten des Volkes. Obwohl treue Mitglieder der Kirche, wagten sie es doch in freierer, kühnerer Weise zu denken als die Scholastiker, und die Ideen eines Eckart haben auch für die neuere Philosophie ihre Bedeutug nicht eingebüsst. (百點)

2. Zwischen dem Individuum und der Menschheit steht die Nation, mit ihrer besonderen Sprache und Literatur, mit ihrer eigentümlichen Abstammung und Geschichte, mit ihren besonderen Sitten und Gewohnheiten, Gesetzen und Institutionen, mit ihren Ansprüchen auf Existenz, Selbständigkeit, Vervollkommnung, ewige Fortdauer und mit ihrem abgesonderten Territorium; eine Gesellschaft, die, durch tausend Bande des Geistes und der Interessen zu einem für sich bestehenden Ganzen vereinigt, das Rechtsgesetz unter sich anerkennt und als Ganzes andern Gesellschaften ähnlicher Art zurzeit noch in ihrer natürlichen Freiheit gegenübersteht, folglich unter den bestehenden Weltverhältnissen nur durch eigene

Krätte und Mittel Selbständigkeit und Unabhängigkeit zu behaupten vermag. (百點)

3. „Lieber Kolb, ich habe schon zehnmal angefangen an die Meinigen zu schreiben, an mein treffliches Weib, an meine herrlichen Kinder; aber Kopf, Hand und Feder versagen mir diesen Dienst. Möge der Himmel sie stärken!—Starke Bewegung und ein kurzer Aufenthalt in einem wärmeren Lande sollten mich wiederum in den Stand setzen, zu arbeiten, aber mit jedem Tage vermehrten sich auf der Reise Kopfschmerzen und Beklemmung. Dazu das schauderhafte Wetter! Ich kehrte in Schwaz um, kam aber nur bis Kufstein, wo ich liegen blieb und noch liege in melancholischer Stimmung, da mir alles Blut nach dem Kopfe sturmt—besonders Morgens. Und dazu die Zukunft—ohne Einkommen von meiner Feder würde ich, um zu leben, das Vermögen meiner Frau (ich habe keins) aufzehren müssen, das noch lange nicht für sie allein mit den Kindern zureichen würde—nur zum allernothdürftigsten Auskommen.—Ich bin der Verzweiflung nahe.—Gott erbarme sich meiner Angehörigen. Seit vier Tagen

nehme ich mir jeden Abend und heute zum fünften Mal vor, nach Augsburg zu gehen, und jeden Morgen werde ich wieder rückfällig. Was Sie und andere Freunde an den Meinigen thun, wird Ihnen Gott lohnen. Leben Sie wohl. Fr. List." (百點)

◎東京帝國大學工學部

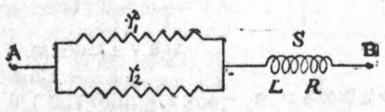
物　　理　　(二時間)

1. 一つの物體系が任意の等溫、可逆、輪業作(Isothermal, Reversible, Cyclic process) をなしたるときは其の物體系が外界になしたる仕事の總和が零なることを證明せよ。
2. 流體の屈折率(Refractive index of light) 測定法を列擧し、各々に對する原理を簡單に說明せよ。
3. 自己インダクタンス(Coefficient of self—induction) L、抵抗 R を有するコイル S と二個の抵抗 r_1, r_2 とを圖の如く接續し、其の兩端 AB 間に一定電壓 E を加へたるとき、S に蓄へらるる電磁エネルギー P 及び S 中に發生する熱量 Q が最小なるべき r_1 と r_2 との比を求めよ。但し

r_1+r_2 を一定に保つものとす。

次に $r_1+r_2=200$ オーム、L=0.5 ヘンリー、R=5 オーム、E=100 ヴオルトなるときの P 及び Q の最小値を算出せよ。

$r_1+r_2=200$ オーム
L　=0.5 ヘンリー
R　=．5 オーム
E　=100 ヴオルト



外　國　語　　(一時間半)

1. 次の文章を英獨佛何れか一國語に飜譯せよ。

吾々が專門として工學を選んだ事には何か根據がなければならない。此の根據は吾々の趣味にあることもあり卒業後の社會的地位にあることもあり或は何か人生のもつと深い意味にあることもある。

2. 次の文章(a)(b)(c)の中の何れか一つを邦譯せよ。

(a) In all other kind of energies except that of man's mind, there is no question as to what is life, and what is not. Vital sensibility, whether vegetable or animal may, indeed, be reduced to so great feebleness, as to render its existence a matter of question, but when it is evident at all, it is eviden tthat no mechanism can take its place.

(b) Jeder individuelle Mensch, kann man sagen, trägt nach Anlage und Bestimmung einen rein idealischen Menschen in sich, mit dessen unveränderlicher Einheit in allen seinen Abwechslungen übereinzustimmen die grosse Aufgabe seines Daseins ist.

(c) L'intelligence n'y perd rien, puisque la sensibilité est formée de tout le passé, de ce qu'ont pensé les ancêtres non moins que de ce qu'ils ont senti. l'inconscient d'aujourd'hui est pour beaucoup le fruit des idées claires d'autrefois.

化　　學　　(二時間)

1. 化學反應速度を大ならしむる條件に就き例を擧げて述べよ。
2. ベンゾール(ベンゼン)よりトルオール(トルエン)を得る

方法並にトルオールよりベンゾールを得る方法に就て述べよ。

3. 過酸水に炭酸カルシウムを加ふる時は如何なる變化を起すか。

數　　學　　(二時間半)

1. 速度 v を以て直線運動をしてゐる質量 M の物體が、その内部に蓄へられたエネルギー E によつて、質量 m_1 及び m_2 の二個に爆破され。各破片は前と同じ直線上で運動を續けるとすれば、二個の相對速度及び各の速度は如何、但し爆破の際にエネルギー E は全部運動のエネルギーに變化したとする。

2. x の値が小なるときに

$$y=\frac{1}{e}(1+x)^{\frac{1}{x}}$$

の値を近似的に計算する公式を作り、$x=\frac{1}{100}$ の場合に應用して y の値を小數點以下四桁まで計算せよ。

3. 直角座標軸によつて次の式:

$$x=a\cos^3\theta,\quad y=a\sin^3\theta \qquad (a \text{ は常數})$$

の表はす曲線の略圖を描き、且つ原點より此の曲線上の任意の點に至る距離の極大値及び極小値を求めよ。

4. 次の積分を行へ:

$$\text{(a)}\ \int\frac{dx}{x\sqrt{1-x^2}},\qquad \text{(b)}\ \int e^{ax}\cos bx\,dx.$$

◎東京帝國大學理學部

數　　學　(力學ト共ニ二時半)

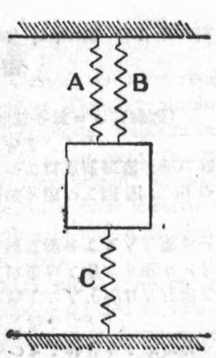
1. x 及ビ y ヲ互ニ獨立ナル變數トシテ、$(\sqrt{x^2+y^2}-1)^2$ ノ極大値及ビ極小値ヲ求メヨ。

2. 曲線ノ追跡ニヨリ、方程式 $\tan x=\frac{x}{a^2+x^2}$ ノ實根ノ所在ヲ定メヨ。

3. 方程式 $x^2+(y-a)^2=2a^2$ ノ表ハス圓ノ横軸ノ一方ニアル優弧ガ横軸ヲ軸トシテ一廻轉シテ生ズル曲面ノ包圍スル體積ヲ求メヨ。

力　　學

1. 1 瓩の錘が圖のやうに三本の螺線バネ AAC で支へられて靜止して居る。AB の上端及び C の下端は固定してある。今三本のバネが、强さも伸ばさないときの長さ (l_0 糎) も全く同樣であり、且つ圖の位置でも同じ長さ l 糎になつてゐるとすれば、この錘を上下に少し移して放つときに起る振動の週期はいくらか。



2. 周邊に調帶を掛けてモートルで廻すハズミ車がある。ハズミ車の半徑が 30 糎、質量が 20 瓩で、質量の半分は周邊にあり、半分は同大の一樣な圓板をなして居る。モートル、は調帶のかかつて居る車の半徑が 10 糎で、廻り始めてから 5 秒の後に全速毎分 2400 回轉になる。然らば、この間にハズミ車にかけてある調帶の二つの部分に働く張力の差はいくらか。

物　理　學　　(二時間)

1. 固體に關する摩擦の諸法則を述べよ。

2. 數個の導線が直列又は並列に連結せられるときの全電氣抵抗を與へる式を導き出せ。

3. スペクトル線の逆轉 (reversal) とは何か。これを吸收輻射の法則により如何に說明するか。

4. ピストンを具へた金屬製の圓筒が 0°C. の氷の中に埋まつて居る。最初圓筒内に一氣壓の空氣があつたのを徐々に壓縮して十氣壓にするとすれば、周圍の氷が幾瓦融解するか。但し圓筒の半徑=7 cm.; 最初の空氣柱の長さ=20cm.; 氷の融解の潛熱=80cal./g.; 熱の仕事當量 $=4\cdot2\times10^7$ erg/cal.; $\log_e 10=2\cdot3$.

化　　學　　(一時間半)

1. 下の方程式を完結せよ。

(a) $Na_2SO_3+S=$

(b) $2H_2SO_4+S=$

(c) $K_2Cr_2O_7+S=$

(d) $(NH_4)_2S+S=$

2. 水と食鹽とより成る二成分系の平衡圖を描き雪と食鹽とを混ずるとき起る現象を記せ。

3. 次のものに就き知るところを記せ。

(a) 人造絹絲

(b) 人造バター

(c) 人造藍

4. 1瓦のアムモニア瓦斯を充分なる酸素と混じ1氣壓の下にて燃燒せしめ窒素と水とになすとき 5326 カロリーの熱量を發出す。又1瓦の酸素を充分なる水素と混じ1氣壓の下にて燃燒せしめ水となすとき 4275 カロリーの發熱あり。1氣壓の下に於けるアムモニア瓦斯1瓦の生成熱を求む。

和文獨譯 (英佛獨ノ內一語)

1. Graham Bell が物理學者であつたら始めから不可能だと思つて電話機を發明しなかつたであらう。
2. Sir Humphry Davy は時を倹約した人で汚れた洋服の上に綺麗なのを著たりシヤツを五枚重ねて著たり靴タビを數足はいたりし減る時は太り減る時は痩せて友人を驚かせた。
3. 昔米國では鯨を殺し油をとり蠟燭を造つて照明に用ひた、石油が多量にとれるようになつて以來捕鯨業が頓に衰微した、鯨は石油に感謝すべきである。

(外國語全部ニテ二時間)

英文和譯

1. The Scientist, like the Poet, is born, not made.

1図

One of the first of the many lines of inquiry before the aspirant to a scientific career is the self-examination: "Am I really a born scientist? Am I so endowed by Nature that I can follow in the footsteps of the men, great and small, who have made Science what it is?" There must be within the aspirant, therefore, not only the will to conquer, but also the belief, though a kind of spiritual and intellectual impulse, as well as of self-confidence, that he can conquer in the end. Even with this will-power and self-confidence a long period of apprenticeship and self-experiment is necessary before the novitiate can positively ascertain whether he has the natural gifts that will enable him to achieve even a reasonably successful career in Science.

2. The one great force of life is its renewing and creating power, which throughout all Nature marks the impassable line between the life-world and the matter-world. True education takes its keynote from the life-world; it must instill in young and old its renewing and creating power. (外國語全部ニテ二時間)

佛文和譯

1. Voilà notre état véritable. C'est ce qui nous rend incapables de savoir certainement et d'ignorer absolument. Nous voguons sur un milieu vaste, toujours incertains et flottants, poussés d'un bout vers l'autre. Quelque terme où nous pensions nous attacher et nous affermir, il branle et nous quitte; et si nous le suivons, il échappe à nos prises, nous glisse et fuit d'une fuite éternelle. Rien ne s'arrête pour nous.

2. Quelques ruisseaux, bruissants sur le sable et les pierre, annoncent d'abord l'approche du fleuve. Puis, subitement, l'air s'emplit de moustiques et de moucheregns noirs, qui s'abattent sur nous en tourbillons aveuglants. Et, enfin, nous atteignons la ligne de fraîche et magnifique verdure qui contraste d'une façon si singulière avec les régions d'alentour: des saules, des coudriers, des tamaris, de grands roseaux emmêlés en jungle. Entre ces feuillages, qui le voilent sous leur épais rid eau, le Jourdain roule lourdem ent vers la mer Morte ses eaux jaunes et limoneuses; c'est lui qui, depuis des millénaires, alimente ce réservoir empoisonné inutile et sans issue. (外國語全部ニテ二時間)

獨文和譯

1. Der Ausgangspunkt und das Ziel jeder physikalischen Erkenntnis ist die Erfahrung; zwecks Beschreibung der Ergebnisse der Beobachtung darf der Physiker wohl Begriffe und Beziehungen zwischen physikalischen Grössen einführen, welcht unmittelbar der Beobachtung zugänglibh sind, aber er soll die Zahl dieser hypothetischen Begriffe und Beziehungen auf ein Minimum beschränken und stets darauf bedacht sein, experimentell zu prüfen, ob sie der Wirklicheit entsprechen. Die Erfahrung ist der oberste Richter über die Zulässigkeit der Begriffe und Beziehungen in der Physikalischen Erkenntnis.

2. Es gewährt selbst in den Punkten, wo man nicht glücklich war, eine besondere Befriedigung, mit Klarheit zu übersehen, was man zustande gebracht hat. Nichts ist schlimmer als Uuklarheit über das eigene Handeln. (外國語全部ニテ二時間)

1図